

2013 履修要項

機械システム工学科

理工学部

Faculty of Science and Technology

学部・学科英文名

龍 谷 大 学	Ryukoku University
理 工 学 部	Faculty of Science and Technology
数理情報学科	Department of Applied Mathematics and Informatics
電子情報学科	Department of Electronics and Informatics
機械システム工学科	Department of Mechanical and Systems Engineering
物 質 化 学 科	Department of Materials Chemistry
情報メディア学科	Department of Media Informatics
環境ソリューション工学科	Department of Environmental Solution Technology

この要項は、卒業するために必要な
事項がすべて記載されていますので
熟読の上、大切に保存してください

2013年度
理工学部 機械システム工学科 履修要項

2013年4月1日発行

編集発行 龍谷大学理工学部

〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5

印 刷 アインズ株式会社

は じ め に

新入生の皆さんは、縁あって本学理工学部に入學し、これからの学生生活に胸をはずませていることと思います。大学における生活は多面的かつ多彩ですが、その中心は勉学です。在学生の皆さんも、新学期を迎えて新たな決意と希望を持って勉学に取り組もうとしていることでしょう。

何事においてもそうですが、目標を設定し、その目標に向けて弛まぬ努力を行うことが大切です。皆さんの探究心や積極性、自主性がその支えとなります。大学生活を通して、基礎力と幅広い教養、そして自分で課題を見つけ出し、よく考えて解決していくような力を身に付けて欲しいと思います。また、敬いと思いやりのある人格を培いながら高い見識を身に付け、グローバルに貢献するために不断の研鑽を積んで欲しいと思います。

この冊子は、皆さんの努力を支援し必要な情報を提供するために編集されたものです。理工学部において勉学を進めていく上で必要となる、重要事項が網羅されています。

「履修要項」には単位制度の説明からはじまり、卒業必要単位数や進級要件、履修登録手続などの説明が書かれています。なお、「数学」、「理科」、「工業」、「情報」の教員免許状に関する教職課程の説明は別冊に書いています。

2011年度より、理工学部全学生を対象に「校友サポートネット」、「e-キャリアポートフォリオ」といったシステムを稼働しています。また、理工学部では初年次教育の一環として理工系基礎学力の定着を目指し、教員と学生アシスタントによる「フレッシュャーズ・ステップアップ・サポート（クラス会）」を定期的に開催するとともに、「理工学部初年次学習支援センター」を開設し、シニアアドバイザー・上級生が、数学・物理などの理工系基礎科目の個別学習指導を行い、初年次から手厚い学習支援態勢を整えています。

正課では、自分の将来にむけてのキャリア啓発の第一歩として、新入生対象に「キャリアデザイン」、2年次生対象に「キャリアプランニング」を、さらに3年次では、大学で修得した知識や技術が実社会でどのように役立つかを実地で学ぶため、国内外企業における実習科目を開講しています。これらを通し、初年次より自らのキャリア形成を意識することで、みなさんの就業力アップと社会的・職業的自立につながることを切に願っています。

また、本冊子を読んでみて不明点や疑問に思う点があれば、遠慮なく理工学部教務課の窓口にご相談に来て下さい。履修の仕方を誤ったがために卒業延期等の事態を招くことがないようにして下さい。

皆さんの学生生活が楽しく実り多いものとなることを願っています。

2013年4月

理工学部長 大柳 満之

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育にかかる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」「自立」「内省」「感謝」「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を育成する。

理工学部教育理念・目的

建学の精神に基づいて、科学と人間の調和を重視し、理学と工学における基礎から応用にいたるまでの広範な教育・研究を通じて技術の高度化に対し貢献できる高い倫理観を持った科学技術者を育成することを目的とする。

学位授与の方針〔学士（理学・工学）〕

理工学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

[学生に保証する基本的な資質]

(建学の精神)

○仏教、ことに浄土真宗に基づいた建学の精神、すなわち「平等」「自立」「内省」「感謝」「平和」の意味を深く理解している。

○豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

○科学技術の進歩に対応できる専門分野の基礎から応用にいたる知識を身につけている。

○英語についての基本的な知識を持ち、英語と日本語の基本的な成り立ちや機能の違いを理解している。

○幅広く社会全体を見渡すために必要な知識や教養を身につけている。

(思考・判断)

○科学技術が自然や社会に対してどのような影響力を持っているかをよく理解し、グローバルな視点から自律的にまた論理的に判断することができる。

○基本的な論理的思考能力を持ち、外国の文化や事情について柔軟かつ公正な思考、判断ができる。

○論理的能力・問題解決力を身につけている。

(興味・関心)

○問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学を継続的に行うことができる。

○広く日本を取り巻く国際情勢や文化に対する興味を持ち、国際的な視野から幅広い知識を身につけている。

(態度)

○高い倫理性をもって、専門的知識と技術を総合的に活用することができる。

○世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。

○日本語だけでなく英語を通じて、外国からの情報を得、文化を理解吸収しようとする姿勢を持つ。

(技能・表現)

○科学技術の進歩に対応できる基礎から応用にいたる専門の技術を身につけている。

○知的生産の技術を身につけている。

○国際化時代に対応できる英語で読む・書く・聴く・話すという四技能の基礎的運用能力を持っている。

[学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法]

- (1) 学部で4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- (2) 卒業認定を受けるためには、所定の134単位以上の単位数を必要とする。
- (3) 卒業認定を受けるためには、「特別研究論文（卒業論文）」を提出し、審査に合格しなければならない。

教育課程編成・実施の方針

理工学部の「教育理念・目的」、「学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専門科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境の向上・学習支援態勢を整備する。

- 仏教の思想と高い倫理性を養うための科目である「仏教の思想」（2科目）を必修科目として設置する。
- 視野の広い技術者となるために必要な幅広い教養を身につけるため、教養教育科目を人文社会学系学部と共同で開講する。
- 国際化に対応できる語学力を身につけるため、読む・書く・聞く・話すことを基礎とする英語科目を1年次から連続して開講し、その後、理工学部専任教員による科目においてより専門的かつ実践的な英語教育を展開する。
- 専門科目を1年次から配置して、基礎から応用への体系的なカリキュラム体制とする。専門基礎科目においては、講義科目と演習を組み合わせ、知識を確実に身につけさせる。加えて、外部講師による最先端の科学に関する講義科目や「学外実習」等の企業現場や実地研修を行うインターンシップ型科目を専門の講義科目と併せて行う。

学生支援（修学支援、学生生活支援、キャリア支援）の方針

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の 3 つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- 修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- 留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- 障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- 本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、保健管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人間的成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学的および体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくように取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to face の面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

2013年度 学 年 暦

	日	月	火	水	木	金	土	
4月		1	2	3	4	5	6	1 学年始 2 入学式（瀬田）
	7	8	9	10	11	12	13	3～8 履修指導期間 9 第1学期授業開始
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	29 昭和の日（授業実施日）
5月	28	29	30					
				1	2	3	4	3 憲法記念日 4 みどりの日 5 こどもの日
	5	6	7	8	9	10	11	6 振替休日（授業実施日）
	12	13	14	15	16	17	18	13～17 履修辞退受付期間 15 降誕会（5講時以降休講）
	19	20	21	22	23	24	25	18 降誕会（瀬田） （全学授業実施日）
6月	26	27	28	29	30	31		21 創立記念・降誕会 （全学終日休講）
						1		1 水曜5講時以降 8回目分
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	21 ご生誕法要（瀬田）
7月	23	24	25	26	27	28	29	
	30							
		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	15 海の日（授業実施日）
8月	21	22	23	24	25	26	27	24～25 集中補講日 27 第1学期授業終了
	28	29	30	31				29～8/5 第1学期試験期間
				1	2	3		
	4	5	6	7	8	9	10	5 定期試験予備日 6～10 集中講義Ⅰ
	11	12	13	14	15	16	17	6～9/7 夏期休業 11～18 一斉休暇
9月	18	19	20	21	22	23	24	21～23 追試験期間
	25	26	27	28	29	30	31	26～9/7 集中講義Ⅱ 26～9/14 理工学部学外実習
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	9 第2学期開始 履修指導期間
	15	16	17	18	19	20	21	16 敬老の日 19 9月卒業式・入学式
10月	22	23	24	25	26	27	28	20 第2学期授業開始 23 秋分の日（授業実施日）
	29	30						
11月						1	2	14 体育の日（授業実施日） 18 報恩講（全学終日休講） 21 ご生誕法要（瀬田）
	3	4	5	6	7	8	9	21～25 履修辞退受付期間 26～27 龍谷祭（瀬田） （26 全学終日休講）
	10	11	12	13	14	15	16	2～4 龍谷祭（深草） （2 全学終日休講）
	17	18	19	20	21	22	23	3 文化の日 4 振替休日
12月	24	25	26	27	28	29	30	21 ご生誕法要（瀬田） 23 勤労感謝の日（授業実施日）
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	23 天皇誕生日（授業実施日） 24 土曜日13回目分
1月	22	23	24	25	26	27	28	25～1/5 冬期休業 29～1/5 一斉休暇
	29	30	31					
				1	2	3	4	1 元日
	5	6	7	8	9	10	11	6 授業再開 13 成人の日
2月	12	13	14	15	16	17	18	20 第2学期授業終了 21～22 集中補講日
	19	20	21	22	23	24	25	23～29 第2学期試験期間 26 定期試験予備日
	26	27	28	29	30	31		30～3/31 春期休業
							1	
3月	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	11 建国記念の日 14～17 追試験期間
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
4月	30	31						

⚠ 注意事項

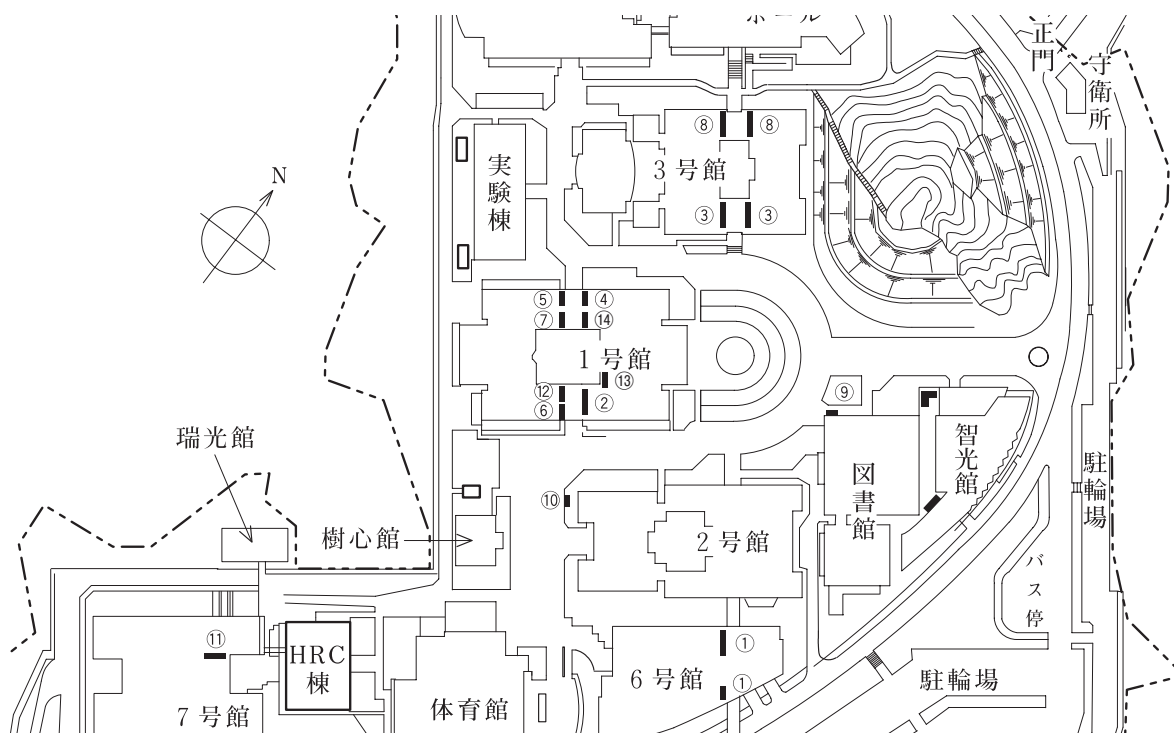
- ご生誕法要は、12時15分から13時15分です。2講時の授業終了を15分繰りあげて実施します。
- 土曜日の3・4講時にも補講が行われる場合があります。

	授業日
	補講期間
	定期試験

大学からの連絡・通知の掲示

円滑な学生生活を送るために必要な情報が伝達されます。

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行われます。掲示を見落としたために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけましょう。電話による問い合わせについては、間違いが起こり得ますので一切応じません。



掲 示 板

学部掲示板

大学全般に関する連絡

学内行事・窓口業務についての連絡・呼び出し・その他

授業に関する連絡

授業・休講通知・教科についての一般事項

定期試験・追試験に関する連絡

①…社会学部教務課

②…理工学部教務課

③…国際文化学部教務課

⑪…理工学部（補助的運用）

⑬…理工学部（臨時的運用）

学生部（瀬田）、瀬田教学部

④奨学金

⑫学生生活

⑥教職関係

キャリアセンター（瀬田）掲示板

⑤インターンシップ関係

⑦就職ガイダンス関係

⑭就職・資格講座等に関する連絡

国際交流関係掲示板 ⑧

図書館関係掲示板 ⑨

宗教部専用掲示板 ⑩

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所を変更する場合があります。

…登校したら掲示板を
下校前にも掲示板を…

休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報を本学のポータル上で次のとおり公開しています。

(1) アクセス方法 <パソコン用>

本学ホームページ (<http://www.ryukoku.ac.jp/>) の「ポータルサイト (学内者向け)」からアクセスしてください。

ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

<携帯電話用>

携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。

(2) 公開の範囲 本学開講科目

(3) 公開の期間 <パソコン用>

休講：休講日を含めて30日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更 (臨時)：変更日を含めて30日分を表示しています。

教室変更 (恒常)：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

<携帯電話用>

休講：休講日を含めて3日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更 (臨時)：変更日を含めて3日分を表示しています。

教室変更 (恒常)：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

(4) 注意事項 ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。

・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※ポータル上での公開情報はあくまでも補足的なものです。必ず理工学部の掲示板で確認するよう心がけてください。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※他学科等のシラバスについては理工学部HP (<http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/>) を参考にして下さい。

※休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。パソコン用ポータルの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。

ガイダンス

新学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

最初のガイダンスでは、みなさんが学修の履修計画を立てたり、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、教職など諸資格取得のためのガイダンスも開催されます。これらの連絡は、掲示により行われるので十分注意しなければなりません。

2013年度 理工学部学年始ガイダンス日程

<書類配布、説明会等日程>

行事 年次	成績表・書類配布 履修説明会	学科別履修説明会
新 入 生	4月4日（木）9：00集合	左記書類配布等終了後
新2年次生	3月21日（木）9：30集合	左記書類配布等終了後
新3年次生	3月21日（木）13：30集合	左記書類配布等終了後
新4年次生	3月21日（木）15：30集合	左記書類配布等終了後

⚠️注意事項

- 大切な伝達事項等があるので、上記の日程には必ず出席してください。
なお、やむを得ず出席できない場合は、事前に理工学部教務課に連絡の上、指示を受けてください。
- 書類配布日には、成績表、登録関係書類等を配布するので、学生証を持参のうえ、必ず本人が受け取りに来てください。

<各説明会会場>

学 科	教 室	
	新入生	2～4年次
数理情報学科	8号館101教室	3号館101教室
電子情報学科		3号館102教室
機械システム工学科	7号館講義室1	3号館105教室
物質化学科		3号館107教室
情報メディア学科	7号館講義室2	7号館講義室1
環境ソリューション工学科		7号館講義室2

☆成績の疑義申し出については、成績表配布日を含めて3日間（土・日除く）です。
申し出は、理工学部教務課で行ってください。

<履修登録日程>

	予備登録期間	受 付
全 年 次 (新入生除く)	3月21日（木）9：00～3月25日（月）13：00（2：00～7：00除く） 発表：4月8日（月）9：00～Web登録画面にて発表 ※ただし、英語（再）の予備登録については、別途掲示板で指示	Web予備登録画面
	事前登録期間	受 付
全 年 次 (新入生除く)	3月21日（木）9：00～3月25日（月）13：00（土・日除く）	Web登録画面
	授業科目受講登録期間	受 付
全 年 次	4月8日（月）9：00～4月12日（金）16：00（2：00～7：00除く）	Web登録画面

2013年度 学生定期健康診断日程表(理工学部)

対 象 学 年	性別	月 日	受付時間	受検場所	健診項目
新入生	男性	4月 8 日 (月)	9 : 00 ~ 12 : 00	瀬田学舎 4号館 1階	胸部X線 身体計測 尿検査 問診 内科診察 (必要時)
	女性	4月 4 日 (木)	14 : 00 ~ 16 : 30		
2年次生	男性	4月 4 日 (木)	9 : 00 ~ 12 : 00		
	女性	4月 3 日 (水)	9 : 00 ~ 12 : 00		
3年次生 編転入生	男性	4月 4 日 (木)	9 : 00 ~ 12 : 00		
	女性	4月 3 日 (水)	9 : 00 ~ 12 : 00		
4年次生以上 大学院生 介護等体験実習生	男性	4月 5 日 (金)	13 : 00 ~ 16 : 30		上記項目 + 視力
	女性	4月 3 日 (水)	9 : 00 ~ 12 : 00		

※健康管理カード（問診票）・尿容器は履修説明会時に配布します。詳細はホームページ・ポータルサイトで案内しますので確認してください。

注意事項

1. **学生証**を持参のこと。
2. 当日は混雑が予想されます。時間に余裕をもって受検すること。
3. 指定日時に受検できない場合は**他学部の同学年・同性の時間**に受検すること。
4. 2・3年次生（編転入含む）で今年度に介護等体験実習を予定している学生は、視力検査が必要です。4年次生以上・大学院生の日時で受検すること。
5. 服装は、無地でボタン・装飾のないTシャツとし、アクセサリーはつけないこと。
6. 貴重品は各自が責任をもって管理すること。
7. 健康管理カード（問診票）と採尿容器は健康診断前日までに学部教務課または保健管理センター窓口に取りに来ること。
8. 当日は**健康管理カード（記入しておくこと）**・**尿容器（採尿した）**を持って受付すること。
※受付後に、採尿することのないように！
9. この期間中に健康診断を受検しないと2013年度中の診断書の発行はできない。
10. 社会人等で職場などの定期健康診断（本学における実施項目を含んでいるもの）を受検している場合は、その結果のコピーを提出することによって受検に替えることができる場合があるので保健管理センターに相談すること。

心身ともに健康な学生生活を送るために ～保健管理センターの利用について～

1. 保健管理センターについて

【主な業務】

- (1) 健康管理業務
 - ①健康診断および健康診断後の保健指導
 - ②健康に関する相談
 - ③精神科医、心理カウンセラーによるメンタルヘルス相談
 - ④健康に関する調査・研究・教育
- (2) 健康増進活動業務
 - ①健康増進のための各種セミナーや学習会の開催
 - ②禁煙教育とサポート
- (3) 診療業務
 - ①診療（内科・精神科）※健康保険証が必要
 - ②応急処置
 - ③外部医療機関紹介

2. 定期健康診断について

【検査項目】

＊身長、体重、胸部レントゲン、尿検査（蛋白・糖）、問診、視力（対象者のみ）、内科診察（必要時）

【実施時期など】

- ＊4月の第1週目に実施します。指定された日に受けてください。指定日に受けられない場合は、他学部の高学年の同性の指定日に受検してください。
- ＊大学での健康診断実施日程終了後は保健管理センターでの健康診断を行いませんので、必ずこの期間内に受検するように注意してください。
- ＊勤務先で健康診断を受ける方は結果（コピー可）を保健管理センターに提出してください。
- ＊詳細は掲示板や保健管理センターのホームページなどで確認してください。

3. 健康診断証明書・健康診断書の発行について

健康診断証明書・健康診断書は、本学の定期健康診断の結果に基づいて発行します。

従って、本学の定期健康診断を受けていない場合は発行できません。

【健康診断証明書について】

- ＊「健康診断証明書」は自動発行機で発行します。用途は就職活動や本学に提出する各種実習受講、奨学金申請等に限られます。

【健康診断書について】

- ＊進学や大会参加、アルバイトなどで使用する健康診断書は医師の診察が必要です。発行までに数日かかることがありますので、指定用紙や要項を持参の上、余裕をもって申し込んでください。

4. 保健管理センターの利用について

① 応急処置や休養室の提供

医師の診療時間以外に体調が悪くなった時やケガをした時、看護師が応急処置や静養室の提供を行っています。状態により医師の診察が必要な時は外部医療機関を紹介します。

② 健康相談

健康上の相談や悩みも気軽に相談してください。必要に応じて看護師が窓口になり、カウンセラーや医師に紹介します。

③ 保健・医療に関する情報提供

保健管理センターには身長体重計・体脂肪計・視力計・血圧計が設置されています。自己の健康管理に利用してください。

大学近辺の医療機関のご案内や健康情報などをホームページに掲載していますのでご利用ください。

URL：<http://www.rvukoku.ac.jp/hoken>

【開室時間】

〔深草学舎・大宮学舎〕 8：45～17：15

〔瀬田学舎〕 9：00～17：30

※休業期間等は開室時間の変更があります。

5. 診療所について

【診療科名】 内科・精神科

【診療日及び時間】 詳細は、保健管理センターのホームページで確認してください。

【費 用】 診療には、「健康保険証」が必要です。コピーの健康保険証は使用できません。

※扶養者と別居している方で、ご自身の健康保険証を持ってない方は、「遠隔地被保険者証」を取り寄せてください。

※医師の診察を受けずに薬だけお渡しすることはできません。症状は、体からの「SOSサイン」ですので、必ず医師の診察を受けてください。

6. 学生相談（こころの相談室）について

学生生活全般に関するさまざまな相談（対人関係、学業・進路、心身の健康等）に、カウンセラー（臨床心理士）が応じ、学生生活支援を目的とした心理的なサポート等を行います。相談は予約制（無料）です。相談の申込は、下記受付窓口まで電話していただくか、またはポータルサイト上でのweb予約も可能です。詳しくは、保健管理センター「こころの相談室」のホームページをご覧ください。また、直接窓口での申込も可能ですのでお問い合わせください。

【受付窓口】

「こころの相談室」への問い合わせは、下記までご連絡ください。

月～金曜日 9：00～17：00（12：30～13：30を除く）

(1) 深草学舎・大宮学舎 電話 075-642-1111（代表） 内線1254

(2) 瀬田学舎 電話 077-543-5111（代表） 内線7781

* なんでも相談室もあわせてご利用ください *

学生生活を有意義に送ることができるよう、深草・瀬田学舎は学生部内に、大宮学舎は西翼2階に「なんでも相談室」を設けています。学生生活でのあらゆる相談や問い合わせを受け付ける「よろず相談窓口」です。相談に応じて、アドバイスや情報の提供、適切な相談先への紹介も行っています。予約は不要です。どんな小さなことでも気軽に訪れてください。

※学生部の「なんでも相談室」は、保健管理センターの「こころの相談室」とも連携しています。希望に応じて、カウンセラー（臨床心理士）による相談を受けることもできます。医療機関への案内も行っています。

7. 健康増進のための学習会やイベントについて

心身ともに健康な学生生活が過ごせるよう、健康学習会や健康に関するさまざまなイベントなどを行っています。詳細については、ホームページやポータルサイト等で随時案内しますので積極的に参加してください。

目 次

はじめに

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の教育にかかる基本方針

理工学部教育理念・目的

理工学部 学位授与の方針

理工学部 教育課程編成・実施の方針

2013年度学年暦

大学からの連絡・通知の掲示

ガイダンス

2013年度学生定期健康診断日程表（理工学部）

保健管理センター利用について

履修の心得

I 履修をはじめるにあたって	2
1. 長期的な履修計画を立てること / 2. 系統的に科目を履修すること	
3. 自主的に学修をすること	
II 単位制度と単位の認定	3
1. 単位制度 / 2. 単位とは / 3. 単位の認定 / 4. 履修登録制度	
5. 授業科目の履修 / 6. 履修辞退制度 / 7. 授業時間 / 8. 卒業要件単位および学士号	
9. 進級制度 / 10. セメスター制 / 11. 入学前に修得した単位の認定	
III 履修登録	8
1. 履修登録手続のスケジュール / 2. 履修登録に際しての注意事項 / 3. 履修登録制限	
4. 予備登録 / 5. 履修登録要領 / 6. 履修登録の確認	
IV 成績評価	12
1. 成績評価の方法 / 2. 成績評価の基準 / 3. 成績疑義 / 4. 平均点とGPA	
V 筆答試験	14
1. 試験の時期 / 2. 受験資格 / 3. 受験の注意事項 / 4. 答案の無効	
5. 筆記試験における不正行為 / 6. 追試験 / 7. 筆答試験時間	
8. レポート試験における不正行為	
VI 教育支援	17
1. 学科の委員 / 2. クラス担任制 / 3. 教員との面談 / 4. T.A.制度 / 5. チューター制度	
6. 理工学部初年次学習支援センター / 7. L.A.制度 / 8. ライティングセンター / 9. その他	

教育課程

I 理工学部の教学理念と教育目標	20
II 機械システム工学科の教学理念と教育目標	22
III 教育課程の編成・履修方法	24
1. 授業科目の区分 / 2. 必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目	
3. 各科目の履修方法について	
①教養教育科目（共同開講科目）の履修方法	25
1. 必修科目の履修について / 2. 学科指定・クラス指定 / 3. 予備登録について	
4. 先修制について / 5. 予備登録について（総合科目）	
6. 教養教育科目特別講義の履修について / 設置科目	

②教養教育科目（共同開講科目）カリキュラム対照表	35
1. 教養教育科目基礎科目	
2. 教養教育科目総合科目	
③固有科目の履修方法	38
1. 学部内共通科目の履修方法 ／ 2. 学科固有科目の履修方法 ／ 3. 卒業・進級の要件	
4. 設置科目 ／ 5. カリキュラムフローチャート	
④学科固有科目カリキュラム対照表	56
⑤他学科科目の履修について	58
⑥単位互換制度について	59
⑦日本技術者教育認定機構（J A B E E）について	63
⑧卒業年次生の大学院授業科目の履修について	64
Ⅳ 諸課程等の履修方法	65
①教職課程	65
②本願寺派教師資格課程	65
③特別研修講座・各種講座・試験	66
Ⅴ 協定型インターンシッププログラム	67
Ⅵ 放送大学科目の受講について	69

学修生活

Ⅰ 窓口事務	74
1. 学部窓口取扱時間 ／ 2. 届書・願書および各種証明書	
3. 各種証明書の交付について ／ 4. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて	
Ⅱ 授業休止の取り扱い基準	78
1. 全学休講とする場合 ／ 2. 授業等の開始基準 ／ 3. その他の注意事項	
Ⅲ 学籍の取り扱い	80
1. 学籍とは ／ 2. 学籍簿 ／ 3. 学生証 ／ 4. 学籍の喪失 ／ 5. 休学と復学	
6. 年次 ／ 7. 再入学 ／ 8. 編入学・転入学 ／ 9. 9月卒業について	
Ⅳ 留学	85
1. 交換留学 ／ 2. BIE Program留学 ／ 3. 私費留学	
4. 短期留学 ／ 5. 個人留学（休学して留学する）	
Ⅴ 通学について（自転車・バイク・自動車）	87
1. 自転車・バイク通学について ／ 2. 自転車・バイクの駐輪について	
3. 自動車通学の禁止 ／ 4. 自動車の臨時入構許可について	

付録

Ⅰ 教員名簿	90
Ⅱ 緊急時の対応について	92
Ⅲ 瀬田学舎見取図	96
Ⅳ 履修要項利用の手引き	97

TOEIC®はエデュケーショナル・テスト・サービス（E T S）の登録商標です。
この印刷物はE T Sの検討をうけまたはその承認を得たものではありません。

TOEFL®はエデュケーショナル・テスト・サービス（E T S）の登録商標です。
この印刷物はE T Sの検討をうけまたはその承認を得たものではありません。

履 修 の 心 得

教 育 課 程

学 修 生 活

履 修 要 項

履 修 の 心 得

I 履修をはじめるときにあたって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するために、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自分の責任に委ねられていますので、それだけに各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組み合わせがあります）。卒業に必要な単位の取得は、学部設置されている授業科目にもとづいて行われます。単位とは、それぞれの授業科目を通して得られる学修の量をあらわすものです。

授業科目は、「**教養教育科目**（共同開講科目）」、および「**固有科目**」からなります。みなさんはこれらの科目群から卒業に必要な一定の単位数を満たすよう履修しなければなりません。

各学年ごとに、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお年度によって開講される科目が異なるので、1学年間あるいは1学期間の履修計画をたてるときは、同時に次年期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに分類されます。

必修科目とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

選択必修科目とは、指定された科目群の中から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

選択科目とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要があり、この要件を欠く場合は卒業の認定を受けることができません。

随意科目とは、単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」などの序論科目や各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

また、理工学部では各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。4年間で卒業要件を満たすとともに各学年毎に進級要件を満たさなければならないことを念頭に置いて下さい。

2. 系統的に科目を履修すること

各学年に設置されている授業科目、カリキュラムフローチャートを参考にして、系統だった履修をすることが重要です。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格や開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組む、専門的な視点に立って研究することです。テーマの研究にとって土台となる知識や思考力さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修すること

十分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での講義時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われてはじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とのディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

Ⅱ 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制というのは、すべての科目に一定の単位数が定められており、みなさんがその科目の授業を受け、かつ、その試験に合格した場合、定められた単位が与えられます。その単位の合計が一定の要件における一定の単位数を満たした者に対して卒業が認定される制度です。

2. 単位とは

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単 位 数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自 主	授 業	合 計	自 主	授 業	合 計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

(1) 単位の計算方法

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○ 講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区 分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間）×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき）＝2単位
学期連結型授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間）×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき）＝4単位

○ 外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区 分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間）×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき）＝1単位
学期連結型授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間）×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき）＝2単位

3. 単位の認定

一つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、**履修登録**をすること。
- (2) その科目の授業に**出席**し、履修に必要な**学修**をすること。
- (3) その科目の**試験**を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限らない。詳細はシラバスの成績評価の方法で確認してください。）、その成績評価で合格（60点以上）をすること。

4. 履修登録制度

履修登録とは、その学期に履修しようとする科目の授業を受けるための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることができません。履修登録は、学修計画の基礎となるわけであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組みなければなりません。

5. 授業科目の履修

履修登録をした授業を受けるということは、その科目に定められている単位数に見合った量の**学修**をすることです。

学修の内容は、授業形態に応じて教室での学修とその準備のための学修とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するというものです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、準備のための学修は、「Webシラバス（講義概要・授業計画）」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっていると言えます。

6. 履修辞退制度

※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、『授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合』や『受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合』など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履歴は一切記録に残らない仕組みですが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履歴が記録として残る仕組みです。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、「履修要項」および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行ないません。したがって、履修辞退した科目は**平均点**や**GPA**の計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	
事前登録が必要となる科目 ※	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」および「環びわ湖大学コンソーシアム」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が他大学他学部等の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習に関する科目、介護等体験、教育実習指導Ⅰ・ⅡA・ⅡB（教育実践研究Ⅱ・ⅢA・ⅢB）	実習施設、実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
集中講義科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・専攻・コース）において設定する科目 ※別表「◆各学部が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり

※教養教育科目（共同開講科目）の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

ただし、「自然観察法」は履修辞退ができません。

(4) 履修辞退の申出期間

2013年度の履修辞退の申出期間は下記の日程です。なお、下記の申出期間以外の履修辞退の申し出は受付しません。

学期	履修辞退受付期間
第1学期（前期）	5月13日（月）～17日（金）
第2学期（後期）	10月21日（月）～25日（金）

(5) 履修辞退の申出方法

上記、履修辞退の申出期間にポータル「Web履修辞退申請」から申請してください。受付期間中に、ポータルを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に理工学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目を第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目分にかかる登録単位数は登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に半期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。
- なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期） （5月中旬）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期(前期)分はカウントしますが、第2学期(後期)分はカウントしません
第2学期（後期） （10月下旬）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生）が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分授業料は徴収いたしません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分履修料は、理由の如何にかかわらず返還いたしません。

7. 授業時間

本学における1回の授業時間は、90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して各講時の時間帯は次のとおりです。

	1講時	2講時	3講時	4講時	5講時
開始時刻	9 : 20	11 : 05	13 : 35	15 : 20	17 : 00
終了時刻	10 : 50	12 : 35	15 : 05	16 : 50	18 : 30

8. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、数理情報学科では「学士（理学）」、電子情報学科・機械システム工学科・物質化学科・情報メディア学科・環境ソリューション工学科では「学士（工学）」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。

卒業するためには、大学が定める教育課程にしたがって学修し、134単位以上を修得しなければなりません。

(1) 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

① 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。

これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。

② 所定単位の修得

本学部の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに履修すべき単位数を指定しています。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

(2) 卒業の時期

卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

なお、在学期間が4年以上の学生で、卒業要件単位を修めた場合は、前期終了時（9月）に認定することがあります。（9月卒業）

⚠ 注意事項

9月卒業を希望する者は、4月初旬に所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続を完了してください。本人の申し出がなければ、たとえ卒業要件を満たしていても、9月卒業の対象にはなりません。

9. 進級制度

理工学部では、各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。履修登録するにあたっては、細心の注意をすることが必要です。

10. セメスター制

理工学部は、セメスター制で開講されています。セメスター制というのは、半年を1学期とするもので、1学年を原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4年次までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら年次、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目が配当されています。これらの科目の中からの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目はそれを履修しないと卒業することができない科目です。また選択必修科目も同じ性格を有する科目ですから、配当されたセメスターにおいて必ず履修しなければなりません。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、本来そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、講義を通しての学修と自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

注：実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分は、毎年度学年暦によって決定されます。

11. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、1年次に願い出た者に限り、出身大学で修得した科目を、本学理工学部の科目として認定することがあります。詳細は、入学後すみやかに、理工学部教務課窓口に申し出てください。

Ⅲ 履 修 登 録

履修登録は、自らの学習計画に従ってその年度・学期（セメスター）に履修しようとする授業科目を届け出る手続であり、みなさんの学習計画の出発点となるものです。この登録をしていなければ、たとえ授業に出席しても、試験を受けることや単位の認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるよう、すべて自分の責任において取り組まなければなりません。

1. 履修登録手続のスケジュール

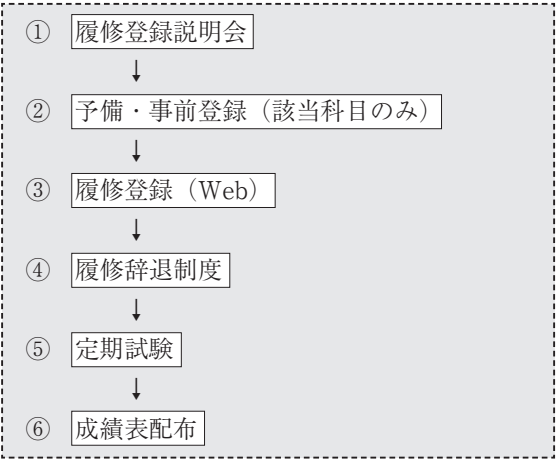
1～3年次生は、履修登録が前期・後期の年2回行われます。ただし、4年次生については、卒業見込判定の関係から、前期に1年分の履修登録を行います。

1～3年次生	年2回登録	前期：通年・前期科目登録
		後期：後期科目登録
卒年次生	年1回登録	前期：通年・前期・後期科目登録
		後期：後期科目の変更のみ受付

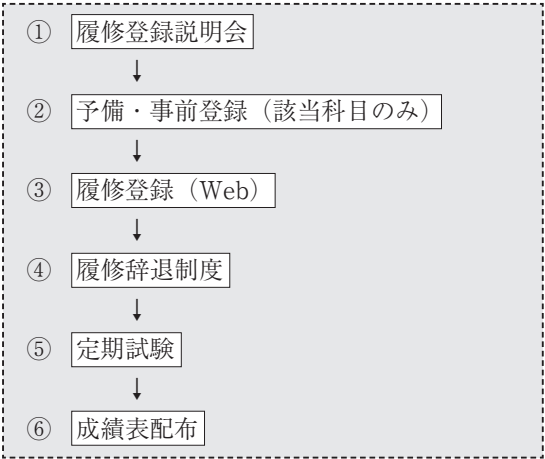
履修登録に関する手続きのスケジュールは以下の通りです。

〈1～3年次生〉

前期



後期

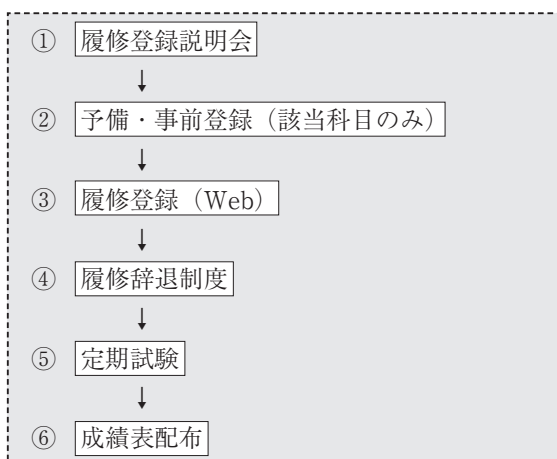


⚠ 注意事項

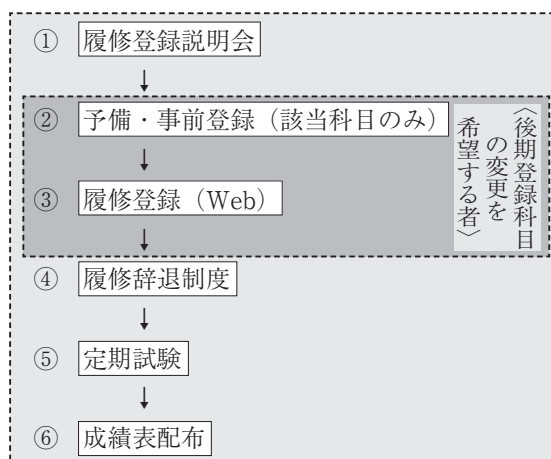
- 一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

〈卒業年次生〉

前期



後期



⚠ 注意事項

- 前期登録時は、卒業見込判定の関係から、その年度に履修しようとする全科目を登録してください。
- 後期登録時は、後期科目について変更・追加・取消を希望する場合のみ登録を行ってください。
- 一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

2. 履修登録に際しての注意事項

① 単位の修得

履修登録した科目でなければ、受講、受験、単位の修得はできません。

② 二重登録の禁止

同一時間帯に2科目以上履修登録することはできません。二重登録した場合、該当科目は全て無効となりますので注意してください。

③ 修得済み科目の登録禁止

既に単位を修得した科目を再び履修登録することはできません。

④ 登録制限単位数

制限単位以上の科目を履修登録することはできません。ただし、随意科目（諸課程科目など）は制限単位に含みません。

⑤ 履修配当年次

現年次より上の年次に配当されている科目を履修登録することはできません。（留年生に対する特別措置は除く）

⑥ クラス、学科指定

学科や学籍番号によってクラスあるいは学科が指定される科目（英語、スポーツ技術学、仏教の思想等）があるので注意して登録してください。Web登録画面にて確認して下さい。

⑦ 登録科目の追加、変更の禁止

登録日以後の科目の変更、追加、修正は認めません。ただし、履修不可能科目の登録によるエラーがあった場合はこの限りではありません。（履修辞退制度による登録取消は除く）

⚠ 注意事項

- ① 必修科目が配当されている学年にあっては、その年次において登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外の授業科目は登録できません。ただし、授業科目の区分等の関係で、卒業要件を充たすに必要な場合は、下級年次配当の授業科目を登録することができます。

- ③ 授業時間割表に従って登録してください。(特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。)

3. 履修登録制限

理工学部では、下記のとおり履修登録制限を行っています。ただし、入学年度によって履修登録制限単位数が異なるので、登録の際に間違いがないよう十分に注意してください。

1. 2011年度以前入学生

学 年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	30	30	30	60
後期制限単位数	30	30	30	

* 通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれ単位数の半分かをカウントします。

⚠ 上記履修登録制限単位数に含まれない科目

- ① 諸課程科目（教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程）などの随意科目
- ② 集中講義期間に実施される「情報と職業」（2単位）
- ③ 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度科目

2. 2012年度以降入学生

学 年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	25	25	25	50
後期制限単位数	25	25	25	

* 通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれ単位数の半分かをカウントします。

【履修登録制限単位数に関する特別措置】

2012年度以降入学生については、学部が定める所定の手続きをおこなった場合、以下の科目を上記履修登録制限単位数（半期25単位、年間50単位）から除外することができます。ただし、総履修登録単位数は半期30単位、年間60単位を超えることはできません。

<履修登録制限単位数から除外できる科目>

諸課程科目	教職課程科目	人権論A, 人権論B, 日本国憲法, スポーツ技術学A, スポーツ技術学B, 英語ⅠA, 英語ⅠB, 英語ⅡA, 英語ⅡB, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語ⅠA, ドイツ語ⅠB, フランス語ⅠA, フランス語ⅠB, 中国語ⅠA, 中国語ⅠB, 教育原論A, 教育原論B, 発達と教育A, 発達と教育B
再履修科目		過去に履修したが、単位取得できなかった科目
集中講義科目		情報と職業

⚠ 注意事項

以下の科目も履修登録制限単位数に含まれません。履修を希望する場合は、「Ⅲ. 履修登録」(p.8)に従い所定の履修登録手続きをしてください。

- ① 諸課程科目（教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程）などの随意科目
- ② 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度科目

4. 予備登録

予備登録とは、定員が定められている科目について、受講者数の調整およびクラス分けのため、通常の履修登録に先立って行われるものです。

予備登録にあたっては、以下の点に注意する必要があります。

予備登録が必要な科目は、別途指示します。

- ① 予備登録が必要な科目は、予備登録なしに履修することはできません。(ただし、予備登録の結果、定員に満たなかった場合は追加募集する場合があります。)
- ② 予備登録で履修許可された科目は、必ず登録しなければなりません。

5. 履修登録要領

(1) 登録の心得

- ① 登録は、すべて自己の責任においてなされなければならないので、十分に注意して履修登録を行ってください。なお、登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口にご相談してください。
- ② 登録不備等が卒業延期等重大な結果につながる場合があるので必ず登録確認を行ってください。
- ③ 時間割、教室、担当者等について変更が生じる場合があるので、随時理工学部掲示板とポータルで確認してください。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割等に変更が生じた場合は、理工学部掲示板に掲示しますので注意してください。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。

登録期間は次のとおりです。

学 期	登録期間
第1学期	4月8日（月）9：00～4月12日（金）16：00 〈2：00～7：00除く〉
第2学期	未定（理工学部掲示板・HPで別途お知らせします。）

⚠ 注意事項

* 通年科目、前期・後期のペア科目の単位数は、前期・後期にそれぞれ半分ずつカウントされます。

* 半期に完結するペア科目（半期で1週間に2回講義が行われる科目）の単位数は、半期にカウントされます。

（例）前期ペアで4単位の科目の場合は、前期に4単位を加算します。

（例）前・後期ペアで4単位の科目、通年で4単位の科目の場合は、前・後期それぞれに2単位ずつ加算します。

* 集中講義Ⅱの期間に実施される科目は、9月卒業を希望する者は受講できません。

④ 受講登録確認表の出力による登録確認

本人が登録した授業科目は、登録完了後、各自でその場で「受講登録確認表」を出力して確認することができますので、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、理工学部教務課窓口に出してください。

6. 履修登録の確認

授業科目が正確に登録されているかは、自己の責任において必ず確認してください。

もし、確認せずに間違ったまま登録を放置しておくと、受講している科目が無効となり、試験が受けられなくなるので注意してください。

登録確認を怠ったために、登録不備等により留年や卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じているので、確認は1科目ずつ慎重に行ってください。

Ⅳ 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちの1または2以上を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はWebシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、授業担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（既得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

適用入学年度	段階評価と評点
2004年度以前入学生	A（80～100点） B（70点～79点） C（60～69点）
2005年度以降入学生	S（90～100点） A（80～89点） B（70～79点） C（60～69点）

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

※2004年度まで使用していた試験欠席を示す「K」表記は、2005年度より廃止しました（全学生に適用）。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月下旬、第2学期分（後期）を3月下旬に配布します。指定された期日に学生証を提示の上、指定された場所で受け取ってください。

3. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、理工学部教務課窓口に提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間については、成績表配布日を含めて3日間（土・日除く）です。詳細は別途掲示します。

4. 平均点とGPA

(1) 平均点

平均点は、登録科目の素点（100点満点）の合計と単位数をかけたものを、登録科目の総単位数で割ったものです。

$$\text{平均点} = \frac{\sum (\text{登録科目の素点} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語ⅠA」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学Ⅰ」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、平均点は次のように計算されます。

$$\text{平均点} = \frac{(90 \times 2) + (80 \times 1) + (40 \times 2) + (78 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{496}{7} = 70.86$$

(2) G P A

G P Aとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことで、登録科目の素点（100点満点）を下表のように換算し直し、その合計を登録科目の総単位数で割ったものです。

$$G P A = \frac{\sum (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

素 点	グレイドポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語ⅠA」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学Ⅰ」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、G P Aは次のように計算されます。

$$G P A = \frac{(4 \times 2) + (3 \times 1) + (0 \times 2) + (2 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{15}{7} = 2.14$$

(3) 各科目の算入基準

平均点およびG P Aの計算をする際、下表のとおり取り扱います。

科目の区分	取り扱い
卒業要件となる科目 (2005年度以降入学生については、卒業要件上、余剰分となる科目も含む)	算入する
随意科目	算入しない
再履修により合格した場合、当初履修し不合格となった科目	算入しない

*再履修で不合格の場合は、高得点の方を算入します。

理工学部としては平均点を使用することとし、G P Aは参考までに学業成績表に表記することとします。

V 筆 答 試 験

筆答試験は、次の要領で実施されます。

1. 試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の2種類になります。

- ① **定期試験**（学期末・学年末試験）
個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験をいう。
- ② **追試験**
定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験をいう。（追試験の項を参照のこと。）

2. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- ① その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- ② 定められた学費を納入していること。
- ③ 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- ④ 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

3. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- ① 指定された試験場で受験すること。
- ② 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- ③ 学生証を携帯すること。
- ④ 学生証を必ず机上に提示し、写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一学生証を忘れた場合には、理工学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- ⑤ 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- ⑥ 参照を許可されたもの以外は、指示された場所に置くこと。
- ⑦ 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- ⑧ 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

4. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- ① 無記名の場合。
- ② 指定された場所に提出しない場合。
- ③ 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。
- ④ 同一科目の複数開講において、開講曜講時等の間違いで受験したもの。
- ⑤ 試験場間違いで受験したもの。
- ⑥ 受験態度の不良な場合。

5. 筆記試験における不正行為

- ① 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- ② 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - (ア) 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。
 - (イ) 監督者の指示に従わない場合。
 - (ウ) 身代り受験を行ったとき、または行わせた場合。
 - (エ) カンニングペーパー等を所持していた場合。
 - (オ) 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合。
 - (カ) 許可された以外のものを参照した場合。
 - (キ) 机上等への書き込みをしていた場合。
 - (ク) 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。
 - (ケ) 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
 - (コ) その他、(ア)～(ケ)に準じる行為を行なった場合。

6. 追試験

① 追試験の受験資格

追試験受験願および欠席理由証明書(医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等)をその科目の試験日を含めて4日以内(土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内)に理工学部教務課窓口に提出しなければなりません。

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取ることができるもの」のみを証明書として取扱います。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に理工学部教務課まで連絡してください(電話による連絡可)。

- (1) 病気や怪我、試験時における体調不良等による受験ができなかった者。
- (2) 親族(原則として3親等まで)の葬儀により受験ができなかった者。
- (3) 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
- (4) 資格試験(公務員試験、公的資格試験等)や就職活動(説明会、筆記試験、面接等)により受験ができなかった者。
- (5) 単位互換科目(大学コンソーシアム京都科目、環びわ湖大学コンソーシアム科目)の試験により受験ができなかった者。
- (6) インターンシップ実習(協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム)により受験ができなかった者。
- (7) 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
- (8) 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
- (9) 裁判員制度による裁判員(候補者)に選任されたことにより受験ができなかった者。
- (10) その他、学部教授会が特に必要と認めた者。

② 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

③ 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

④ 追試験での評点は、最高100点です。

7. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験14日前に掲示およびポータルにより発表します。
試験時間は、次のとおりです。

講 時	開始時間	終 了 時 間	
		右記以外の全科目 (60分)	理工学部固有科目 (学部内共通科目) (学科固有科目) (90分)
1講時	9：20	10：20	10：50
2講時	11：10	12：10	12：40
3講時	13：30	14：30	15：00
4講時	15：20	16：20	16：50
5講時	17：10	18：10	18：40
6講時	19：00	20：00	20：30

※2、4、5講時は通常の講義時間と異なるので注意すること。

8. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定をおこなわない場合があります。

参考 レポート提出要領

① レポートの提出方法

- (ア) レポートは授業担当者の指示に従って提出すること。
- (イ) レポートは指示されたところに提出し、郵送の場合は宛名を確認の上、必ず「書留」で発送すること。
- (ウ) 授業担当者に直接提出するように指示のあるものについて、事故を防ぐため事情のいかんを問わず、理工学部教務課窓口では一切取り扱わない。
- (エ) 提出期限は厳守すること。（期限を経過したものは受理しない。）
- (オ) その他、指示に従わない場合は無効となる。

② レポートの提出形式

用紙・規格等は次のとおりとする。

用紙種別	字数	大きさ	書き方	綴じ方	綴じ位置
龍大論文用紙	400字	B4判	縦書き	右側	A
龍大原稿用紙	400字	B4判	横書き	上側	B
レポート用紙		A4判	横書き	左側	C

- 必ずホッチキスで綴じること。
- 表紙の書き方、綴じ方は下図のとおり。（但し、担当者より別途指示がある場合は、指示に従うこと。）

表紙記入・綴じ方法

(B)

学 部

学 科

年 組

学籍番号

氏 名

提出日

学 科

担 当

教 授

開講時間

曜 日

講 時

(A)

Ⅵ 教育支援

理工学部には、学修に関することから学生生活まで、さまざまなサポート体制があります。ここでそのいくつかを紹介しますので、積極的に利用してください。

1. 学科の委員

理工学部では、学科毎に教員が諸委員を担当して、学科の運営にあたっています。以下に、みなさんに関わりの大きい委員を紹介しますので、それぞれに関わる事について、なんでも相談してください。（各委員は1年毎に変更されます。担当教員は掲示します。）

担 当	担 当 内 容
学 科 主 任	総合的に学科の運営を担当します。
教 務 委 員	学科の授業運営を担当します。 時間割の作成や履修説明会なども行います。2名の教員が担当します。
学 生 生 活 委 員	学修以外の学生生活について、学生部と連携して担当します。
就 職 担 当 委 員	就職活動について、キャリア開発部と連携して担当します。2名の教員が担当します。
学外実習実施委員	3年次生配当科目「学外実習（キャリア実践実習）」の運営を担当します。

2. クラス担任制

入学してから各研究室に配属されるまで、全学生に対してクラス担任を配置します。どんなことでも気軽に相談してください。新入生オリエンテーションでのクラス会をはじめとして、定期的開催し、学修相談・懇親交流を行います。また、食事会を実施するクラスもあり、学科全体の懇親会なども開かれます。

3. 教員との面談

理工学部の専任教員との面談は、各自で行うようにしてください。また、在室時間は、各研究室のドアのスケジュールシートを参考にしてください。

学科によっては、学科のHPに各教員のスケジュール表が示されています。

他学部の教員との面談も、各自で行うようにしてください。研究室の所在や出校日などは理工学部教務課窓口で問い合わせてください。

非常勤の教員は、担当授業の曜講時以外は出校しておられませんので、できるだけ、授業の際に直接申し出てください。

教員によっては、オフィスアワーを実施している場合がありますので、そちらも利用してください。

4. T.A.制度

ほとんどの実験・実習科目に、大学院生などによるT.A.（Teaching Assistant）を配置し、教員と連携して、少人数による双方向・対話型のきめ細かな指導を行っています。

5. チューター制度

授業で十分に理解できなかった内容や、高校までの基礎的な内容など、学修に対する相談に大学院生などが個別に対応してくれます。チューターには、決められた時間・場所で待機している常駐型と、個人指導の個別型があります。常駐型の実施日時は掲示板等でお知らせします。個別型については、教務委員に相談してください。

6. 理工学部初年次学習支援センター

「理工学部初年次学習支援センター」を開設し、外部講師・上級生が理工系基礎科目「数学・物理・化学」を中心とした学習指導・学習相談を実施しています。

開設場所・開設時間等、詳細については、オリエンテーションおよび掲示板等でお知らせいたします。

7. L.A.制度

計算機実習室での自習をサポートするために、学生によるL.A（Leaning Assistant）を配置しています。

8. ライティングセンター

当センターは、学生 みなさんにおけるアカデミックライティングの技術を向上させるための機関です。具体的には、卒業論文・卒業研究、レポート、ゼミ発表などに関する相談を受けつけます。何からはじめればいいのかわからないときや行き詰まったときなど、下記の開室期間を参照のうえ、自由に利用してください。相談には、本学所属の大学院生など、みなさんの先輩にあたるチューターが応じますので、本学に合った的確なアドバイスが受けられます。

◆場 所 1号館1階 セルフラーニングルーム（講師控室のとなり）

◆開室日時 月・水・金 11：00～16：00（授業実施期間中）

9. その他

カウンセリングを行う学生相談室や、セクシュアル・ハラスメントに関する相談員も配置しています。

各相談窓口がわからない場合は、理工学部教務課窓口へ問い合わせてください。

教育課程

I 理工学部の教学理念と教育目標

理工学部は、日本の仏教系大学では初めての自然科学系学部で、情報化と国際化が著しい現代において、**科学と人間の調和**を最も重視し、技術の高度化のみならず精神文化の豊かさに対し貢献できる科学技術者の育成を教学の理念としています。

20世紀において科学技術は大きな発展を遂げ、われわれの生活に多大の貢献をしてきましたが、同時に環境に対して大きな負荷を与え、また精神文化や倫理にも少なからず影響を与えてきました。特に、科学技術に携わる人材の倫理観の欠如は、大きな社会的問題を引き起こしています。本学設立の基礎である仏教の思想と高い倫理性を基礎におき、最新の科学技術の高度な専門知識を備え、21世紀の社会に大いに貢献できる有為な人材を育てることこそ本学理工学部に与えられた使命であり、存在価値であります。

自然を学ぶことから出発した**理学**と、人間生活の向上に資することを目的とした**工学**とは引き離すことのできない自然科学の2大分野であり、共に急速に発展しています。これら最新の理学と工学を融合させることにより、新しい視点に立った学問の道を開き、若い世代に教育していくことによって、時代の要請にかなない先端技術の発展に寄与し得る人材を育成することを理工学部の目標としています。このため、基礎から応用までバランスがとれ、科学全体を総合した教育課程を構成しています。

教養教育科目（共同開講科目）

人間性を高めるため、入学初年度に**仏教の思想**を必須科目として設定しています。また、他学部との共同開講である**教養科目**や**スポーツ科学**の受講を義務付け、科学偏重や視野の狭い技術者にならないような配慮をしています。また、国際化に対応して系統的な**英語教育**を実施し、その他の外国語の履修の機会や**倫理教育科目**を設定しています。

固有科目

<学部内共通科目>

学部共通の基礎教育として、実践力のある技術者・研究者としての基礎を確立するために、情報リテラシー教育を含むコンピュータ関連科目を基礎から応用まで段階的に用意して、専門的な計算機実習、理工学基礎実験（物理実験）、学外実習や総合実習・特別演習を学部内共通の必修または選択必修科目とし、**基礎技術**の強化を行っています。

<学科固有科目>

専門科目については、各学科の特性に合わせたカリキュラムが編成されています。現代の自然科学を代表するキーワードは、「**情報**」「**システム**」「**エネルギー**」「**材料・物質**」「**環境**」です。これらを軸として、**数理情報学科**では数理科学と情報科学が、**情報メディア学科**では情報科学とメディア工学が、**電子情報学科**では電子工学と情報通信工学が、**機械システム工学科**では機械工学とシステム工学が、**環境ソリューション工学科**では都市環境工学と生態学が、**物質化学科**では材料・物質と化学が、それぞれ組み合わせられた専門課程のカリキュラムが編成されています。さらに、個々の科目の内容を統合し応用する力を育てるために、**卒業研究**を高単位の必修科目とし、極めて重要視しています。なお、科目選択の幅を広げるため、制限内で他学科の科目の履修も認めています。

学科構成図

専門分野・専門コース			研究領域	
数 理 情 報 学 科 数理・数学分野と情報科学分野を融合させた基礎科学における論理的思考方法を修得	■ 数理解析分野	自然、社会の現象を数理的に解析するための論理と数学の新しい地平を切り開く	情報科学・数学 ソフト メディア工学	情報 情報通信 電子工学 エレクトロニクス 制御・メカトロ エネルギーリサイクル 化学 物質・材料
	■ 応用数理分野	自然、社会の現象をコンピュータで解明し、実世界への応用をめざす		
	■ 情報科学分野	現代社会の要であるIT技術を根本から革新する新しいコンピューティング原理を探る		
情 報 メ デ ィ ア 学 科 次世代のITやマルチメディアのシステム・ソフトウェアを創造する人材を育てる	■ 情報システムコース	実践的な情報システムを構築できる能力を身につける	情報 情報通信 電子工学 エレクトロニクス 制御・メカトロ エネルギーリサイクル 化学 物質・材料	情報 情報通信 電子工学 エレクトロニクス 制御・メカトロ エネルギーリサイクル 化学 物質・材料
	■ メディア工学コース	マルチメディア情報の扱い方を習得し、応用・システム化をめざす		
	■ ソフトウェア科学コース	OSなどの基本ソフトウェアから応用ソフトウェアまでの設計・開発をめざす		
電 子 情 報 学 科 電子情報通信分野の基礎から応用までを系統的に学ぶ	■ 電子工学分野	電子工学の基礎から電子回路・電子デバイスの開発・研究をめざす	情報 情報通信 電子工学 エレクトロニクス 制御・メカトロ エネルギーリサイクル 化学 物質・材料	情報 情報通信 電子工学 エレクトロニクス 制御・メカトロ エネルギーリサイクル 化学 物質・材料
	■ 電子通信工学分野	通信の基礎技術から通信システムの設計・研究をめざす		
	■ 情報通信工学分野	情報通信の基礎からネットワークの応用・研究をめざす		
機 械 シ ス テ ム 工 学 科 機械工学とシステム工学の専門知識を融合した技術を学ぶ	■ 力学系分野	機械や構造物の最適形状や安全性など力学的な分野から研究を進める	情報 情報通信 電子工学 エレクトロニクス 制御・メカトロ エネルギーリサイクル 化学 物質・材料	情報 情報通信 電子工学 エレクトロニクス 制御・メカトロ エネルギーリサイクル 化学 物質・材料
	■ エネルギー系分野	21世紀の重要課題であるエネルギー問題解決に取り組む		
	■ システム系分野	機能・経済性・安全性・信頼性の諸条件を満たすシステムやロボットの開発をめざす		
環 境 ソ ル ュ ー シ ョ ン 工 学 科 都市環境工学と生態学を融合させて環境問題解決のための知識と技術を学ぶ	■ エコロジー工学分野	人間生活と環境との関わりを学び、問題解決の技術・知識を身につける	情報 情報通信 電子工学 エレクトロニクス 制御・メカトロ エネルギーリサイクル 化学 物質・材料	情報 情報通信 電子工学 エレクトロニクス 制御・メカトロ エネルギーリサイクル 化学 物質・材料
	■ 生態環境マネジメント分野	フィールドや研究室での調査・研究を通じ、生物と環境の関わり合いを学ぶ		
物 質 化 学 科 物質循環の視点から環境にやさしい製品の研究・開発方法を学ぶ	■ 分析・環境化学系	環境や材料の研究を進める上で不可欠な物質評価法について学ぶ	情報 情報通信 電子工学 エレクトロニクス 制御・メカトロ エネルギーリサイクル 化学 物質・材料	情報 情報通信 電子工学 エレクトロニクス 制御・メカトロ エネルギーリサイクル 化学 物質・材料
	■ 無機・セラミックス系	最先端の無機材料開発に必要な理論と技術を学ぶ		
	■ 有機・高分子系	有機・高分子材料の基礎と応用について段階的に学ぶ		
	■ 生物機能分子系	生物機能を持つ分子の合成法や性質について学ぶ		

科学技術は日進月歩であり、社会が求める人材も変化して行きます。一旦設定した教育内容も時代の要請に応じて変化させていかなければなりません。理工学部が設立当時より継続している**学外実習**は、学生を企業に派遣し実習を行わせるものですが、学生自身が実社会において使われている最先端技術を知り、勉学の必要性を実感すると共に、社会が求めている人材や備えるべき知識についての情報を企業等から直接得る良い機会となります。また、企業との**共同研究**から得られる情報も大切です。これらの情報を基に、学生に付与すべき知識を見直しカリキュラムに反映していくことで、常に社会のニーズに即した教育内容となり、実践力をもつ人材を育てることができます。

同時にキャリア教育にも積極的に取り組み、将来に対する意識の啓発等のために「キャリアデザイン」と「キャリアプランニング」を開講しています。

幼少時代から科学技術に関する興味を持たせ、科学者の芽を育てていくことも大切です。理工学部では教職につく人材の育成にも努力しています。学科によって中学校教諭一種免許（数学・理科）、および高等学校教諭一種免許（数学、情報、工業、理科）を取得することができます。

Ⅱ 機械システム工学科の教学理念と教育目標

教育理念

機械システム工学科は、技術と人間の調和を最も重視しながら、H³:頭脳（Head）、心（Heart）、手（Hands）を通じた新しい技術の創造と高度化ができる技術者の育成を教学の理念とする。

教育目標

○機械システム技術者として必要な幅広い教養と機械工学分野およびシステム工学分野の専門知識を縦横無尽に駆使することで新たな問題を発見・解決し、複雑に多様化しながら変革していく社会に柔軟に対応する実践的技術者を育成することを目標とする。

○人文社会や自然科学からなる基礎的教養と情報と情報処理手段の活用能力を身につけることにより、能動的に社会に貢献できる幅広い視野と倫理観を修得することを目標とする。

○個別の科学技術の向上を扱う従来からの機械工学分野および全体的な視点を持つシステム工学分野をバランス良く学修することにより、それらの学問に立脚した“ものづくり”のできる創造的思考能力を体得することを目標とする。

○生涯学習体系に備えた社会や地域に開かれた教育システムとすることで、自主的な問題発見・解決能力、設計・創造能力を持った地域社会の活性化に貢献できる機械システム技術者を育成することを目標とする。

教育カリキュラム

○演習や実験などの実学を重視し、実践的、体験的に学べる施設を用いて、五感を駆使した機械システム工学の学修を実践することで、感動と臨場感のある理解を達成する。

○学生の人格を尊重し、個性や能力が発揮できる教育を目指し、教員と学生間の人格的接触を緊密にし、人間としてのモラルを身につけ、積極的な人格形成や勉学に対する動機付けを促すとともに、相互のコミュニケーションによる創造の精神の涵養に勤める。

【基礎科目】

○英語、数学、理科の基礎的科目を設置し、数学では特に微分積分学、理科では物理学（力学）に重点を置いている。微分積分学においては、講義に引き続き演習時間を設け、講義内容の理解を深めることができる。

○物理実験においては、実験を通じて物理現象を観察する目を養うことのみならず、実験機器の取り扱い方やレポートの書き方など将来に役立つ基本的事項について学修する。

○大学の講義の修得が困難な学生に対して、「基礎数学」や「基礎物理学」といったリメディアル科目も設置している。

【専門科目】

○機械工学分野では、「材料力学」、「熱力学」、「流体力学」、「機械材料学」、「機械加工学」、「材料強度学」、「振動工学」、「流体工学」、「熱工学」、「伝熱工学」などを体系的に学修する。

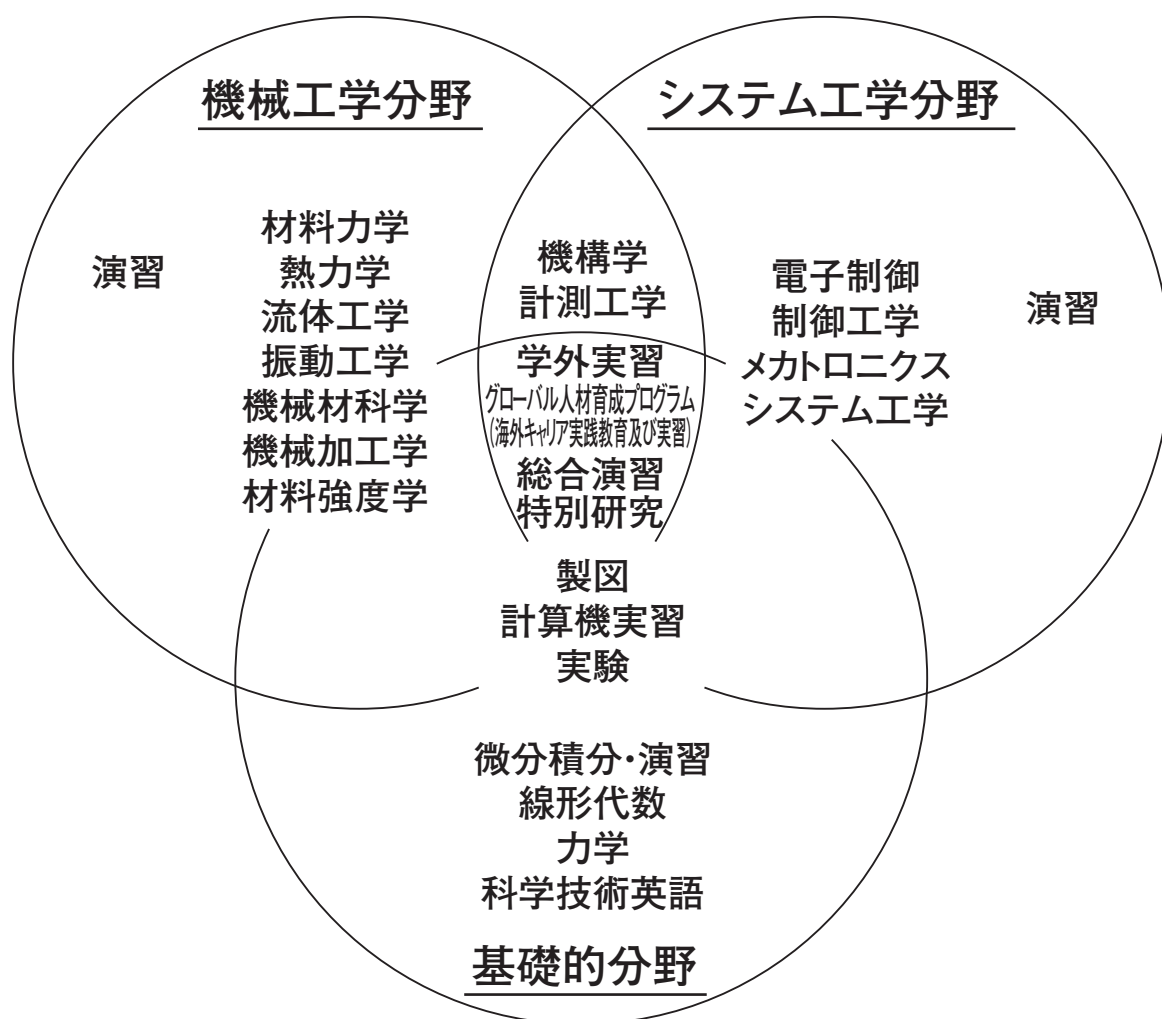
○システム工学分野では、「電子制御」、「制御工学」、「機構学」、「システム工学」、「メカトロニクス」、「計測工学」などを体系的に幅広く学修する。

○「材料力学演習」、「熱・流体演習」、「電子・制御演習」を通して、機械工学分野とシステム工学分野の基礎的能力を身につける。

○実学である「機械製図」、「要素設計」、「設計製図」を通して“ものづくり”の基礎を修得し、「計算機実習」では情報収集・データ分析、実践的な情報の活用能力を身に付ける。

○「機械システム工学総合演習」や「機械システム工学実験」を通して、機械システム工学の専門知識の理解を深め、問題発見・解決のための基礎的能力を養う。

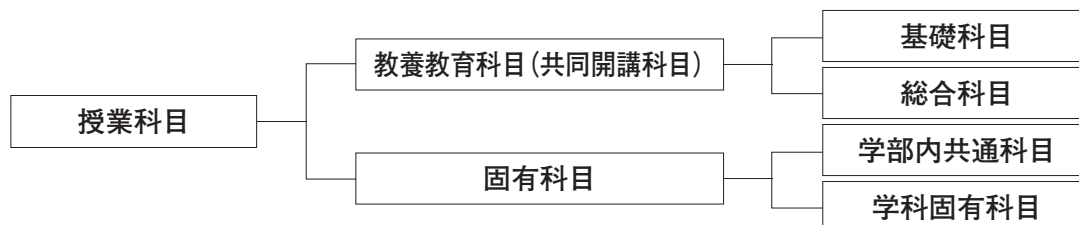
○「学外実習」、「学外実習（キャリア実践実習）」、「グローバル人材育成プログラム（海外キャリア実践教育及び実習）」や「特別研究」を通じて自己啓発・自己管理能力、コミュニケーション能力を養成するとともに、問題発見・解決のための実践的能力を養う。



Ⅲ 教育課程の編成・履修方法

1. 授業科目の区分

理工学部教育課程（カリキュラム）の編成は、「教養教育科目（共同開講科目）」「固有科目」から編成され、さらに、教養教育科目（共同開講科目）は「基礎科目」「総合科目」、固有科目は「学部内共通科目」「学科固有科目」で編成されます。これらの分類のことを授業科目の区分といいます。



(1) 教養教育科目（共同開講科目）

教養教育科目（共同開講科目）は、固有科目との有機的な結びつきのもとに、幅広い教養と総合的判断力を養うことを目的とし、基礎科目、総合科目から構成されています。瀬田学舎の3学部が共同して開講します。

(2) 固有科目

固有科目は、専門領域に関する授業科目であり、理工学部共通の基礎教育を行う学部内共通科目と、各学科専門分野の基礎および応用を教育する学科固有科目に分類されます。

2. 必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目

すべての授業科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目のいずれかに指定されています。

(1) 必修科目

卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

(2) 選択必修科目

指定された科目群の中から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

(3) 選択科目

どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要がある、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

(4) 随意科目

単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」「物理学序論」のような序論科目や、各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

3. 各科目の履修方法について

(1) 教養教育科目（共同開講科目）についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2008年度以降入学生	P25 ～ P29
2003 ～ 2007年度入学生	P30 ～ P34

(2) 固有科目についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2009年度以降入学生	P38 ～ P43
2007・2008年度入学生	P44 ～ P49
2006年度以前入学生	P50 ～ P55

①教養教育科目の履修方法 【2008年度以降入学生】

教養教育とは

(1) 教養教育の目的と意義

本学の教養教育は、建学の精神を具現化する高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ねそなえ、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成を目的として開講されています。

つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する総合的な判断力と、国際的なコミュニケーション能力を持った「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としており、その達成のために以下の目標を掲げています。

1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の向上
2. 歴史認識と社会認識に基づく自己の確認と自律
3. 学問や科学技術が問いかけている諸課題・問題の理解
4. 知的訓練ないし知的鍛錬

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、主に教養教育科目として提供されており、瀬田学舎では、基礎科目（6分野）と総合科目（「情報」「福祉」「国際」「環境」をキーワードとする）にわけて、学際的・系統的履修を可能にしています。

■基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1. 必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想A、仏教の思想B	各2単位	4単位
外国語	英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位
スポーツ	スポーツ技術学A、スポーツ技術学B	各1単位	2単位

(1) 仏教の思想の履修について

「仏教の思想A・B（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(2) スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学A、B（各1単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(3) 英語の履修について

必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

「仏教の思想」について

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通じて、自己をふり返り、幅広い物の見方と心の豊かさを育てることを目的としています。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といてもいいでしょう。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、以下の教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため伝統的に大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育に対する正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

<習熟度別クラス編成について>

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解および情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスについては、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

<科目概要>

英語ⅠA・ⅠB	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡA・ⅡB	「Ⅰ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ⅰ、Ⅱ」をもとに4技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

2. 学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3. 予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「**スポーツ技術学A・B**」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。
- (2) 「**英語（再）**」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。
- (3) 「**ドイツ語**」、「**フランス語**」、「**中国語**」、「**コリア語**」の各科目は、予備登録が必要となります。
- (4) 「**英語セミナー**」の各科目は、予備登録が必要となります。

4. 先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

＜先修制授業科目＞

- ① **ドイツ語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「ドイツ語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ② **フランス語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「フランス語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ③ **中国語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「中国語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ④ **コリア語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「コリア語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

＜英語以外の外国語概要＞

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ⅠA・ⅠB	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ⅠC・ⅠD	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語セミナーA、セミナーB	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

5. 予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「**自然観察法**」は、予備登録が必要となります。

6. 教養教育科目特別講義の履修について

総合科目群には、教養教育科目特別講義を開設しています。教養教育科目特別講義については、卒業要件として認めるものは、4科目8単位までとなりますので、履修の際は注意してください。

設置科目 【2008年度以降入学生】

■基礎科目

科 目 名	単位数	配当年次			
		1 年次		2 年次	
		前	後	前	後
仏教の思想 A	必修 2	○			
仏教の思想 B	必修 2		○		
スポーツ技術学 A	必修 1	○			
スポーツ技術学 B	必修 1		○		
英語 I A	必修 1	○			
英語 I B	必修 1	○			
英語 II A	必修 1		○		
英語 II B	必修 1		○		
英語 III	必修 1			○	
英語 IV	必修 1				○
英語セミナー A 1	選択 2	○		○	
英語セミナー A 2	選択 2		○		○
英語セミナー B 1	選択 2			○	
英語セミナー B 2	選択 2				○
英語セミナー C 1	選択 2			○	
英語セミナー C 2	選択 2				○
英語セミナー D 1	選択 2			○	
英語セミナー D 2	選択 2				○
英語セミナー E 1	選択 2			○	
英語セミナー E 2	選択 2				○
※ 英語セミナー F 1	選択 2			○	
※ 英語セミナー F 2	選択 2				○
ドイツ語 I A	選択 1	○			
ドイツ語 I B	選択 1		○		
ドイツ語 I C	選択 1	○			
ドイツ語 I D	選択 1		○		
ドイツ語セミナー A	選択 2			○	
ドイツ語セミナー B	選択 2				○
フランス語 I A	選択 1	○			
フランス語 I B	選択 1		○		
フランス語 I C	選択 1	○			
フランス語 I D	選択 1		○		
フランス語セミナー A	選択 2			○	
フランス語セミナー B	選択 2				○
中国語 I A	選択 1	○			
中国語 I B	選択 1		○		
中国語 I C	選択 1	○			
中国語 I D	選択 1		○		
中国語セミナー A	選択 2			○	
中国語セミナー B	選択 2				○

科 目 名	単位数	配当年次			
		1 年次		2 年次	
		前	後	前	後
コリア語 I A	選択 1	○			
コリア語 I B	選択 1		○		
コリア語 I C	選択 1	○			
コリア語 I D	選択 1		○		
コリア語セミナー A	選択 2			○	
コリア語セミナー B	選択 2				○
文学入門	選択 2	○	○		
哲学入門	選択 2	○	○		
心理学入門	選択 2	○	○		
教育原論 A	選択 2	○			
教育原論 B	選択 2		○		
発達と教育 A	選択 2			○	
発達と教育 B	選択 2				○
歴史入門	選択 2			○	○
倫理学入門	選択 2	○	○		
言語学入門	選択 2	○			
論理学入門	選択 2	○	○		
法学入門	選択 2	○			
日本国憲法	選択 2	○	○		
政治学入門	選択 2	○	○		
統計入門	選択 2	○	○		
社会学入門	選択 2	○	○		
経済学入門	選択 2	○	○		
社会思想史入門	選択 2			○	○
生活の中の数学	選択 2	★			
生活の中の物理	選択 2		★		
※ 生活の中の化学	選択 2		★		
生命と科学	選択 2				★
生活の中の統計技術	選択 2	★	★		

⚠ 注意事項

- 1) 各印は開講時期を示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です（一部例外あり）。
（例：1 年次配当科目であれば、2 年次以降生も受講可能）
なお、配当セメスター等は年度により、変更する場合があります。
- 2) ★印の 5 科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1 科目 2 単位まで。（余剰分はフリーゾーンにも計上されない。）
- 3) ※印「生活の中の化学」について、物質化学科の学生は履修不可。
- 4) ※印「英語セミナー F 1, F 2」は 2013 年度不開講。

■総合科目

科目名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
情報社会とメディア	選択	2	○	○		
現代社会とマス・メディア	選択	2			○	○
情報と人間	選択	2		○		
スポーツ文化論	選択	2			○	
情報倫理	選択	2			○	
現代社会と福祉	選択	2	○			
メディアにみる福祉	選択	2		○		
世界の福祉	選択	2			○	
国際社会と日本A	選択	2			○	
国際社会と日本B	選択	2				○
国際社会と日本C	選択	2			○	
日本の文化	選択	2	○	○		
アジアの文化	選択	2			○	○
欧米の文化	選択	2			○	○
海外英語研修	選択	2		○		
科学技術史	選択	2	○	○		
現代の技術	選択	2		○		
環境と倫理	選択	2			○	
環境と人間A	選択	2			○	○
環境と人間B	選択	2			○	○
自然観察法	選択	2			○	
人権論A	選択	2	○			
人権論B	選択	2		○		
平和学入門	選択	2	○	○		
ジェンダー論	選択	2	○			
生命と共生	選択	2	○	○		
人間と社会と法	選択	2			○	
生活の中の宗教	選択	2	○	○		
現代社会と宗教	選択	2	○	○		
現代社会とスポーツ	選択	2			○	
健康とスポーツ	選択	2		○		
大学生入門	選択	2	○			
歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○	
歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○
◆教養教育科目特別講義A	選択	2	○			
◆教養教育科目特別講義B	選択	2	○	○		
◆教養教育科目特別講義C	選択	2	○			
◆教養教育科目特別講義D	選択	2	○	○		
◆教養教育科目特別講義E	選択	2	○			
◆教養教育科目特別講義F	選択	2	○	○		
◆教養教育科目特別講義G	選択	2		○		

※2013年度は不開講

※2010年度以降不開講

◆印の7科目のうち、
卒業要件単位として認めるのは4科目8単位まで
※2013年度は不開講

① 共同開講科目の履修方法 【2003年度～2007年度入学生】

■ 基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1. 必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想A、仏教の思想B	各2単位	4単位
スポーツ	スポーツ技術学A、スポーツ技術学B	各1単位	2単位
外国語	英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位

(1) 仏教の思想の履修について

「仏教の思想A・B（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(2) スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学A・B（各1単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(3) 英語の履修について

必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

ー 外国語科目の意義 ー

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため古来大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育にたいする正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

＜習熟度別クラス編成について＞

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解及び情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）

の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスの編成方法については、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

<科目概要>

英語ⅠA・ⅠB	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡA・ⅡB	「Ⅰ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ⅰ、Ⅱ」をもとに4技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

2. 学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3. 予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- ① 「スポーツ技術学A・B」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。
- ② 「英語（再）」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。
- ③ 「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「コリア語」の各科目は、予備登録が必要となります。
- ④ 「英語セミナー」の各科目は、予備登録が必要となります。

4. 先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

<先修制授業科目>

- ① ドイツ語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「ドイツ語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ② フランス語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「フランス語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ③ 中国語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「中国語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ④ コリア語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「コリア語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

<英語以外の外国語概要>

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ⅠA・ⅠB	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ⅠC・ⅠD	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語セミナーA、セミナーB	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

5. 予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「**自然観察法**」は、予備登録が必要となります。

6. 教養教育科目特別講義・共同開講科目特別講義の履修について

総合科目群には、教養教育科目特別講義（共同開講科目特別講義）を開設しています。これらの科目については、卒業要件として認めるものは、4科目8単位までとなりますので、履修の際は注意してください。

設置科目 【2003年度～2007年度入学生】

■基礎科目

科 目 名	単位数	配当年次			
		1 年次		2 年次	
		前	後	前	後
仏教の思想 A	必修 2	○			
仏教の思想 B	必修 2		○		
スポーツ技術学 A	必修 1	○			
スポーツ技術学 B	必修 1		○		
英語 I A	必修 1	○			
英語 I B	必修 1	○			
英語 II A	必修 1		○		
英語 II B	必修 1		○		
英語 III	必修 1			○	
英語 IV	必修 1				○
英語セミナー A 1	選択 2	○		○	
英語セミナー A 2	選択 2		○		○
英語セミナー B 1	選択 2			○	
英語セミナー B 2	選択 2				○
英語セミナー C 1	選択 2			○	
英語セミナー C 2	選択 2				○
英語セミナー D 1	選択 2			○	
英語セミナー D 2	選択 2				○
英語セミナー E 1	選択 2			○	
英語セミナー E 2	選択 2				○
※ 英語セミナー F 1	選択 2			○	
※ 英語セミナー F 2	選択 2				○
ドイツ語 I A	選択 1	○			
ドイツ語 I B	選択 1		○		
ドイツ語 I C	選択 1	○			
ドイツ語 I D	選択 1		○		
ドイツ語セミナー A	選択 2			○	
ドイツ語セミナー B	選択 2				○
フランス語 I A	選択 1	○			
フランス語 I B	選択 1		○		
フランス語 I C	選択 1	○			
フランス語 I D	選択 1		○		
フランス語セミナー A	選択 2			○	
フランス語セミナー B	選択 2				○
中国語 I A	選択 1	○			
中国語 I B	選択 1		○		
中国語 I C	選択 1	○			
中国語 I D	選択 1		○		
中国語セミナー A	選択 2			○	
中国語セミナー B	選択 2				○

科 目 名	単位数	配当年次			
		1 年次		2 年次	
		前	後	前	後
コリア語 I A	選択 1	○			
コリア語 I B	選択 1		○		
コリア語 I C	選択 1	○			
コリア語 I D	選択 1		○		
コリア語セミナー A	選択 2			○	
コリア語セミナー B	選択 2				○
文学入門	選択 2	○	○		
哲学入門	選択 2	○	○		
心理学入門	選択 2	○	○		
教育原論 A	選択 2	○			
教育原論 B	選択 2		○		
発達と教育 A	選択 2			○	
発達と教育 B	選択 2				○
歴史入門	選択 2			○	○
倫理学入門	選択 2	○	○		
言語学入門	選択 2	○			
論理学入門	選択 2	○	○		
法学入門	選択 2	○			
日本国憲法	選択 2	○	○		
政治学入門	選択 2	○	○		
統計入門	選択 2	○	○		
社会学入門	選択 2	○	○		
経済学入門	選択 2	○	○		
社会思想史入門	選択 2			○	○
生活の中の数学	選択 2	★			
生活の中の物理	選択 2		★		
※ 生活の中の化学	選択 2		★		
生命と科学	選択 2				★
生活の中の統計技術	選択 2	★	★		

⚠ 注意事項

- 1) 各印は開講時期を示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です（一部例外あり）。
（例：1 年次配当科目であれば、2 年次以降生も受講可能）
なお、配当セメスター等は年度により、変更する場合があります。
- 2) ★印の 5 科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1 科目 2 単位まで。（余剰分はフリーゾーンにも計上されない。）
- 3) ※印「生活の中の化学」について、物質化学科の学生は履修不可。
- 4) ※印「英語セミナー F 1, F 2」は 2013 年度不開講。

■総合科目

科目名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
情報社会とメディア	選択	2	○	○		
現代社会とマス・メディア	選択	2			○	○
情報と人間	選択	2		○		
スポーツ文化論	選択	2			○	
情報倫理	選択	2			○	
現代社会と福祉	選択	2	○			
メディアにみる福祉	選択	2		○		
世界の福祉	選択	2			○	
国際社会と日本A	選択	2			○	
国際社会と日本B	選択	2				○
国際社会と日本C	選択	2			○	
日本の文化	選択	2	○	○		
アジアの文化	選択	2			○	○
欧米の文化	選択	2			○	○
海外英語研修	選択	2		○		
科学技術史	選択	2	○	○		
現代の技術	選択	2		○		
環境と倫理	選択	2			○	
環境と人間A	選択	2			○	○
環境と人間B	選択	2			○	○
自然観察法	選択	2			○	
人権論A	選択	2	○			
人権論B	選択	2		○		
平和学入門	選択	2	○	○		
ジェンダー論	選択	2	○	○		
生命と共生	選択	2	○	○		
人間と社会と法	選択	2			○	
生活の中の宗教	選択	2	○	○		
現代社会と宗教	選択	2	○	○		
現代社会とスポーツ	選択	2			○	
健康とスポーツ	選択	2		○		
大学生入門	選択	2	○			
歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○	
歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○
◆ 共同開講科目特別講義	選択	2	○			
◆ 教養教育科目特別講義B	選択	2	○	○		
◆ 教養教育科目特別講義C	選択	2	○			
◆ 教養教育科目特別講義D	選択	2	○	○		
◆ 教養教育科目特別講義E	選択	2	○			
◆ 教養教育科目特別講義F	選択	2	○	○		
◆ 教養教育科目特別講義G	選択	2	○			

※2013年度は不開講

※2010年度以降不開講

◆印の7科目のうち、
卒業要件単位として認めるのは4科目8単位まで
※2013年度は不開講

②教養教育科目（共同開講科目）カリキュラム対照表

カリキュラム改革にともない、下記対照表の通り、入学年度によって科目名が異なり、合同授業となる場合があるので注意してください。（一部の科目については、不開講となる場合があるので注意してください。）

1. 教養教育科目（共同開講科目）基礎科目

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生	
科 目 名	単位	科 目 名	単位
仏教の思想A	2	仏教の思想A	2
仏教の思想B	2	仏教の思想B	2
スポーツ技術学A	1	スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1	スポーツ技術学B	1
英語ⅠA	1	英語ⅠA	1
英語ⅠB	1	英語ⅠB	1
英語ⅡA	1	英語ⅡA	1
英語ⅡB	1	英語ⅡB	1
英語Ⅲ	1	英語Ⅲ	1
英語Ⅳ	1	英語Ⅳ	1
英語セミナーA 1	2	英語セミナーA 1	2
英語セミナーA 2	2	英語セミナーA 2	2
英語セミナーB 1	2	英語セミナーB 1	2
英語セミナーB 2	2	英語セミナーB 2	2
英語セミナーC 1	2	英語セミナーC 1	2
英語セミナーC 2	2	英語セミナーC 2	2
英語セミナーD 1	2	英語セミナーD 1	2
英語セミナーD 2	2	英語セミナーD 2	2
英語セミナーE 1	2	英語セミナーE 1	2
英語セミナーE 2	2	英語セミナーE 2	2
英語セミナーF 1	2	英語セミナーF 1	2
英語セミナーF 2	2	英語セミナーF 2	2
ドイツ語ⅠA	1	ドイツ語ⅠA	1
ドイツ語ⅠB	1	ドイツ語ⅠB	1
ドイツ語ⅠC	1	ドイツ語ⅠC	1
ドイツ語ⅠD	1	ドイツ語ⅠD	1
ドイツ語セミナーA	2	ドイツ語セミナーA	2
ドイツ語セミナーB	2	ドイツ語セミナーB	2
フランス語ⅠA	1	フランス語ⅠA	1
フランス語ⅠB	1	フランス語ⅠB	1
フランス語ⅠC	1	フランス語ⅠC	1
フランス語ⅠD	1	フランス語ⅠD	1
フランス語セミナーA	2	フランス語セミナーA	2
フランス語セミナーB	2	フランス語セミナーB	2
中国語ⅠA	1	中国語ⅠA	1
中国語ⅠB	1	中国語ⅠB	1
中国語ⅠC	1	中国語ⅠC	1
中国語ⅠD	1	中国語ⅠD	1
中国語セミナーA	2	中国語セミナーA	2
中国語セミナーB	2	中国語セミナーB	2
コリア語ⅠA	1	コリア語ⅠA	1
コリア語ⅠB	1	コリア語ⅠB	1
コリア語ⅠC	1	コリア語ⅠC	1
コリア語ⅠD	1	コリア語ⅠD	1
コリア語セミナーA	2	コリア語セミナーA	2
コリア語セミナーB	2	コリア語セミナーB	2

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生	
科目名	単位	科目名	単位
文学入門	2	文学入門	2
哲学入門	2	哲学入門	2
心理学入門	2	心理学入門	2
教育原論A	2	教育原論A	2
教育原論B	2	教育原論B	2
発達と教育A	2	発達と教育A	2
発達と教育B	2	発達と教育B	2
歴史入門	2	歴史入門	2
倫理学入門	2	倫理学入門	2
言語学入門	2	言語学入門	2
論理学入門	2	論理学入門	2
法学入門	2	法学入門	2
日本国憲法	2	日本国憲法	2
政治学入門	2	政治学入門	2
統計入門	2	統計入門	2
社会学入門	2	社会学入門	2
経済学入門	2	経済学入門	2
社会思想史入門	2	社会思想史入門	2
生活の中の数学	2	生活の中の数学	2
生活の中の物理	2	生活の中の物理	2
生活の中の化学	2	生活の中の化学	2
生命と科学	2	生命と科学	2
生活の中の統計技術	2	生活の中の統計技術	2

2. 教養教育科目（共同開講科目）総合科目

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生	
科目名	単位	科目名	単位
情報社会とメディア	2	情報社会とメディア	2
現代社会とマス・メディア	2	現代社会とマス・メディア	2
情報と人間	2	情報と人間	2
スポーツ文化論	2	スポーツ文化論	2
情報倫理	2	情報倫理	2
現代社会と福祉	2	現代社会と福祉	2
メディアにみる福祉	2	メディアにみる福祉	2
世界の福祉	2	世界の福祉	2
国際社会と日本A	2	国際社会と日本A	2
国際社会と日本B	2	国際社会と日本B	2
国際社会と日本C	2	国際社会と日本C	2
日本の文化	2	日本の文化	2
アジアの文化	2	アジアの文化	2
欧米の文化	2	欧米の文化	2
海外英語研修	2	海外英語研修	2
科学技術史	2	科学技術史	2
現代の技術	2	現代の技術	2
環境と倫理	2	環境と倫理	2
環境と人間A	2	環境と人間A	2
環境と人間B	2	環境と人間B	2
自然観察法	2	自然観察法	2
人権論A	2	人権論A	2
人権論B	2	人権論B	2
平和学入門	2	平和学入門	2
ジェンダー論	2	ジェンダー論	2
生命と共生	2	生命と共生	2
人間と社会と法	2	人間と社会と法	2
生活の中の宗教	2	生活の中の宗教	2
現代社会と宗教	2	現代社会と宗教	2
現代社会とスポーツ	2	現代社会とスポーツ	2
健康とスポーツ	2	健康とスポーツ	2
大学生入門	2	大学生入門	2
教養教育科目特別講義	2	共同開講科目特別講義	2

③固有科目の履修方法 【2009年度以降入学生】

機械システム工学では広範囲の知識とそれを実際に応用する能力が必要とされる。そのため本学科ではフローチャートに示すように、数学や物理、計算機基礎実習などの基礎科目を学び、それらを基礎として「力学」、「熱・流体」、「電子・制御」、「材料・加工」、「機械設計」、「システム」などに分類される学科固有科目の専門科目を系統的に修得していくカリキュラムとなっている。なお、フローチャートは学科固有科目を中心として主に関係が深いものを線で結んでいるが、結ばれていない科目も互いに密接に関連している。本学科では、「実験・実習」や「演習」に分類される科目を重視しており、3年次までに配当されている講義内容の理解をより深いものとするよう配慮している。また、機械システム工学総合演習では、各々の講義で学んできたものを有機的に結びつけ、機械システム工学として体系づける。4年次における特別研究（卒業研究）では、3年次までに培った機械システム工学の基礎を土台として1年間をかけて、機械システム工学の諸問題に関する国内外の論文・文献の講読と、各自個別の研究テーマに関する研究を行い、卒業論文の作成と発表を行う。

履修単位に関する具体的条件等は、「卒業・進級の要件」、「設置科目」にあるので、注意事項も含めてよく読むこと。特に学年ごとに進級するために必要な最低取得単位と条件が定められているので注意して履修計画をたてること。

1. 学部内共通科目の履修方法

学部内共通科目は理工学部6学科の共通科目であるが、本学科では、「物理実験」、「計算機基礎実習Ⅰ」は必修科目、「学外実習（キャリア実践実習）」、「グローバル人材育成プログラムⅠ（海外キャリア実践教育及び実習A）」を選択必修とし、特に重要としている。また、「科学技術英語」は特別研究に役立つばかりでなく、今後の国際化に対応するためにも必修としている。

2. 学科固有科目の履修方法

学科固有の専門科目には、機械システム工学を学ぶものとして修得を義務付けられている必修科目と、各自の興味に応じて自由に選べる選択科目が用意されている。なお、「基礎数学」と「基礎物理学」は、機械システム工学に関連する多くの専門科目を学ぶための基礎となる重要な科目であるので、高等学校において物理ⅠB、物理Ⅱや数学Ⅲを履修していない学生およびそれらが苦手な学生は積極的に受講すること。「基礎数学」と「基礎物理学」および他学科の固有科目を修得したものは、自由選択科目として本学科の卒業要件単位数に含めることができる。なお、「基礎数学」と「基礎物理学」は、1年次のみ受講可能であるので注意すること。

3年次までに配当されている「実験・実習」に分類される必修科目は、4年次に進級する際にすべて修得していることが必要条件となっている。これらの科目は定められた年次で修得しておかないと4年間で卒業することが困難となるので特に注意すること。また、必修科目を配当年次で修得できなかった場合、次年度で履修したい科目と時間割が重なるなどして履修計画をたてる際に制限が生じることがあるので留意すること。

3. 卒業・進級の要件

(1) 卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区分		種類	単位数
教養教育科目 (共同開講科目)	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
		(小計)	(6)
学部 共通科目		必修	6
		選択必修	2
		選択	10 A)
		(小計)	(18)
学科固有科目		必修	53
		選択	26
		(小計)	(79)
自由選択科目		選択	9 B)
		(小計)	(9)
合 計			134

⚠ 注意事項

- A) 学部内共通科目は原則として総合分野から4単位以上取得すること。
- B) 自由選択科目については、区分を問わず修得することができる(随意科目は除く)。なお、基礎数学、基礎物理学、他学科科目は自由選択科目とする(他学科科目の単位制限無し)。

(2) 進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3) 進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区分		単位数
2年進級	必修科目単位数	14
	卒業要件総取得単位数	30 C)
3年進級	必修科目単位数	30 E)
	卒業要件総取得単位数	62 D)
4年進級	必修科目単位数	62 E)
	卒業要件総取得単位数	112 F)
卒 業	必修科目単位数	73
	卒業要件総取得単位数	134

⚠ 注意事項

- C) 特別措置として、1年次留年生は、2年次配当の実験・実習科目(物理実験、計算機実習Ⅱ、計算機応用実習)以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。
- D) 特別措置として、2年次留年生は、3年次配当の実験・実習・演習科目(機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、学外実習(キャリア実践実習)、グローバル人材育成プログラムⅠ・Ⅱ(海外キャリア実践教育及び実習A・B)、要素設計、設計製図、材料力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習、機械システム工学総合演習、セミナー)以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。
- E) 選択必修科目である学外実習(キャリア実践実習)もしくはグローバル人材育成プログラムⅠ(海外キャリア実践教育及び実習A)の2単位を含む。
- F) 原則として、物理実験、計算機基礎実習Ⅰ、計算機実習Ⅰ、計算機実習Ⅱ、計算機応用実習、機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、学外実習(キャリア実践実習)もしくはグローバル人材育成プログラムⅠ・Ⅱ(海外キャリア実践教育及び実習A・B)、機械製図Ⅰ、機械製図Ⅱ、要素設計、設計製図、機械システム工学総合演習、セミナーは全て修得していること。また、材料力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習については、2科目以上修得していること。

4. 設置科目

区 分		授 業 科 目	単位数		配当年次（前期・後期）								備 考
					1 年		2 年		3 年		4 年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
学部内共通科目	英語	科学技術英語	必修	2							○		
	化学	化学概論Ⅰ	選択	2	○								
		化学概論Ⅱ	選択	2		○							
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2			○						
		生物学概論Ⅱ	選択	2				○					
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○								
		地学概論Ⅱ	選択	2		○							
	実験・実習	物理実験	必修	2				○					
		化学基礎実験	選択	2				○					
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○								
		自然観察実習	選択	2	○								
		生物学実験	選択	2						○			
		地学実験	選択	2	○								
		学外実習(キャリア実践実習)	選必	2					○				
		海外キャリア実践教育及び実習A	選必	2					○				
		海外キャリア実践教育及び実習B	選択	2					○				
		グローバル人材育成プログラムⅠ	選必	2					○				
		グローバル人材育成プログラムⅡ	選択	2					○				
	総合科目	科学思想史	選択	2				○			○		
		情報学概論	選択	2				○			○		
		環境科学	選択	2				○			○		
		資源エネルギー論	選択	2					○			○	
		人間工学	選択	2					○			○	
		工学概論	選択	2				○			○		
		生体情報概論	選択	2				○			○		
		工業経済	選択	2					○			○	
		技術者倫理	選択	2				○			○		
		生態学概論	選択	2				○			○		
		地域環境概論	選択	2				○			○		
		地球環境概論	選択	2					○			○	
		MOT概論	選択	2				○			○		
		MOT演習	選択	2					○			○	
		知的財産概論	選択	2		○			○			○	
		キャリアデザイン	選択	2	○								
		キャリアプランニング	選択	2			○						
2009～2010年度入学生対象 履修希望者は必ず A・B 両方を登録すること													
2011年度以降入学生対象 履修希望者は必ず I・II 両方を登録すること													
原則として総合 分野より4単位 以上取得するこ と。													

2009～2010年度入学生対象
履修希望者は必ずA・B
両方を登録すること
2011年度以降入学生対象
履修希望者は必ずI・II
両方を登録すること

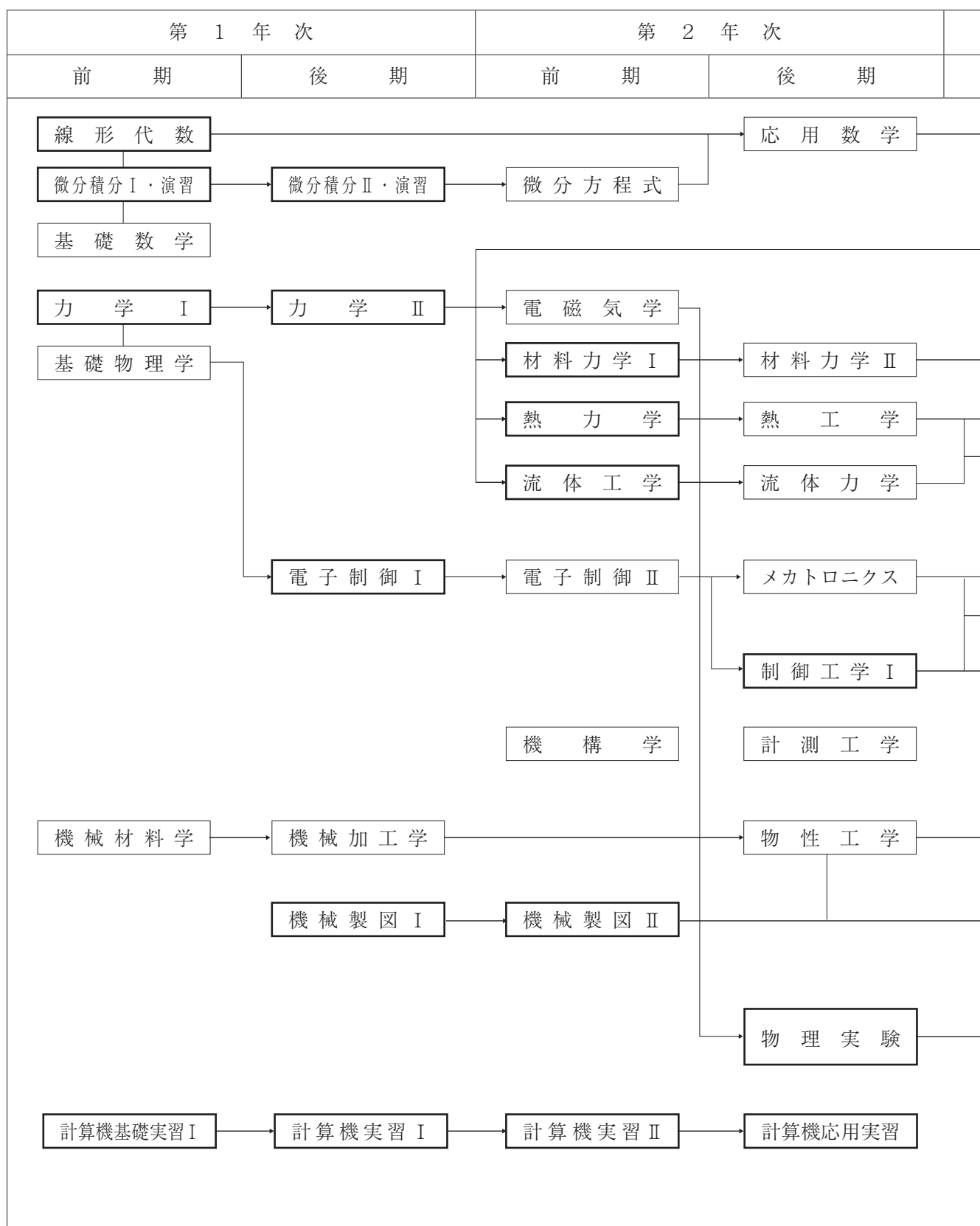
〔原則として総合
分野より4単位
以上取得すること。〕

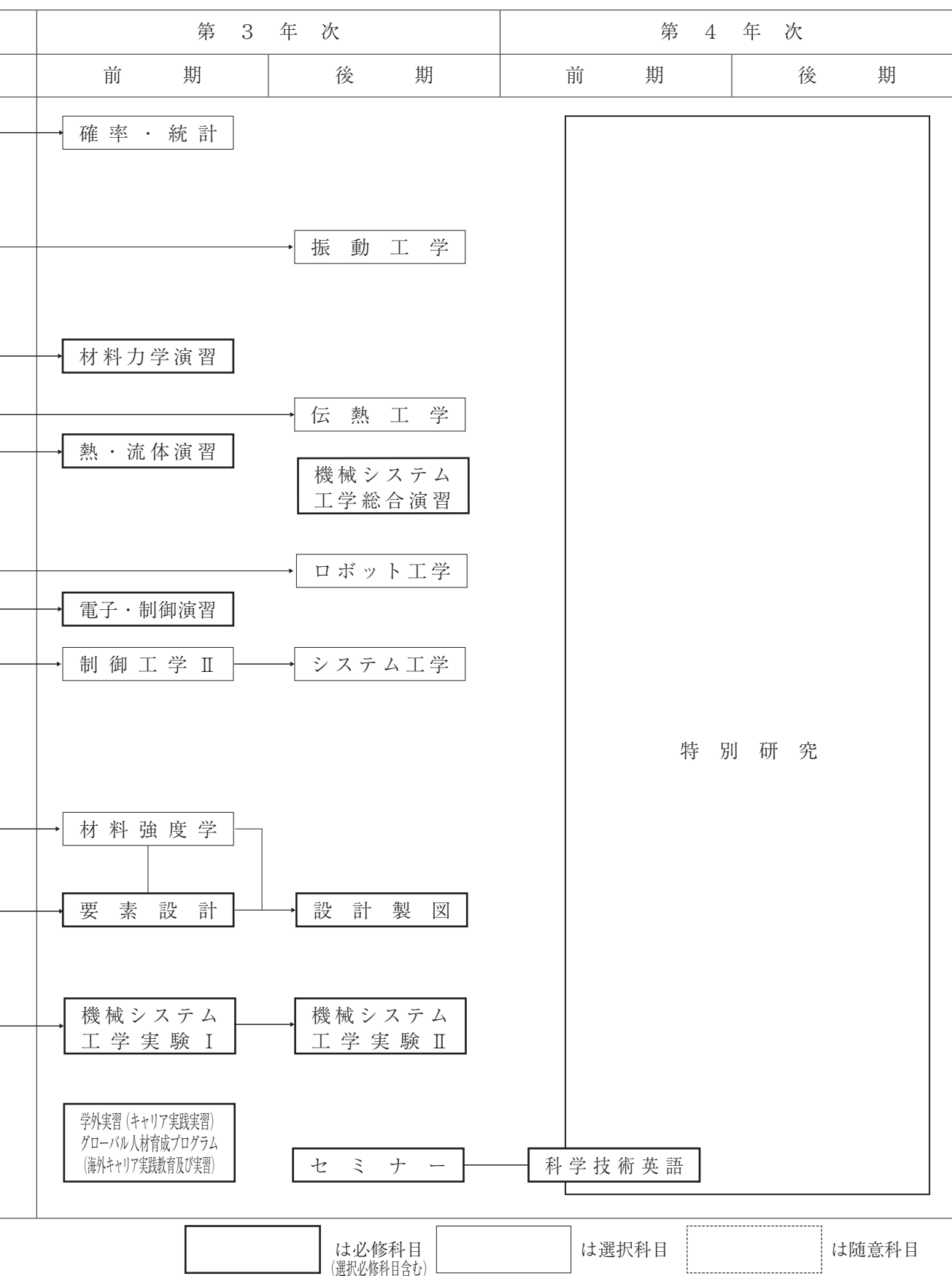
区 分		授 業 科 目	単位	数	配当年次（前期・後期）								備 考
					1 年		2 年		3 年		4 年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
学科固有科目	数 学	基礎数学	選択	2	○								注1)
		線形代数	必修	2	○								
		微分積分Ⅰ・演習	必修	3	○								
		微分積分Ⅱ・演習	必修	3		○							
		微分方程式	選択	2			○						
		応用数学	選択	2				○					
		確率・統計	選択	2					○				
	物 理 学	基礎物理学	選択	2	○								注1)
		力学Ⅰ	必修	2	○								
		力学Ⅱ	必修	2		○							
		電磁気学	選択	2			○						
	力 学	材料力学Ⅰ	必修	2			○						
		材料力学Ⅱ	選択	2				○					
		材料力学演習	必修	1					○				
		振動工学	選択	2						○			
	熱・流体	流体工学	必修	2			○						
		熱力学	必修	2			○						
		流体力学	選択	2				○					
		熱工学	選択	2				○					
		熱・流体演習	必修	1					○				
		伝熱工学	選択	2						○			
	材料・加工	機械材料学	選択	2	○								
		機械加工学	選択	2		○							
		材料強度学	選択	2					○				
		物性工学	選択	2				○					
	メカトロ・制御	電子制御Ⅰ	必修	2		○							
		電子制御Ⅱ	選択	2			○						
		機構学	選択	2			○						
		メカトロニクス	選択	2				○					
		制御工学Ⅰ	必修	2				○					
		制御工学Ⅱ	選択	2					○				
		電子・制御演習	必修	1					○				
		計測工学	選択	2				○					
		システム工学	選択	2						○			
		ロボット工学	選択	2							○		
		特別講義	選択	2					○		○		
	実験・実習科目	機械製図Ⅰ	必修	2		○							
		機械製図Ⅱ	必修	2			○						
		要素設計	必修	2				○					
		設計製図	必修	2					○				
		計算機実習Ⅰ	必修	2		○							
		計算機実習Ⅱ	必修	2			○						
		計算機応用実習	必修	2				○					
		機械システム工学実験Ⅰ	必修	2					○				
		機械システム工学実験Ⅱ	必修	2						○			
		機械システム工学総合演習	必修	2						○			
		プレゼンテーション演習	随意	②					○				
		セミナー	必修	2						○			
		特別研究	必修	6							○	○	

「必修」＝必修科目、「選必」＝選択必修科目、「選択」＝選択科目

⚠ 注意事項 1) 「基礎数学」および「基礎物理学」は1年次のみ履修可能であり、自由選択科目として認定する。

5. カリキュラムフローチャート





③固有科目の履修方法 【2007・2008年度入学生】

機械システム工学では広範囲の知識とそれを実際に応用する能力が必要とされる。そのため本学科ではフローチャートに示すように、数学や物理、計算機基礎実習などの基礎科目を学び、それらを基礎として「力学」、「熱・流体」、「電子・制御」、「材料・加工」、「機械設計」、「システム」などに分類される学科固有科目の専門科目を系統的に修得していくカリキュラムとなっている。なお、フローチャートは学科固有科目を中心として主に関係が深いものを線で結んでいるが、結ばれていない科目も互いに密接に関連している。本学科では、「実験・実習」や「演習」に分類される科目を重視しており、3年次までに配当されている講義内容の理解をより深いものとするよう配慮している。また、機械システム工学総合演習では、各々の講義で学んできたものを有機的に結びつけ、機械システム工学として体系づける。4年次における特別研究（卒業研究）では、3年次までに培った機械システム工学の基礎を土台として1年間をかけて、機械システム工学の諸問題に関する国内外の論文・文献の講読と、各自個別の研究テーマに関する研究を行い、卒業論文の作成と発表を行う。

履修単位に関する具体的条件等は、「卒業・進級の要件」、「設置科目」にあるので、注意事項も含めてよく読むこと。特に学年ごとに進級するために必要な最低取得単位と条件が定められているので注意して履修計画をたてること。

なお、本学理工学部機械システム工学科を卒業した者で、卒業後建築に関して2年以上の実務経験を有する者には、二級建築士試験および木造建築士試験の受験資格が認定される。

1. 学部内共通科目の履修方法

学部内共通科目は理工学部6学科の共通科目であるが、本学科では、「物理実験」、「計算機基礎実習Ⅰ」、および「学外実習」は必修科目とし、特に重要としている。また、「科学技術英語」は特別研究に役立つばかりでなく、今後の国際化に対応するためにも必修としている。

2. 学科固有科目の履修方法

学科固有の専門科目には、機械システム工学を学ぶものとして修得を義務付けられている必修科目と、各自の興味に応じて自由に選べる選択科目が用意されている。なお、「基礎数学」と「基礎物理学」は、機械システム工学に関連する多くの専門科目を学ぶための基礎となる重要な科目であるので、高等学校において物理ⅠB、物理Ⅱや数学Ⅲを履修していない学生およびそれらが苦手な学生は積極的に受講すること。「基礎数学」と「基礎物理学」および他学科の固有科目を修得したものは、自由選択科目として本学科の卒業要件単位数に含めることができる。なお、「基礎数学」と「基礎物理学」は、1年次のみ受講可能であるので注意すること。

3年次までに配当されている「実験・実習」に分類される必修科目は、4年次に進級する際にすべて修得していることが必要条件となっている。これらの科目は定められた年次で修得しておかないと4年間で卒業することが困難となるので特に注意すること。また、必修科目を配当年次で修得できなかった場合、次年度で履修したい科目と時間割が重なるなどして履修計画をたてる際に制限が生じることがあるので留意すること。

3. 卒業・進級の要件

(1) 卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区分		種類	単位数
教養教育科目 (共同開講科目)	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
		(小計)	(6)
学部 共通科目		必修	8
		選択	10 A)
		(小計)	(18)
学科固有科目		必修	53
		選択	26
		(小計)	(79)
自由選択科目		選択	9 B)
		(小計)	(9)
合 計			134

⚠ 注意事項

- A) 学部内共通科目は原則として総合分野から4単位以上取得すること。
- B) 自由選択科目については、区分を問わず修得することができる(随意科目は除く)。なお、基礎数学、基礎物理学、他学科科目は自由選択科目とする(他学科科目の単位制限無し)。

(2) 進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3) 進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区分		単位数
2年進級	必修科目単位数	14
	卒業要件総取得単位数	30 C)
3年進級	必修科目単位数	30
	卒業要件総取得単位数	62 D)
4年進級	必修科目単位数	62
	卒業要件総取得単位数	112 E)
卒 業	必修科目単位数	73
	卒業要件総取得単位数	134

⚠ 注意事項

- C) 特別措置として、1年次留年生は、2年次配当の実験・実習科目(物理実験、計算機実習Ⅱ、計算機応用実習)以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。
- D) 特別措置として、2年次留年生は、3年次配当の実験・実習・演習科目(機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、学外実習、要素設計、設計製図、材料力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習、機械システム工学総合演習、セミナー)以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。

E) 原則として、物理実験、計算機基礎実習Ⅰ、計算機実習Ⅰ、計算機実習Ⅱ、計算機応用実習、機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、学外実習、機械製図Ⅰ、機械製図Ⅱ、要素設計、設計製図、機械システム工学総合演習、セミナーは全て修得していること。また、材料力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習については、2科目以上修得していること。

4. 設置科目

区 分		授 業 科 目	単位数	配当年次（前期・後期）								備 考
				1 年		2 年		3 年		4 年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	
学部内 												

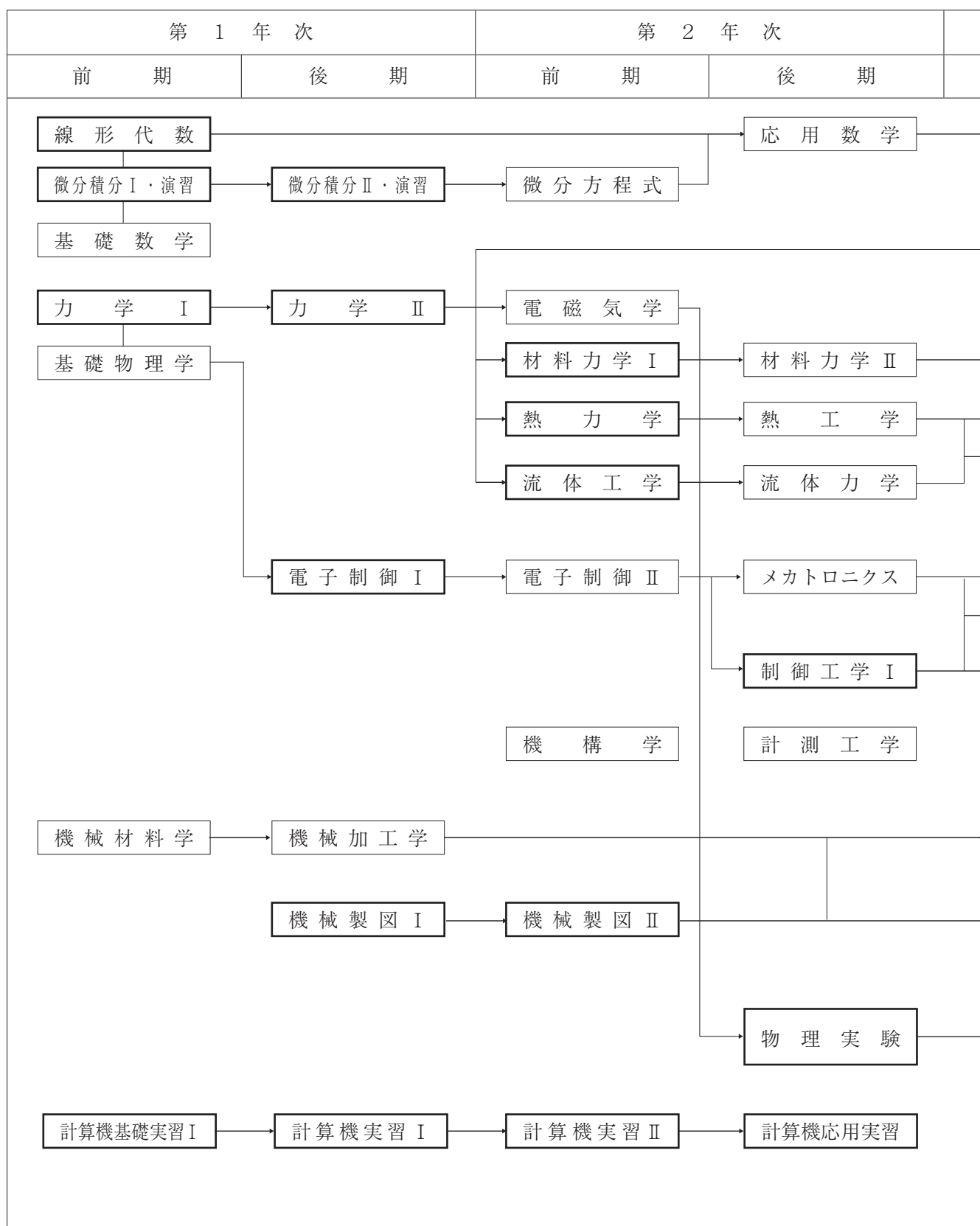
〔原則として総合分野より4単位以上取得すること。〕

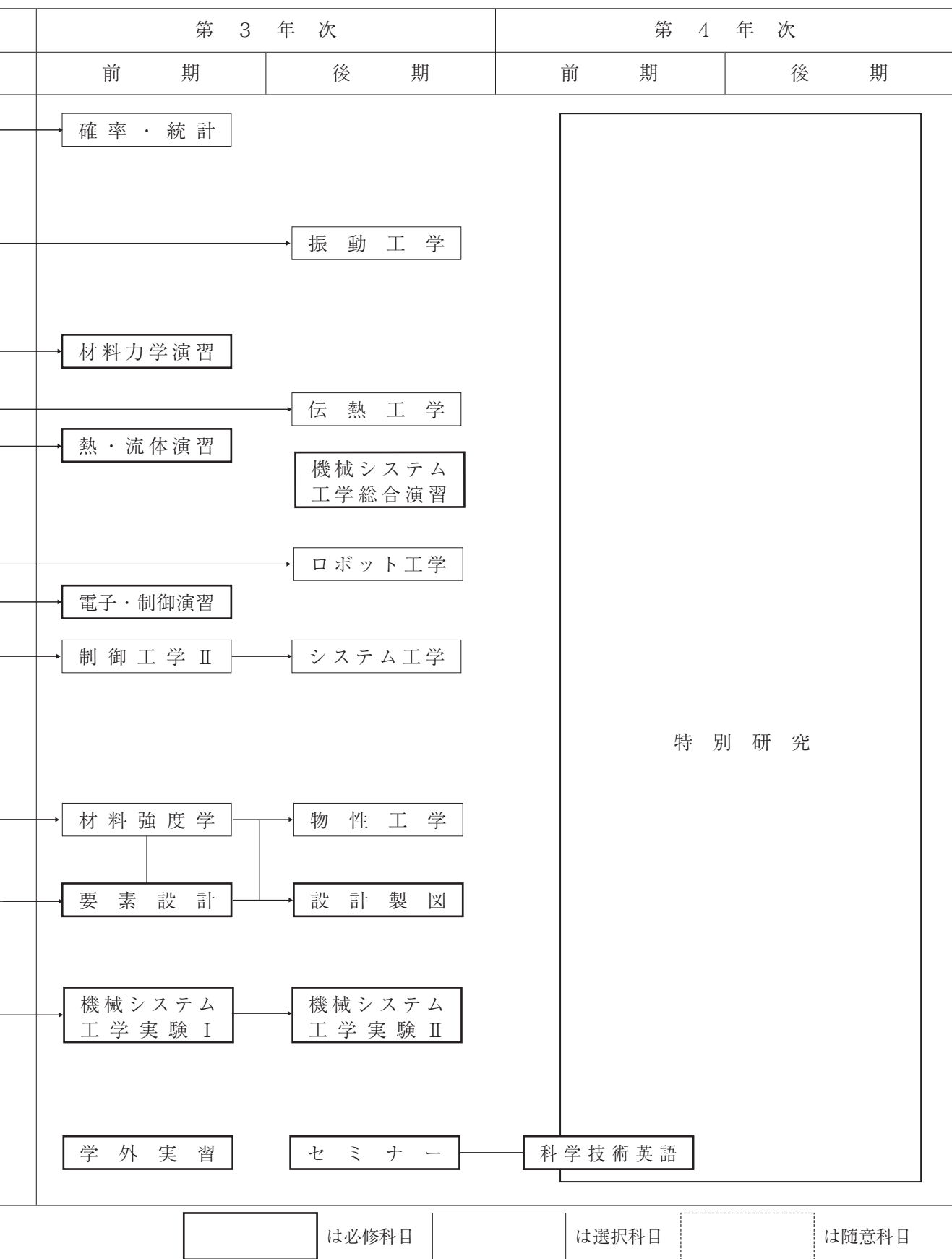
区 分		授 業 科 目	単位	数	配当年次（前期・後期）								備 考
					1 年		2 年		3 年		4 年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
学科固有科目	数 学	基礎数学	選択	2	○								注1)
		線形代数	必修	2	○								
		微分積分Ⅰ・演習	必修	3	○								
		微分積分Ⅱ・演習	必修	3		○							
		微分方程式	選択	2			○						
		応用数学	選択	2				○					
		確率・統計	選択	2					○				
	物 理 学	基礎物理学	選択	2	○								注1)
		力学Ⅰ	必修	2	○								
		力学Ⅱ	必修	2		○							
		電磁気学	選択	2			○						
	力 学	材料力学Ⅰ	必修	2			○						
		材料力学Ⅱ	選択	2				○					
		材料力学演習	必修	1					○				
		振動工学	選択	2						○			
	熱・流体	流体力学	必修	2			○						
		熱力学	必修	2			○						
		流体力学	選択	2				○					
		熱工学	選択	2				○					
		熱・流体演習	必修	1					○				
		伝熱工学	選択	2						○			
	材料・加工	機械材料学	選択	2	○								
		機械加工学	選択	2		○							
		材料強度学	選択	2					○				
		物性工学	選択	2						○			
	メカトロ・制御	電子制御Ⅰ	必修	2		○							
		電子制御Ⅱ	選択	2			○						
		機構学	選択	2			○						
		メカトロニクス	選択	2				○					
		制御工学Ⅰ	必修	2				○					
		制御工学Ⅱ	選択	2					○				
		電子・制御演習	必修	1					○				
		計測工学	選択	2				○					
		システム工学	選択	2						○			
		ロボット工学	選択	2							○		
		特別講義	選択	2					○		○		
	実験・実習科目	機械製図Ⅰ	必修	2		○							
		機械製図Ⅱ	必修	2			○						
		要素設計	必修	2					○				
		設計製図	必修	2						○			
		計算機実習Ⅰ	必修	2		○							
		計算機実習Ⅱ	必修	2			○						
		計算機応用実習	必修	2				○					
		機械システム工学実験Ⅰ	必修	2					○				
		機械システム工学実験Ⅱ	必修	2						○			
		機械システム工学総合演習	必修	2						○			
		プレゼンテーション演習	随意	②					○				
		セミナー	必修	2						○			
		特別研究	必修	6							○	○	

「必修」＝必修科目、「選択」＝選択科目

⚠ 注意事項 1) 「基礎数学」および「基礎物理学」は1年次のみ履修可能であり、自由選択科目として認定する。

5. カリキュラムフローチャート





③固有科目の履修方法 【2006年度以前入学生】

機械システム工学では広範囲の知識とそれを実際に応用する能力が必要とされる。そのため本学科ではフローチャートに示すように、数学や物理、計算機基礎実習などの基礎科目を学び、それらを基礎として「力学」「熱・流体」「メカトロ・制御」「材料・加工」「機械設計」「システム」などに分類される学科固有科目の専門科目を系統的に修得していくカリキュラムとなっている。なお、フローチャートは学科固有科目を中心として主に関係が深いものを線で結んでいるが、結ばれていない科目も互いに密接に関連している。本学科では、「実験・実習」に分類される科目を重視しており、3年次までに配当されている講義内容の理解をより深いものとするよう配慮している。また機械システム工学総合演習では、各々の講義で学んできたものを有機的に結びつけ、機械システム工学として体系づける。4年次におけるセミナーおよび特別研究（卒業研究）では、3年次までに培った機械システム工学の基礎を土台として1年間をかけて、機械システム工学の諸問題に関する国内外の論文・文献の講読と、各自個別の研究テーマに関する研究を行い、卒業論文の作成と発表を行う。

履修単位に関する具体的条件等は、「卒業・進級の要件」、「設置科目」にあるので、注意事項も含めてよく読むこと。特に学年ごとに進級するために必要な最低取得単位と条件が定められているので注意して履修計画をたてること。

なお、本学理工学部機械システム工学科を卒業した者で、卒業後建築に関して2年以上の実務経験を有する者には、二級建築士試験および木造建築士試験の受験資格が認定される。

1. 学部内共通科目の履修方法

学部内共通科目は理工学部6学科の共通科目であるが、本学科では、「理工学基礎実験A」、「計算機基礎実習Ⅰ・Ⅱ」、および「学外実習」は必修科目とし、特に重要としている。また、「科学技術英語」は4年次で行うセミナーおよび特別研究に役立つばかりでなく、今後の国際化に対応するためにも積極的に履修することが望ましい。

2. 学科固有科目の履修方法

学科固有の専門科目には、機械システム工学を学ぶものとして必要最低限の修得を義務付けられている必修科目と、各自の興味に応じて自由に選べる選択科目、さらに卒業要件に含まれない随意科目が用意されている。なお、物理学序論と数学序論は随意科目であるが機械システム工学に関連する多くの専門科目を学ぶための基礎となる重要な科目であるので、高等学校において物理ⅠB、物理Ⅱや数学Ⅲを履修していない学生およびそれらが苦手な学生は積極的に受講すること。また、他学科の開講科目を修得して、それらを本学科の卒業要件単位数の選択科目として6単位まで認める。

3年次までに配当されている「実験・実習」に分類される必修科目は、4年次に進級する際にすべて修得していることが必要条件となっている。これらの科目は定められた年次で修得しておかないと4年間で卒業することが困難となるので特に注意すること。また、必修科目を配当年次で修得できなかった場合、次年度で履修したい科目と時間割が重なるなどして履修計画をたてる際に制限が生じることがあるので留意すること。

3. 卒業・進級の要件

(1)卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区 分			単位数
共同(共通講科目)	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
		(小計)	(6)
	学部内共通科目	必修	8
選択		10 A)	
(小計)		(18)	
学科固有科目	必修	46	
	選択	42 B)	
	(小計)	(88)	
合 計			134

⚠ 注意事項

- A) 原則として総合分野より4単位以上を修得すること。
B) 他学科科目は6単位まで認める。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区 分		単位数
2年進級	必修科目単位数	14
	卒業要件総修得単位数	30 C)
3年進級	必修科目単位数	30
	卒業要件総修得単位数	62 D)
4年進級	必修科目単位数	56
	卒業要件総修得単位数	106 E)
卒 業	必修科目単位数	66
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

- C) 特別措置として、1年次留年生は、2年次配当の実験・実習科目（理工学基礎実験A、計算機実習Ⅰ、計算機実習Ⅱ）以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。
D) 特別措置として、2年次留年生は、3年次配当の実験・実習科目（機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、学外実習、要素設計、設計製図、機械システム工学総合演習）以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。

E) 原則として、次の科目をすべて修得していること。

理工学基礎実験A、計算機基礎実習Ⅰ、計算機基礎実習Ⅱ、計算機実習Ⅰ、計算機実習Ⅱ、機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、学外実習、機械製図Ⅰ、機械製図Ⅱ、要素設計、設計製図、機械システム工学総合演習

4. 設置科目

区 分		授 業 科 目	単位数		配当年次（前期・後期）								備 考
					1 年		2 年		3 年		4 年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
学部内 共通科目	語学	科学技術英語	選択	2						●	○		
		化学	化学概論Ⅰ	選択	2	○							
			化学概論Ⅱ	選択	2		○						
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2			○						
		生物学概論Ⅱ	選択	2				○					
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○								
		地学概論Ⅱ	選択	2		○							
	実験・実習	理工学基礎実験 A	必修	2				○					
		理工学基礎実験 B	選択	2				○					
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○								
		計算機基礎実習Ⅱ	必修	2		○							
		生物多様性実習 B	選択	2	○	●							
		生物学実験	選択	2					○				
		地学実験	選択	2	○								
		学外実習	必修	2					○				
	総合	科学思想史	選択	2				○		○			〔原則として総合分野より4単位以上取得すること。〕
		情報学概論	選択	2				○		○			
		環境科学	選択	2				○		○			
		資源エネルギー論	選択	2				○		○			
		人間工学	選択	2				○		○			
		工学概論	選択	2				○		○			
		生体情報概論	選択	2				○		○			
		工業経済	選択	2				○		○			
		技術者倫理	選択	2				○		○			
		生態学概論	選択	2				○		○			
		地球環境概論	選択	2				○		○			
		情報と職業	選択	2				○					
		MOT概論	選択	2				○		○			
		MOT演習	選択	2				○					
		知的財産概論	随意	②		○		○		○			
		キャリアデザイン	選択	2	○								
		キャリアプランニング	選択	2			○						
学科 有科目	数学	数学序論	随意	②	○								
		微積分Ⅰ・演習	必修	4	○								
		微積分Ⅱ・演習	必修	4		○							
		線形代数	必修	2	○								
		応用数学Ⅰ	選択	2	○	●							
		応用数学Ⅱ	選択	2			●	○					
		確率・統計	選択	2					○				
	物理学	物理学序論	随意	②	○								
		物理学Ⅰ	必修	2	○								
		物理学Ⅱ	選択	2		○							
		物理学Ⅲ	選択	2			○						
	力学	材料力学Ⅰ	必修	2			○						
		材料力学Ⅱ	選択	2				○					
		機構学	選択	2			○						
		機械力学	選択	2				○					
	熱・流体	熱力学	必修	2			○						
		熱工学Ⅰ	選択	2				○					
熱工学Ⅱ		選択	2					○					
流体工学Ⅰ		必修	2			○	●						
流体工学Ⅱ		選択	2				○	●					
エネルギー変換工学		選択	2						○				
2011年度不開講													

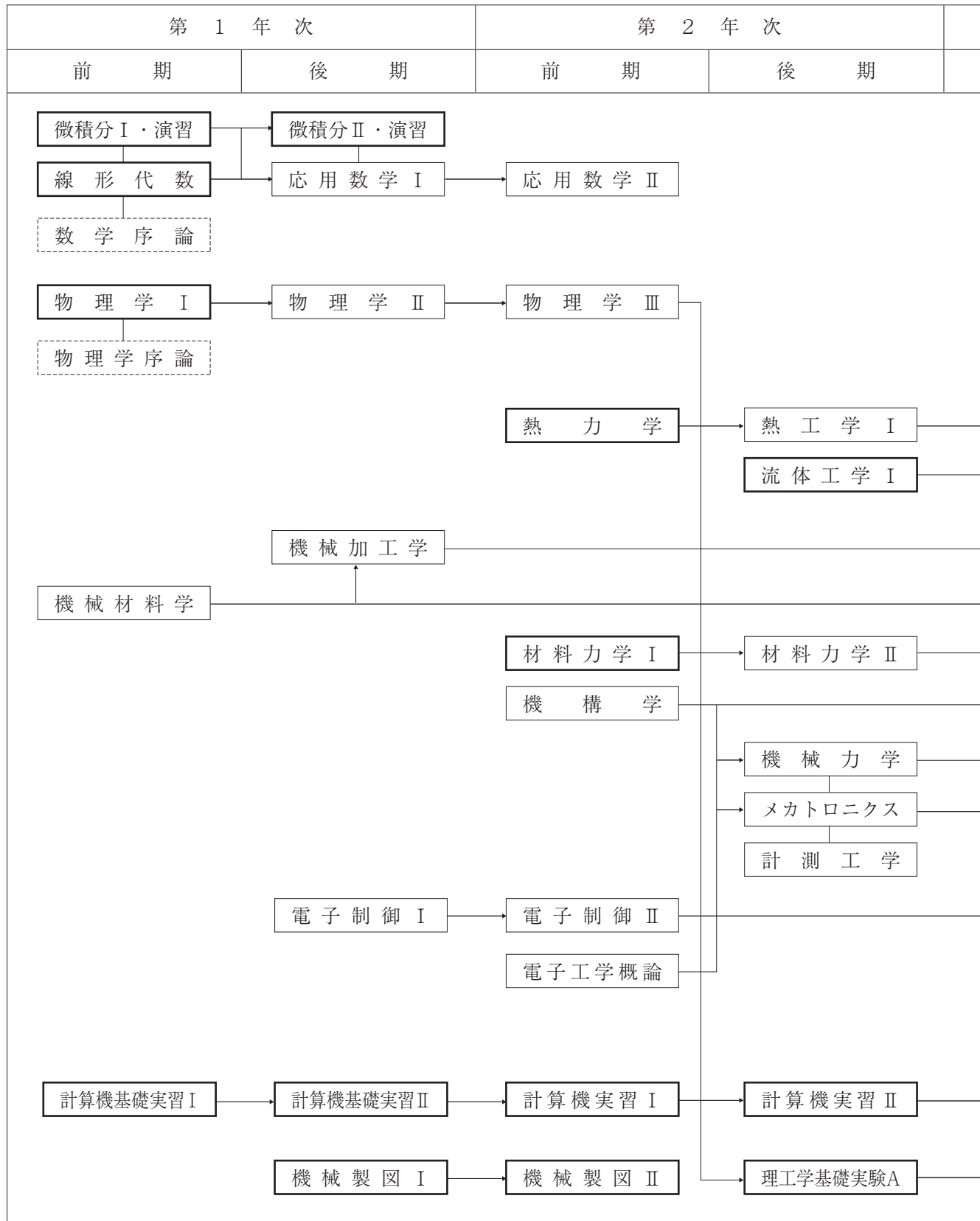
区 分		授 業 科 目	単位数		配当年次（前期・後期）								備 考
					1 年		2 年		3 年		4 年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
学 科 固 有 科 目	メカトロ・制御	電子工学概論	選択	2			○					2011年度不開講	
		電子制御Ⅰ	選択	2		○							
		電子制御Ⅱ	選択	2		○							
		メカトロニクス	選択	2			○						
		制御工学Ⅰ	必修	2			○	●					
		制御工学Ⅱ	選択	2			○	●					
		ロボット工学	選択	2				○					
	材料・加工	機械材料学	選択	2	○								
		物性工学	選択	2					○				
		材料強度学	選択	2				○					
		機械加工学	選択	2		○							
	機械設計	機械製図Ⅰ	必修	2		○							
		機械製図Ⅱ	必修	2			○						
要素設計		必修	2				○						
設計製図		必修	2					○					
有 限 科 目	システム	システム工学A	選択	2					○			2011年度不開講	
		システム工学B	選択	2					○				
		計測工学	選択	2			○						
	実験・実習	機械システム工学実験Ⅰ	必修	2					○				
		機械システム工学実験Ⅱ	必修	2						○			
		計算機実習Ⅰ	必修	2		○	●						
		計算機実習Ⅱ	必修	2			○	●					
		計算機応用実習	選択	2			○	●					
		機械システム工学総合演習	必修	2					○				
		プレゼンテーション演習	随意	②					○				
		特別講義	選択	2					○	○			
		セミナー	必修	2						○			
		セミナー	必修	2						○	●		
特別研究	必修	6							○	2009年度以降3年次生対象			

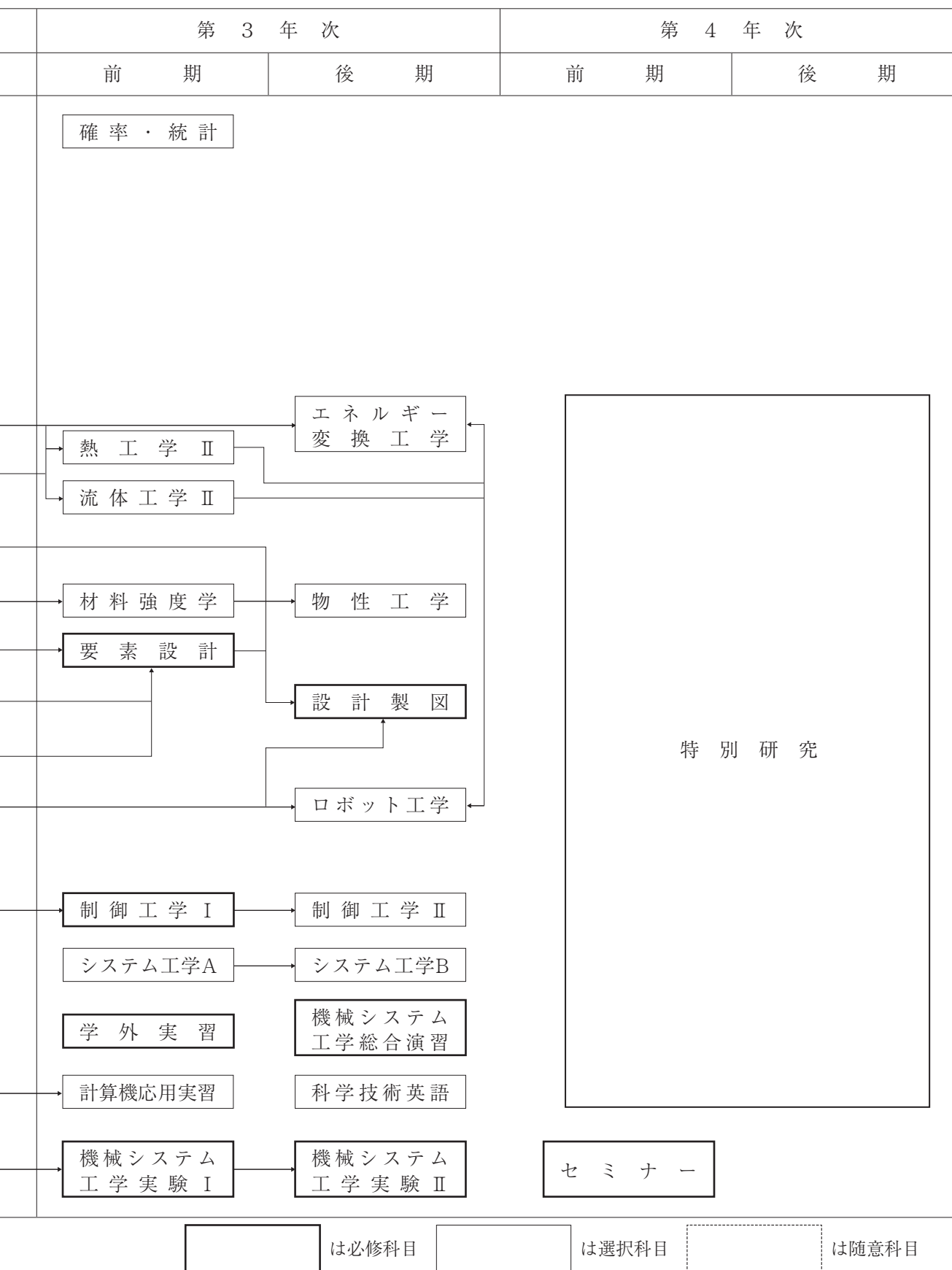
「必修」＝必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

⚠ 注意事項

- 1) ●は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他学科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

5. カリキュラムフローチャート





④学科固有科目カリキュラム対照表

2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
科目名	単位	科目名	単位
基礎数学	2	数学序論	2
線形代数	2	線形代数	2
		微積分Ⅰ・演習	4
		微積分Ⅱ・演習	4
微分積分Ⅰ・演習	3		
微分積分Ⅱ・演習	3		
微分方程式	2	応用数学Ⅰ	2
応用数学	2	応用数学Ⅱ	2
確率・統計	2	確率・統計	2
基礎物理学	2	物理学序論	2
力学Ⅰ	2	物理学Ⅰ	2
力学Ⅱ	2	物理学Ⅱ	2
電磁気学	2	物理学Ⅲ	2
材料力学Ⅰ	2	材料力学Ⅰ	2
材料力学Ⅱ	2	材料力学Ⅱ	2
材料力学演習	1		
振動工学	2	機械力学	2
流体力学	2	流体力学Ⅰ	2
熱力学	2	熱力学	2
流体力学	2	流体力学Ⅱ	2
熱工学	2	熱工学Ⅰ	2
熱・流体演習	1		
伝熱工学	2	熱工学Ⅱ	2
		エネルギー変換工学	2
機械材料学	2	機械材料学	2
機械加工学	2	機械加工学	2
材料強度学	2	材料強度学	2
物性工学	2	物性工学	2
		電子工学概論	2
電子制御Ⅰ	2	電子制御Ⅰ	2
電子制御Ⅱ	2	電子制御Ⅱ	2
機構学	2	機構学	2
メカトロニクス	2	メカトロニクス	2
制御工学Ⅰ	2	制御工学Ⅰ	2
制御工学Ⅱ	2	制御工学Ⅱ	2
電子・制御演習	1		
計測工学	2	計測工学	2
		システム工学A	2
システム工学	2	システム工学B	2
ロボット工学	2	ロボット工学	2
機械製図Ⅰ	2	機械製図Ⅰ	2
機械製図Ⅱ	2	機械製図Ⅱ	2
要素設計	2	要素設計	2
設計製図	2	設計製図	2
計算機実習Ⅰ	2	計算機実習Ⅰ	2
計算機実習Ⅱ	2	計算機実習Ⅱ	2

2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
科目名	単位	科目名	単位
計算機応用実習	2	計算機応用実習	2
機械システム工学実験Ⅰ	2	機械システム工学実験Ⅰ	2
機械システム工学実験Ⅱ	2	機械システム工学実験Ⅱ	2
機械システム工学総合演習	2	機械システム工学総合演習	2
特別講義	2	特別講義	2
セミナー	2	セミナー	2
科学技術英語	2	科学技術英語	2
特別研究	6	特別研究	6
物理実験	2	理工学基礎実験A	2
学外実習	2	学外実習	2
学外実習（キャリア実践実習）※2009年度以降入学生	2		
海外キャリア実践教育及び実習A ※2009年度以降入学生	2		
海外キャリア実践教育及び実習B ※2009年度以降入学生	2		
計算機基礎実習Ⅰ	2	計算機基礎実習Ⅰ	2
		計算機基礎実習Ⅱ	2

⑤他学科科目の履修について

2001年度より理工学部ではカリキュラム改革の一環として、自主的学習プランの作成と幅広い知識の習得や総合的思考力を養うために、他学科科目の履修を大幅に拡大しました。履修を希望する者は以下の事項に注意して履修してください。

1. 履修可能他学科科目

＜科目＞

各学科から提供された科目の中から、あなたの所属する学科が履修を認めた科目。
(理工学部教務課備えつけの、他学科科目受講可否一覧を参照してください。)

＜配当年次・対象＞

科目提供学科での配当年次および対象入学年度に従います。
履修要項で確認してください。

＜開講曜講時＞

理工学部教務課カウンターに設置している他学科時間割表で確認してください。

2. 単位認定

他学科科目は、各学科次の通り単位認定されます。

＜数理情報学科＞

2006年度以前入学生は、フリーゾーン科目として16単位まで認定。

2007年度以降入学生は、フリーゾーン科目として10単位まで認定。

＜電子情報学科＞

学科固有科目の選択科目として6単位まで認定。

＜機械システム工学科＞

2006年度以前入学生は、学科固有科目の選択科目として6単位まで認定。

2007年度入学生より、自由選択科目として9単位まで認定。

＜物質化学科＞

学科固有科目選択科目として6単位まで認定。

＜情報メディア学科＞

フリーゾーン科目として8単位まで認定。

＜環境ソリューション工学科＞

フリーゾーン科目として8単位まで認定。

上記以外の学生は随意科目として認定。

3. 履修方法

受講登録より事前に、必ず『他学科科目履修届』(理工学部教務課窓口にて配付)を提出してください。(提出がない場合、受講、単位認定ができない場合があります。)

履修制限単位数に含まれます。

⚠ 注意事項

科目によっては該当学科の受講生を優先するため、受講可能人数を制限する場合があります。(その場合、掲示にて発表しますので注意してください。)

⑥単位互換制度について

単位互換制度とは、他大学が提供する科目のうち、理工学部があらかじめ履修可能科目（掲示等でお知らせします）として認めた科目を「単位互換履修生」として受講し、試験に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定される制度です。受講料は無料です。（ただし、科目により実習・演習料金等が別途必要となる場合があります。）

また、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」においても「単位互換科目」としての授業科目が各大学から提供されています。本学部の学生が「他大学」または「キャンパスプラザ京都」において提供された科目を受講する際は、「単位互換履修生」として扱われることになっています。

理工学部では、大学コンソーシアム京都の単位互換制度と、環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度を利用することができます。

1. 履修条件

【2007年度以前入学生】

随意科目として、大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。

【2008年度以降入学生】

学科	単位互換制度名	備 考			
		単位認定	登録制限	受講対象	備考
数理情報学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中にフリーゾーン科目として上限2単位まで単位を認定する。	履修登録制限単位には含まない。	1年次生～3年次生 (卒業年次生は随意科目として受講可。)	大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。
	環びわ湖大学コンソーシアム				
機械システム工学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中に自由選択科目として上限2単位まで単位を認定する。			
	環びわ湖大学コンソーシアム				
電子情報学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中に教養教育科目の総合科目として上限2単位まで単位を認定する。			
物質化学科	環びわ湖大学コンソーシアム				
情報メディア学科					
環境ソリューション工学科	環びわ湖大学コンソーシアム				

2. 「単位互換履修生」の学籍およびその取り扱い

- ①履修手続きを完了した者には、科目開設大学における「単位互換履修生」となります。
- ②単位互換履修生は許可を受けた授業科目について受講することができ、当該科目についての試験に合格すれば、単位の認定を受けることができます。
- ③単位互換履修生は、自分が受講する科目開設大学の定める範囲において、履修期間中に限りその大学の施設（図書館等）を利用することができます。

3. 試験について

試験期間は、科目開設大学の定めるところにより実施されますので、当該科目と本学の試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口にご相談してください。

なお、単位互換科目に関し本学定期試験と重なった場合の取扱いは以下のとおりです。

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱い科目

本学の授業科目	単位互換科目	対応方法	本学の科目の追試対象	追受試験料
◎	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
○	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
◎	○	本学の科目を優先して受験すること。ただし、本人の判断により選択可能。	認める	必要
○	○	本人の判断により選択	認める	必要

4. その他の注意事項

単位互換科目のほとんどは人数制限があり、希望者全員が受講できるものではありません。しかしながらその一方では、受講が許可されたにも関わらず受講を放棄する学生も多数います。許可された科目を放棄することは、受講を許可されなかった学生のみならず、科目開設大学にも大変な迷惑をかけることになります。出願にあたっては、途中で放棄することのないよう慎重に科目を選択し、受講が許可された場合には必ず最後まで受講するようにしてください。

5. 大学コンソーシアム京都の単位互換制度について

大学コンソーシアム京都においては、1994年度から京都地域の大学および短期大学が単位互換の協定を締結し、各大学から特色ある科目を提供することによって、相互に科目履修のできる「単位互換授業」の制度を設置、さらには、1998年度からは、学生が在学中に企業や行政機関およびNPO・NGO団体等において就業体験をする「インターンシップ・プログラム」を開講し、これらの事業内容を年々充実すると共に継続的に発展させています。

この「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」等の大学コンソーシアムの事業には、本学を含め50以上の大学および短期大学が参加していることもあり、これまでも多くの学生が参加しています。

これらの教育プログラムの具体的な内容等の案内および出願手続きの資料等については、今後、理工学部教務課（および「インターンシップ・プログラム」についてはインターンシップ支援オフィス）窓口にて配付する予定です。

(1) 出願手続きについて

「大学コンソーシアム京都 単位互換制度」で提供される授業の履修を希望する学生は、前期・後期・集中科目とも、4月初旬の指定された登録日に出願手続きをおこなってください。

対象科目	登録日
全科目（前期科目・後期科目・集中科目すべて）	4月1日（月）9：00～4月10日（水）12：00

出願手続きは、ポータルサイトにログインして「大学コンソーシアム京都単位互換出願」に入力してください。なお、受講機会拡大のため、集中科目・後期科目の定員に余裕がある科目について、6月初旬と9月中旬に追加登録をおこないます。（9月追加登録は後期科目の定員に余裕がある科目のみとなります）

科目開設大学の都合により、男子学生の受講が制限されたり、科目の性質から学部および学年が制限される場合があるので注意してください。受講資格については、「単位互換開講科目シラバスWeb」または募集ガイドの「単位互換科目詳細」の項を参照してください。

(2)履修許可および履修手続き

申し込み者多数の場合は、選考（書類選考等）をおこなう場合があります。科目開設大学からの選考結果は4月末頃掲示でお知らせします。許可を受けた者は、科目開設大学によっては、指定の期日までに所定の手続き（身分証明書用写真、実習費用の必要な場合には、費用の納入など）を必要とする場合がありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

- 休講・補講・教室変更等の連絡は、大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。

ホームページアドレス <http://www.consortium.or.jp/>

6. 「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都が実施する「インターンシップ・プログラム」には、以下のプログラムが用意されています。

- ①短期実践型（夏期）「ビジネスコース」・「パブリックコース」

夏期休暇を中心としたインターンシップを企業や行政機関およびNPO・NGO団体等においておこなう。

- ②長期プロジェクト型「プログレスコース」

3～6ヶ月の長期にわたり企業、NPOなどで実際にひとつのプロジェクトを担当する。

「インターンシップ・プログラム」は理工学部では最終評価に合格すれば、下記にしたがって単位が認定されます。なお、インターンシップ・プログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

学部	学科・専攻	科目名称 (学則上の名称)	科目 単位数	単位数 (上限)	科目区分	必須・ 選択区分	対象年次	単位認定 の取り扱い	備 考
理工 学部	全学科	****	**	**	*****	*****	1～2年次生	単位認定 対象外	
		学外実習	2	2単位	固有科目	学科によっ て異なる。	3年次生	合格(G) ※不合格(D)	3年次生受講生は、「学 外実習」で読み替える。

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課にて確認してください。

これらの「インターンシップ・プログラム」の受講を希望する学生は、本学の授業や定期試験等と「インターンシップ・プログラム」の日程が重なることも考えられますので理工学部教務課窓口で事前に相談してください。

なお、コースのプログラム内容等については、2013年度の「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」で確認してください。

- (1)資格要件 理工学部学生の履修条件は以下のとおりです。

3年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

- (2)出願手続について

理工学部教務課、またはインターンシップ支援オフィス窓口において、「インターンシップ実習生募集ガイド」と受講を希望するコースの「インターンシップ・プログラム出願票」を受け取り、「募集ガイド」を熟読のうえ、「出願票」に必要事項を記入、写真を貼付し、キャンパスプラザ京都の「大学コンソーシアム京都事務局窓口」に定められた期日までに提出してください。なお、出願できるのは、1名につき1コースであり、複数コースへの出願、同一コースの重複出願があった場合は、その全てが無効になるので注意してください。

(3) インターンシップ・プログラムの枠組みについて

「事前学習」→「実習（中間指導）」→「事後学習」をひとつの枠組みとした、各コースの目的に沿ったプログラムの学習・実習がおこなわれます。

① 事前学習について

実習に先だって、実習が有意義なものとなるように準備に万全をきすためのプログラムで、オリエンテーション、実習先の研究を通じ職業意識を啓蒙するディスカッション、最低限必要なパソコンのスキルアップやビジネスマナー講座などがあります。

② 実習について

実習先において正（準）社員・職員と同じ責任と意識をもった就業体験ができるよう、各受入先では特色あるプログラムが策定されています。

(4) 実習先の決定について

実習生の希望や適性を考慮して、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の総合コーディネーター（大学教員）を中心とした「選考委員会」にて決定されます。この際、受け入れ人数の問題等によって、必ずしも希望する業界や職種で実習できない場合があることを出願時から理解しておいてください。

7. 環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度について

環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度が提供する科目を履修し、それを単位として認定する制度です。この制度は、2005年度から開始され、滋賀県特有の内容をテーマにした科目や各大学や短期大学の学部・学科・専攻の特徴的な科目が提供されています。本学の学生は本学の定める範囲において、単位互換科目を受講することができます。

(1) 出願手続きについて

環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度で提供される科目の履修を希望する学生は、指定された登録期限日までに出願手続きをおこなってください。出願書類は、カウンター配布の「環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度 出願票」を1科目1枚として、事前に各学科教務委員の確認を得た上で、理工学部教務課窓口へ提出してください。

受講料は、実習費等が別途必要な場合を除いて無料です。ただし、実習費等が必要な科目については、履修許可通知が届いた後、科目開設大学の指示にしたがって納入してください。

(2) 履修許可および履修手続き

出願者多数の場合は、科目開設大学において選考が行われ（原則として、出願票に各自が記載した「志望理由」をもとに選考されます）、選考結果は本学を通じて出願者に通知します。許可通知は4月末頃の予定です。前期科目の場合、出願して履修許可通知があるまでの4月前半に授業が開始されることがあります。この場合、履修許可通知があるまでは、その出願科目を仮受講してください。

許可通知の後、科目開設大学によっては写真提出等の別途手続きを必要とする場合がありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

⑦日本技術者教育認定機構（JABEE）について

1. JABEEとは

JABEEとは「日本技術者教育認定機構」のことです。英語名の“Japan Accreditation Board for Engineering Education”の頭文字をとったもので「ジャビー」と愛称されています。JABEEは、大学などの高等教育機関のプログラムを審査し、その内容が国際的に認められるレベルにあり、技術者として活動するために必要な知識や能力の養成に成功していると判断したとき、認定を与えます。

2. JABEEによる認定制度

JABEEによる審査は、定められた明確な基準に照らし、書類審査と実地審査に基づいて、厳密かつ公正に行われます。JABEEはまた、アメリカ、イギリスを始め、世界各国が加盟するワシントン協定に加盟しており、JABEEの認定は国際的な認定として認められています。

3. 認定の基準

JABEEは以下の基準をすべて満たした技術者教育プログラムに対して認定を与えます。

- (1)大学や教育プログラムは、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。
- (2)教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければならない。
- (3)教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。
- (4)入学学生の質、教員、設備、大学のサポート、財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

これらの項目は、教育機関が、整然とした教育目標と教育戦略を持ち、必要な水準の教育活動を維持し継続的に改善していくために、人的資源や設備が組織的にも財務的にも充分であることを要求するものです。（JABEEホームページより）

4. 認定を受けるメリット

JABEEから認定を受けるためには、基準を満たすため数々の教育改善を継続的に実行することが求められます。また、それを客観的に説明する努力も必要となります。このようにして、学部や学科での教育内容や方法に継続的な改善が加えられるので、学生諸君は常に社会の要求に合致した質の高い教育を受けられることが保証されます。また、JABEE認定プログラムを修了するということは、国際的に通用する技術者として認められるための第一歩を踏み出すことでもあります。その評価が、卒業後の皆さんの活躍により益々高まり、広範囲なものになることを期待します。また、修了生には技術士になるための1次試験（技術士補試験）が免除されるなどの直接的なメリットも期待できます。

5. 理工学部における取り組み

本学理工学部ではJABEE認定に対し深い関心を寄せており、2003年度には、物質化学科が関西にある私立大学の化学系としては初めて、JABEEの認定を受けました。

⑧卒業年次生の大学院授業科目の履修について

理工学部では、卒業年次生のうち特に優秀な学生に対し、学部における修学に影響のない範囲で本学大学院理工学研究科科目（以下、大学院科目）の履修を認めています。この制度の利用者には大学院への進学を奨励するため、学内推薦入学試験の受験を要件としています。

大学院科目の履修ならびに学内推薦入学試験の受験に関して、指導教員または教務委員とよく相談することをおすすめします。

また、大学院理工学研究科修士課程1年修了制を利用して、大学院理工学研究科修士課程の在学期間を短縮することが可能です。これは、文部科学省の大学院設置基準および本学大学院学則第12条に基づき実施されるものです。

1. 履修出願資格

大学院科目の履修を出願できる者は、次の各号に該当し、かつ研究科委員会の定める要件を満たさなければなりません。

- ①本学理工学部の卒業年次生
- ②大学院科目を履修する能力を有する者
- ③本学大学院理工学研究科への進学を希望している者であって、かつ学内推薦入学試験（詳細は学内推薦入学試験要項を参照してください。）に出願を希望している者。ただし、同試験において不合格となった場合および入学手続を所定の期間に行わなかった場合は履修許可を取り消すものとする。
- ④各専攻において別途定める基準を満たす者

2. 出願方法

大学院科目の履修を希望する者は、卒業年次の第一学期（前期）履修登録時に所定の願書を理工学部教務課に提出し、研究科委員会の議に基づき、教授会の承認を得て、履修が許可されます。

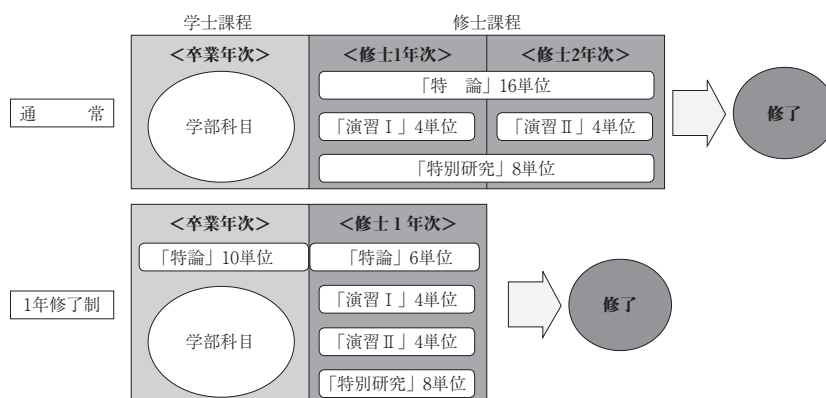
3. 単位認定

許可された者が、出願した大学院科目に合格した場合は、本学大学院理工学研究科に入学した際に、研究科委員会の議を経て大学院科目として単位が認定されます。

この単位は、理工学部の卒業要件単位としては認められませんので、注意してください。

4. 修士課程1年修了制のしくみ

修士課程を1年間で修了するためには、下図のように、卒業年次の時に大学院の特論科目（10単位）を修得し（大学院入学時に単位認定）、修士1年次の時に修了要件単位に必要な特論科目（6単位）と演習Ⅰ・Ⅱ（8単位）、特別研究（8単位）を修得して、修士論文の審査に合格しなければなりません。



Ⅳ 諸課程等の履修方法

①教職課程

教育職員免許法に基づき、本学が認定を受けている免許状の種類は下記の通りです。本学学則に定める所定の単位を修得することによって、下記の免許状が取得できます。

入学年度により取得できる免許状が異なりますので注意してください。

教育職員免許法取得に関する科目の履修方法については、「履修要項別冊 教職課程ガイドブック（瀬田学舎共通）」を参照してください。

＜2000年度以降入学生＞

学科	免許教科	中学校教諭	高等学校教諭
数理情報学科	数 学	一種免許状	一種免許状
	情 報		一種免許状
電子情報学科	工 業		一種免許状
	情 報		一種免許状
機械システム工学科	工 業		一種免許状
物質化学科	理 科	一種免許状	一種免許状
情報メディア学科	情 報		一種免許状
環境ソリューション工学科	理 科	一種免許状	一種免許状

②本願寺派教師資格課程

本願寺派教師資格は、下記の本学部開講の関連科目を履修することによって取得できます。

本山教師科目	本学部開講の関連科目	単位	配当年次	備考
真 宗 教 義	真 宗 学 概 論	4	2	通年
仏 教 教 義	仏 教 学 概 論	4	2	通年
真 宗 史	真 宗 史	4	1	通年
仏 教 史	日 本 仏 教 史	4	1	通年
宗 教 概 説	宗 教 学 概 論	4	2	通年
勤 式 作 法	勤 式	4	1	*通年
宗 門 法 規	宗 門 法 規	2	1	◎前期集中
布 教 法	教 化 法	4	1	*通年

隔年開講の科目がありますので、計画的に履修してください。

*……2010、2012、2014年度開講

◎……2009、2011、2013年度開講

③特別研修講座・各種講座・試験

課程	目的・内容	担当課
開教使課程	将来、海外開教使（外国における真宗伝道）を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	文学部教務課窓口
職業会計士課程	簿記の初歩から指導をおこない、商業簿記・工業簿記の基礎力・応用力を養成する講座 日本商工会議所簿記検定試験3級・2級の合格をめざします。	経営学部教務課窓口
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員、犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人々を養成することを目的としています。	矯正・保護総合センター事務部窓口
法職課程	司法書士試験をはじめ、各種公務員試験（裁判所事務官試験など）の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。	法学部教務課窓口
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教職センター窓口
模擬試験 資格試験	〈模擬試験〉TOEIC®IP / TOEFL®-ITP	生協窓口
	〈資格試験〉簿記検定試験	経営学部教務課窓口
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。 ※開講する学舎が限定されていることがあります。	〈目的・内容〉 就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 〈就職対策系〉 就職筆記試験対策講座／エントリーシートの書き方講座／ 〈試験対策〉 公務員講座 〈資格系〉 TOEIC®講座／旅行業務取扱管理者講座／2級FP技能士・AFP講座／宅地建物取引主任者講座／基本情報技術者講座／MOS講座（Excel2007）／社会福祉士国家試験講座／介護職員初任者研修講座／CAD利用技術者講座／色彩検定講座／秘書検定講座／	キャリアセンター（深草・瀬田・大宮）窓口
語学講座	〈RECコミュニティカレッジの語学コース〉 英会話、TOEIC®対策講座、中国語、韓国語、スペイン語、イタリア語など多彩に50講座開講しています。 ※上記の講座以外にも、「RECコミュニティカレッジ」（生涯学習講座）を多数開講しています。 本学学生は会員価格で受講できます。詳しくはパンフレットをご覧ください。	REC事務部（京都・滋賀）

※ TOEIC®、TOEFL®はエデュケーション・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。この（印刷物／製品／ウェブサイト）はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

V 協定型インターンシッププログラム

① プログラムについて

本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学習を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。このプログラムの具体的な内容については、インターンシップ支援オフィス発行の「インターンシッププログラム2013」のリーフレットを参照してください。

また、2007年度より理工学部で卒業要件単位として単位認定されることになりました。詳細については、下記のとおりです。

(1) 対象学年

学部3年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

なお、協定型インターンシッププログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

(2) 単位認定

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課にて確認してください。

学部	学科・専攻	科目名称 (学則上の名称)	科目 単位数	単位数 (上限)	科目区分	必須・ 選択区分	対象年次	単位認定 の取り扱い	備 考
理工 学部	全学科	****	**	**	*****	*****	1～2年次生	単位認定 対象外	
		学外実習	2	2単位	固有科目	学科によっ て異なる。	3年次生	合格(G) ※不合格(D)	3年次生受講生は、「学 外実習」で読み替える。

(3) 応募方法

当プログラムの応募方法等の詳細内容については、インターンシップ支援オフィスで配布される募集要項を参照してください。

(4) シラバス

次ページ参照

(5) 定期試験及び追試験受験資格の認定

インターンシップ実習受入先の都合により、やむを得ず実習期間と定期試験日時が重なることがあります。当該実習と定期試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口にご相談してください。

なお、協定型インターンシップの実習期間が本学定期試験と重なった場合の取扱いは、次のとおりです。

本学の授業科目	協定型 インターンシップ	対応方法	本学の科目の 追試対象	追試受験料
◎	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
○	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
◎	○	本人の判断により選択可能	認める	必要
○	○	本人の判断により選択可能	認める	必要

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

(6) 注意事項

このインターンシップ・プログラムは、事前学習・実習・事後学習の全てのカリキュラムを通じて、キャリア形式を支援する内容となっているため、原則欠席することはできません。また、途中で辞退することは、実習先をはじめとして、受講できなかった学生にも大変な迷惑をかけることになるため、特別な事情がない限り認められません。

2013年度 協定型インターンシップ 授業計画

	日程	予定学舎	講師	講義名	内容
第1講	6月22日(土) 1限目	大宮学舎	担当教員 総合コーディネーター	オリエンテーション	・総合コーディネーター挨拶、担当教員からのコメント ・インターンシップにどのような態度で臨むべきか ・事前、事後学習の概要と諸注意
第2講	6月22日(土) 2限目	大宮学舎	担当教員 総合コーディネーター	龍谷大学の歴史 (自校史学習)	自校史を知り「龍大代表」としての自覚を持つ
第3講	6月22日(土) 3限目	大宮学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク
第4講	6月29日(土) 1限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク②	ゼミ形式によるグループワーク
第5講	6月29日(土) 2限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク③	ゼミ形式によるグループワーク
第6講	6月29日(土) 3限目	深草学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	OB/OGによる パネルディスカッション	「私にとっての職業。職業を通じて考える人生」
第7講	7月6日(土) 1限目	大宮学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	ビジネスマナー①	心構え、第一印象、敬語の使い方、マナー など
第8講	7月6日(土) 2限目	大宮学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	ビジネスマナー②	電話応対（事前訪問時の電話応対）、来客応対、名刺交換 など
第9講	7月6日(土) 3限目	大宮学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	「職」の専門家による 仕事概論	企業経営者による講演
第10講	7月13日(土) 1限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク④	ゼミ形式によるグループワーク
第11講	7月13日(土) 2限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク⑤	ゼミ形式によるグループワーク
第12講	7月13日(土) 3限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク⑥	ゼミ形式によるグループワーク
学生による実習先直前訪問（7/16～7/26）					
第13講	7月27日(土) 1限目	瀬田学舎	担当教員 総合コーディネーター	実習直前オリエンテーション	インターンシップの意義、準備、諸注意、ハラスメントについて
第14講	7月27日(土) 2限目	瀬田学舎	担当教員 総合コーディネーター	結団式	結団式
インターンシップ実習（総合コーディネーター・担当教員による中間指導）					
第15講	9月28日(土) 1限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク
第16講	9月28日(土) 2限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク②	ゼミ形式によるグループワーク
第17講	9月28日(土) 3限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク③	ゼミ形式によるグループワーク
第18講	10月5日(土) 1限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク④	ゼミ形式によるグループワーク
第19講	10月5日(土) 2限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク⑤	ゼミ形式によるグループワーク
第20講	10月5日(土) 3限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク⑥	ゼミ形式によるグループワーク
第21講	10月5日(土) 4限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	学内報告会	プレゼンテーション

※上記プログラムは変更になることがあります。

※インターンシップ実習期間が実働10日間に満たない場合、補講への出席が必要です。

Ⅵ 放送大学科目の受講について

【文学部、経済学部：文学部社会人特別コース生、法学部、政策学部、社会学部コミュニティマネジメント学科、理工学部数理情報学科・機械システム工学科、国際文化学部適用】

放送大学とは、テレビ（ビデオ）・ラジオ（カセットテープ）等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく新しいタイプの正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。

本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、1997年度以降入学生は、本学部が指定した「放送大学科目」を受講することによって取得した単位を卒業要件単位として認定されます。（ただし、理工学部は随意科目として認定。）この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。

受講希望者は下記要領を熟読の上、所定の手続きをしてください。

なお、受講にあたっては、1単位あたり5,500円（2単位科目、11,000円）の授業料が必要になります。

1. 履修方法および単位認定等について

①出願および履修期間

「特別聴講学生」の履修期間は、2セメ、4セメ、6セメ（1、2、3年後期）の1学期間（6ヶ月）です。

特別聴講学生出願票は理工学部教務課窓口にあります。

2013年度の出願および履修・試験期間は次のとおりです。

出願期間	履修期間	単位認定試験期間
6月21日～6月29日 （予定）	10月1日～1月20日 （予定）	2014年 1月26日、28日～30日 2014年 2月1日～2日（予定） 不合格の場合、2014年7月下旬に行われる単位認定試験（再試験）を受験することができます。（無料）

②履修できる放送大学科目（全て2単位科目です。）

理工学部（数理情報学科・機械システム工学科）

放送大学開講科目全て（共通科目・専攻科目）を対象とする。

※ただし、全科履修生のみ受講対象の「体育実技」および「卒業研究」を除く。

※上記以外の科目の履修は出来ません。

③学期毎の履修制限

理工学部が定めている履修制限単位数には含みません。

④卒業要件に算入できる上限単位数

文学部（社会人特別コース生を除く） 経済学部	専攻（固有）科目 8単位まで
社会人特別コース生	選択基礎科目および選択専攻科目として修得した単位の合計と、大学コンソーシアム京都単位互換科目の修得単位を合わせて、30単位を上限に卒業要件単位として認定する。
法学部	専攻科目 8単位まで
社会学部（コミュニティマネジメント学科）	専攻科目 12単位まで

※超過分は卒業要件単位数に含まれないので注意してください。（随意科目扱いとなります。）

理工学部（数理情報学科・機械システム工学科）	教養教育（共同開講）科目（総合科目）の随意科目として、4単位まで
------------------------	----------------------------------

⑤履修方法

学期開始までに送付される印刷教材と本学ならびに学習センターに設置されているビデオテープ、カセットテープ（1科目：15巻 1巻45分）による視聴および通信指導によって学習し、学期末に本学において単位認定試験を受けることになります。

通信指導とは、原則15回の放送授業のうち8回まで学習を終え、放送大学から通知される課題についてレポートを放送大学に提出し、放送大学教員による採点・評価・指導を受ける通信添削です。この通信指導に合格しなければ、単位認定試験は受験できません。

＜ビデオテープ、カセットテープの視聴について＞

4号館1階にある放送大学滋賀学習センターで、ビデオテープおよびカセットテープの視聴ができます。

学習センター内での視聴はどの都道府県でも可能ですが、貸出については、所属学習センター（滋賀学習センター）のみとなります。

⑥単位認定試験について

2013年度の放送大学科目の単位認定試験は、2014年1月下旬（予定）です。

「滋賀学習センター（瀬田学舎4号館1階）」

※2013年度前期に実施する再試験の会場も上記の通りです。

試験当日欠席した場合は、追試験制度はありませんので、次学期で再試験を受験してください。（「⑨再試験について」を参照。）

⑦単位の認定

成績表は放送大学から本人および本学に通知されます。本学は成績等を確認の上、単位認定します。

⑧単位取得

試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定します。

なお、放送大学の成績評価は、④A,B,C（合格）、D,E（不合格）等の標記によって通知されるため、本学では次のような素点換算により本学成績表に表示します。

放送大学	本学素点換算
④（90点以上）	95
A（89～80点）	85
B（79～70点）	75
C（69～60点）	65
D（59～50点）	55
E（49点以下）	45
未（未受験）	0
否（受験資格無）	0

⑨再履修（再試験）について

放送大学では、次学期（3セメ、5セメ、7セメ）において再履修（再試験）制度があります。

この制度は単位認定試験や通信指導において不合格になった場合（試験欠席、通信レポート未提出も含む）、次学期の1回に限り再試験の受験ならびに通信レポートの再提出ができます。

次学期での再試験を希望する場合は、放送大学に対する手続きは不要ですが、本学の履修登録で放送大学科目の登録をしなければなりません。

なお、2013年度前期に実施する再試験は、7月26日、28日、30日、31日、8月1日、3日に実施されます。（会場は、「⑥単位認定試験について」を参照）

⑩放送大学科目の試験と本学の試験日時が重なった場合

放送大学科目の試験期間は本学と同じ時期に実施されます。このことにより、放送大学科目と本学科目の試験時間が重なった場合は、原則として放送大学科目を優先して受験し、本学科目については、追試験で受験してください。

なお、この場合に限り、追試験の適用を次のとおりとします。

(ア)追試験の受験料は無料です。

(イ)諸課程科目についても実施の対象になります。

※その他については、通常の追試験制度に準じます。

2. 放送大学への出願および本学での履修登録について

①放送大学科目出願について

受講希望者は、6月21日～6月29日（予定）に「特別聴講学生出願票」を理工学部教務課窓口に提出してください。放送大学科目は、第2学期の出願期間までに単位認定試験の時間割が発表されていますので、試験日・時限を確認の上、出願してください。

②学費について

入学科、テキスト代は無料ですが、授業料として1科目（2単位）につき、11,000円（1単位あたり5,500円）が必要です。出願後、放送大学から送付されてくる用紙にて、直接、納入してください。

③本学での履修登録について

放送大学科目を受講する場合は、「特別聴講学生出願票」の提出の他に本学の履修登録で放送大学科目を登録しなければなりません。また、次学期で再試験を受験する場合も同様に履修登録してください。

履修登録（本登録）をしないで単位認定試験および再試験を受験し合格しても、本学の単位として認定されないので注意してください。

3. 龍谷大学以外での学習方法

①視聴方法

テレビ・ラジオともCSデジタル放送により全国どこでも受信できます。放送大学の番組を視聴するには、お手持ちのテレビにスカイパーフェクTV！（パーフェクTV！サービス）対応のパラボラアンテナおよびCSチューナーを接続し、テレビ番組（205ch）、ラジオ番組（500ch）のチャンネル番号を入力すると視聴できます（無料放送）。

②再視聴

所定の時間帯に視聴できなかった場合や、繰り返し学習したい場合は、都合の良い日に視聴することができます。学習センターは土曜日、日曜日も利用できます。（月曜日、祝日休み）

所属する学習センターでは、テープの貸出を受けることができます。

※なお、学習センターの利用に際しては放送大学の学生証を必ず持参してください。

③滋賀学習センターの所在地

瀬田学舎4号館1階

4. 出願から成績評価までの流れ

①放送大学科目の登録手続き

出願・科目登録申請	6月21日～6月29日（予定）	理工学部教務課窓口
授業料の払込み	9月上旬	後日、自宅に送付されてくる用紙にて振込んでください。
教材・学生証の配付	学費納入確認後随時	放送大学から自宅に送付されます。
履修登録（本学）	日程については、掲示板等で確認してください。	理工学部教務課窓口

②受講および単位認定試験等について

授業開始（15回）	10月1日～	本学（深草学舎）5号館3階セルフラーニング室 および学習センター
通信指導問題の送付	11月上旬まで	放送大学から自宅に送付されます。
通信指導解答の提出	12月上旬まで	放送大学へ直接提出。8回まで視聴を終了してください。
通信指導添削の返送	1月中旬	放送大学→学生
単位認定試験通知	1月中旬	放送大学→学生
放送授業終了	1月20日	
単位認定試験	1月下旬（予定）	滋賀学習センター（瀬田学舎4号館1階）
成績通知	3月上旬	放送大学→学生 放送大学→本学

※単位認定試験ならびに通信指導を不合格になった場合は、次学期（3セメ、5セメ、7セメ）で1回限り、再試験ならびに通信レポートの再提出ができます。

放送大学への手続きは不要ですが、本学の履修登録で「放送大学科目」を登録してください。
履修登録をせず再試験に合格しても、本学の単位として認定されませんので注意してください。

学 修 生 活

I 窓口事務

窓口取扱時間は次のとおりです。ただし、日曜日・祝日並びに大学で定める休業日を除きます。

1. 理工学部教務課の窓口取扱時間

曜日等	取扱時間	備考
月、水、木、金	9:00～17:30	ただし、授業期間・試験期間以外の期間は、11:45～12:45を閉室し、窓口業務は行いません。
火	10:45～17:30	
土、日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

2. 届書・願書および各種証明書

理工学部教務課窓口で取り扱う届書・願書および各種証明書には次のものがあります。なお、用紙はすべて本学所定のものを使用して下さい。(理工学部教務課窓口で受け取ってください。)

(1) 届書

事 項	添 付 書 類
※保証人変更届	特になし
現住所変更届	特になし
本籍地変更届	住民票記載事項証明書 (本籍地記入)
改 姓 名 届	住民票記載事項証明書

(※印のものは、保証人の連署が必要。)

(2) 願書

事 項	添 付 書 類	受 付 期 間
※休 学 願	理由書または診断書	○1年間・第1学期休学 当該年度の6月30日まで ○第2学期休学 当該年度の12月31日まで
※復 学 願	理由書	○第1学期復学 前年度3月1日から3月31日まで ○第2学期復学 当該年度9月1日から9月30日まで
※退 学 願	理由書または診断書、 学生証	
追 試 験 受 験 願	理由書、追試験料納付書、 診断書等の証明書	当該科目の試験日を含め4日以内 (土・日・祝日は含まない)

(※印のものは、保証人の連署が必要。)

(3) 各種証明書の交付申請

各種証明書は、原則として学内に設置している「証明書自動発行機」にて発行いたします。証明書自動発行機を利用する際は、「学生証」と「全学統合認証パスワード」が必要です。

ただし、証明書の種類によっては、証明書自動発行機から発行できない証明書がありますので、その場合は、証明書自動発行機で各種証明書の交付願を出力し、理工学部教務課窓口にて提出・交付申請を行ってください。

なお、電話やファクシミリ、電子メールによる証明書の交付申請は一切取り扱っておりませんので、予め留意してください。

各種証明書の交付に必要な日数や手数料は、下表のとおりです。

交付に必要な 日数等	証明書の種類	手数料 (2007.4.1変更)	備 考
即日交付	在学証明書	1通 100円	左記証明書は証明書自動発行機から直接発行が可能です。
	卒業（修了）証明書		
	卒業（修了）見込証明書		
	学業成績証明書		
	健康診断証明書	1通 200円	
	卒業（修了）・学業成績証明書		
	卒業（修了）見込・学業成績証明書		
学割証	無 料		
2日後交付	単位修得証明書	1通 100円	左記証明書は、証明書自動発行機で交付願を出力し、理工学部教務課窓口 に提出してください。
	単位修得見込証明書		
	在籍証明書		
	教育職員免許状取得見込証明書		
	本願寺派教師資格科目履修証明書		
1週間後交付	英文証明書	1通 300円	
	学力に関する証明書	1通 200円	

(注1) 交付日は、原則として申請日から交付に要する日数を示します。

(注2) 手数料の納金は、すべて証明書自動発行機で行ってください。

(注3) 卒業見込に関する証明書は、データ更新等の処理に伴い発行できない期間が生じることがありますので注意してください。詳しくは理工学部掲示板でお知らせします。

(注4) 「卒業（見込）証明書」、「学業成績証明書」は、「卒業（見込）・学業成績証明書」という1枚の証明書として交付が可能です。特に分ける必要のない場合、「卒業（見込）・学業成績証明書」で交付を受けてください。

《卒業後の証明書交付申請》

電話による申請は一切受け付けておりません。

本学のホームページ上から「証明書交付願」フォームがダウンロードできます。携帯電話には対応していませんのでご了承ください。

URL <http://www.ryukoku.ac.jp>（本学ホームページ）の（訪問者別ガイド）「卒業生の方へ」－「各種手続きについて知りたい」の「各種証明書発行について」－「郵送で申請の場合」からアクセスできます。

① 郵送の場合

郵送による申請は、下記の内容に留意してください。

<p>◆証明書に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な証明書の種類と枚数 ・必要な証明書の使用目的 <p>◆申請者に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名（在学時の姓から変更がある場合は、旧姓も記入してください） ・生年月日 ・出身学部、学科名（文学部は専攻名） ・学籍番号 ・卒業年度 ・現住所（郵便番号を含む） ・電話番号 	<p>◆同封が必要なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返信用封筒 返信先住所を明記してください。 （返信に必要な切手を貼付してください。） ・手数料 （手数料は同額の切手でも納金できます。）
---	---

② 直接、来学する場合

直接、来学して申請する場合は、証明書自動発行機から出力される「証明書交付願」に必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口へ申請してください。

(4) 学校学生生徒旅客運賃割引証（以下、「学割証」）（手数料無料、即日交付）

学割証は、証明書自動発行機から直接発行ができます。ただし、必ず学生証を持参してください。

なお、交付枚数は原則として年度毎に1人10枚、1回の交付枚数は1週間に2枚以内です。※年間10枚を超えて必要な場合は、理工学部教務課窓口で相談してください。

◆学割証の使用については、学割証裏面の注意事項を厳守することはもちろん、次の事項に注意してください。

ア. 学割証は本人に限って使用できますが、学生証を携帯しない場合は使用できません。

イ. 学割証の不正使用を行なった場合は、大学へのペナルティーとして、学割証の交付停止、即交付分の回収がされます。他の学生への不利益が生じますので、不正使用は絶対にやめてください。

ウ. 学割証は101km以上の区間を乗車・乗船する場合に使用できます。割引率は普通運賃の2割引、有効期間は発行日から3ヵ月間です。なお、夏・冬期休暇前には学割証の申し込みが集中するので、余裕を持って申し込むようにしてください。

※なお、学生8名以上で（ただし、学生8名の他に教職員（非常勤講師含む）1名以上の引率者を含むことを条件として）旅行する場合は、運賃が5割引（ただし、引率者は3割引）となる制度があります。申込用紙（生協サービス事業部、各主要駅、旅行代理店等で求めてください）を出発日2週間前までに下記窓口へ提出の上、手続きすれば即日発行されます。

ゼミナールやクラスの場合……………理工学部教務課窓口

クラブやサークルの場合……………学生部

3. 各種証明書の交付について

各種証明書および申請書の発行申込等には、学生証が必要です。また、手続き方法は、証明書自動発行機で申請書を交付しますので、理工学部教務課窓口にて申請手続きを行ってください。

◆証明書自動発行機の設置場所およびサービス時間等について

学舎	設置場所	曜日	時間帯
深草	21号館1階エントランスホール	月～金	8：45～21：45
		土	8：45～17：15
	紫英館1階各学部教務課窓口	月～金	8：45～17：15 (但し、火曜日は10：30～)
	紫光館1階ロビー	月～土	8：45～17：15
大宮	西翼（新館）1階ロビー	月～金	8：45～20：15
		土	8：45～17：15
瀬田	1号館1階エントランスホール	月～土	9：00～17：30
	6号館社会学部教務課 3号館国際文化学部教務課	月～金	9：00～17：30 (但し、火曜日は10：45～)
大阪・梅田 キャンパス	フロア	月～金	10：00～18：30 就職活動繁忙期は 10：00～19：00

⚠ 注意事項

- ・証明書自動発行機を利用するときは、「学生証」と学生個々に与えられる「全学統合認証パスワード」が必要です。
※パスワードは、学内パソコンのログイン用と同じです。新入生は入学時のオリエンテーションで説明します。
- ・上記サービス時間帯は、原則として学年暦にある講義期間中の対応とします。
- ・オリエンテーション期間を含む新学期当初の予定、試験期間中、春期・夏期・冬期休暇中の運用時間帯については、サービス時間を変更します。サービス時間は本学ポータル内「証明書発行機運用時間」で公開しています。
- ・証明書自動発行機から直接発行が可能な証明書の交付および交付願の出力はいずれの学舎の証明書自動発行機でも対応しています。ただし、証明書自動発行機から直接発行ができない証明書については、所定の手続きが必要となりますので、各自が所属する理工学部教務課窓口で申請してください。
- ・学生証の再発行手続きが生じた場合、理工学部教務課窓口に申し出てください。証明書自動発行機にて申請書を交付しますので、必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口に提出してください。
- ・証明書自動発行機では、証明書交付以外に各種特別研修講座や就職対策講座などの講座受講申込にも対応しています。その他、手数料が必要な場合も原則として証明書自動発行機にて対応します。
- ・夜間時間帯および土曜日において、証明書自動発行機に故障が生じた場合や「買い間違えた」場合の対応は、翌日もしくは翌月曜日以降となります。

4. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2009年5月施行の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」（「裁判員法」）に伴い、みなさんが裁判員（候補者）に選任される可能性があります。

「呼出状」が届いて教育上の配慮が必要な場合は、速やかに理工学部教務課に相談してください。

裁判員（候補者）を務める場合は、当該学部長から当該授業科目を授業欠席すること及びそれによる教育上の不利益について授業担当者に配慮を求めることとします。試験については追試で対応することとし、追試料は無料とします。

Ⅱ 授業休止の取り扱い基準

(交通機関の不通、台風等の場合の授業についての取り扱い)

ストライキ等により交通機関が不通となった場合や、台風による暴風警報が発令された場合は、下記の基準に従ってください。

1. 全学休講とする場合

次の(a)(b)どちらの事態が発生した場合でも、その時点でただちに全学休講とします。

- (a) 下記のうち、2つ以上の交通機関の運行が中止された場合は、その時点でただちに全学休講とします。
対象とする交通機関および区間は次のとおりです。

- | | |
|------------------|----------------|
| ① J R | (米原～西明石) |
| ② 京都市営バス・京都市営地下鉄 | (全区間) |
| ③ 京阪電車 | (出町柳～淀屋橋) |
| ④ 阪急電車 | (河原町～梅田、梅田～三宮) |
| ⑤ 近鉄電車 | (京都～橿原神宮前) |

※ただし、**瀬田学舎**は J R (京都～米原) または帝産湖南交通 (J R 瀬田駅～龍谷大学) のいずれか 1 つの運行が中止された場合も休講とします。

- (b) 暴風警報が京都府南部 (京都・亀岡、南丹・京丹波、山城中部、山城南部)、大阪府 (北大阪、大阪市、東部大阪、泉州、南河内)、滋賀県南部 (近江南部、東近江、甲賀) のいずれかの市町村に出された場合、その時点でただちに全学休講とします。

2. 授業の開始基準

交通機関の運行再開および暴風警報解除の場合は、次の基準により授業等を実施します。

運行開始の時刻および 警報解除時刻	授業・定期試験開始講時
午前 6 時まで	1 講時から平常どおり実施
午前 10 時まで	3 講時から平常どおり実施
午後 2 時まで	6 講時から平常どおり実施
午後 2 時以降	終日休講

3. その他の注意事項

- 上記以外に、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は、全学休講とすることもあります。
- 定期試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験に関しては別途掲示により指示します。

■暴風警報が出された場合に全学休講となる区域について

本学の「授業休止の取扱基準」第1項(b)で規定している区域は、気象庁の発表区域に従えば、以下のとおりとなります。

気象庁は、警報・注意報を二次細分区域で発表しますが、これを受けてメディア等では、簡潔かつ効果的に情報を伝えるために、状況に応じて「一次細分区域」、「市町村等をまとめた地域」、「二次細分区域」のいずれかによって該当する区域をお知らせします。本学基準で規定している区域のいずれかに暴風警報が発令されているか確認するようにしてください。

【一次細分区域】	【市町村等をまとめた地域】	【二次細分区域】
京都府南部	南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
	京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
	山城中部	宇治市、八幡市、城陽市、京田辺市、久御山町、宇治田原町、井手町
	山城南部	木津川市、和束町、精華町、笠置町、南山城村
大阪府	大阪市	大阪市
	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
	東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市
	南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
	泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町
滋賀県南部	東近江	近江八幡市、東近江市、竜王町、日野町
	近江南部	野洲市、守山市、草津市、栗東市、大津市南部
	甲賀	甲賀市、湖南市

【注】二次細分区域は、市町村を原則としますが、一部の市町村では、それらが分割されて設定されるケースがあります。本学「授業休止の取扱基準」で規定する区域では、大津市がこれに該当し、北部と南部に分割され、大津市南部のみが基準の該当区域となります。(大津市北部に暴風警報が発令されても全学休講とはなりません)

Ⅲ 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は、入学によって発生し、入学は、大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は、卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の**学籍番号**が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

T	1 3	0	0 0 1
L：文学部・文学研究科 E：経済学部・経済学研究科 B：経営学部・経営学研究科 J：法学部・法学研究科 T：理工学部・理工学研究科 C：社会学部・社会学研究科 W：国際文化学部 ・国際文化学研究科 H：政策学部 S：短期大学部 F：法科大学院 M：実践真宗学研究科 R：留学生別科	入学年度（西暦） の下2桁	学生区分（主たる学生区分を記す） 学部生：0～7 編転入生：8 再入学生：9 修士課程：M 博士後期課程：D 研究生：R 短大専攻科生：A 専門職学位課程生：F 科目等特別履修生：U 科目等履修生：V その他（学術研究生）：Z （特別専攻生）：S	学部内における 個人番号

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。ただし、頭のアルファベット（学部をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、**学籍簿**（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに所属の理工学部教務課窓口へ届け出て下さい。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ア 学業成績表を受領するとき。
 - イ 試験を受けるとき。
 - ウ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - エ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - オ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - カ 図書館を利用するとき。
 - キ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用するので、大切に扱って下さい。ただし、在籍を証明する**在籍確認シール**は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。(新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください。)

なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールと貼り替えてください。また、該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに理工学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに理工学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」(紛失・破損届)に必要な事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署(交番)に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを理工学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに理工学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失(本学の学生でなくなる)する場合としては、**退学**と**除籍**の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失(本学の学生でなくなる)することです。依願退学は、学生の意志によるものであるから、何時でも願い出ることはできますが、公的教育機関との関係であり、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
- イ 当該学期分の学費を納入していること。（学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格ありません。なお、学期当初に退学する場合は、学部で個別に対応をしているので相談してください。）

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることはできません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要がある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ア 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- イ 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ウ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、**休学**を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により願い出ること。
- イ 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ウ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

- ア 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。
1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに理工学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。
- イ 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ウ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

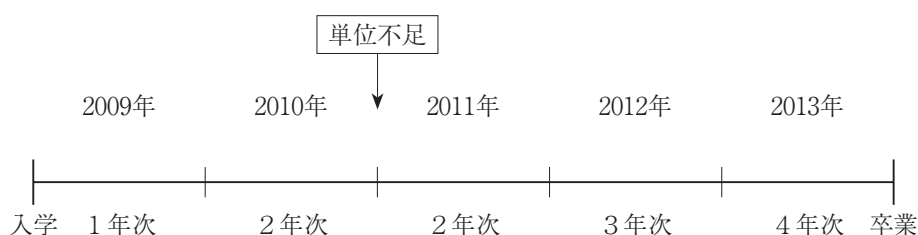
休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教

育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、学期開始日の前1 ヶ月以内にしなければなりません。

6. 年次

理工学部では原級制度を実施するため所定の要件を満たしていなければ進級できません。
この場合「年次」の進行は原年次復帰方式とします。
学籍異動上は次のような扱いになります。

例) 2010年度を留年（留年異動日2011年4月1日）



7. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせして下さい。

8. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を理工学部教務課窓口にも速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学又は編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがある。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい入学願書、履歴書及び修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願出てその許可を受けなければならない。（学則第18条の3）

9. 9月卒業について

第1学期（前期）末（9月末日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、9月末日付にて卒業認定を受けることを希望する場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます。（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません。）詳細については理工学部教務課窓口にご相談して下さい。

Ⅳ 留学

龍谷大学では、国際的な社会に貢献できる人材の育成を目的として、学生の海外派遣を積極的に推進するため、以下のような留学制度があります。

経済、社会、文化、政治などあらゆる局面で国際的な相互依存関係が深まっている現在、海外の大学での学修、文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。

詳しくは、国際部（深草学舎6号館1階）、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）を参考にしてください。

1. 交換留学

交換留学とは、学術研究および国際理解の発展のために海外の大学と学生交換協定を締結し、学費の免除や奨学金を受けて留学する制度です。この協定に基づき、原則として毎年同じ人数の学生を派遣・受入しています。

留学期間は原則1年間で、その期間、龍谷大学の学費免除（ただし、留学生在籍料は必要）、留学先大学の学費免除が受けられます。

募集案内、応募方法などは、国際部、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページを参照ください。

「学生交換協定校（23カ国49大学・学部）」

地域	留 学 先		応募方法
アジア	中国	復旦大学、上海師範大学、同済大学、中国人民大学、大連外国語大学、大連外国語大学日本語学院(経営)	国際部にて募集し、語学試験および面接によって選考します。 応募締切日は、各募集大学によって異なります。
	台湾	台湾師範大学、東海大学、長庚大学	
	韓国	東国大学、東亜大学	
	タイ	チュラロンコン大学、アサンプション大学	
	ベトナム	ハノイ大学	
北米	アメリカ	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校、アンティオーク カレッジ、南ミズーリ州立大学、米国仏教大学院、カリフォルニア大学デービス校(理工学研究科)、東テネシー州立大学、アイダホ大学、アリゾナ州立大学、ハワイ大学マノア校	
	カナダ	キングス・ユニバーシティ・カレッジ、カルガリー大学、クワントレン・ポリテクニク大学、ヒューロン・ユニバーシティ・カレッジ、ランガラカレッジ	
中南米	メキシコ	プエブラ栄誉州立自治大学	
オセアニア	オーストラリア	RMIT大学、マードック大学、ディーキン大学	
ヨーロッパ	ロシア	モスクワ大学アジア・アフリカ学院	
	ウクライナ	キエフ大学	
	ポーランド	ワルシャワ経済大学	
	イギリス	リバプール・ジョン・ムアーズ大学、セントラル・ランカシャー大学	
	アイルランド	ユニバーシティ・カレッジ・コーク	
	ドイツ	デュースブルグ・エッセン大学、ブレーメン応用科学大学	
	フランス	リヨン第3大学	
	フィンランド	東フィンランド大学（旧ヨエンスウ大学）	
	スウェーデン	リネウス大学（旧ベクショー大学）	
	デンマーク	オーフス大学	
	スペイン	バルセロナ自治大学、バレンシア大学	
アフリカ	スロバキア	コメンスキー大学	
	南アフリカ	クワズール・ナタール大学	
	アンゴラ共和国	アゴスティーニョネット大学	

※留学先大学の都合により条件が変更になる場合や募集を行わない場合がありますので、国際センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）の情報を確認してください。

2. BIE Program留学

BIE Program(Berkeley Intercultural English Program)は、龍谷大学のRyukoku University Berkeley Center（アメリカ・バークレー）を利用した本学独自の留学プログラムです。英語学習、Community Service Learning（ボランティア活動）、講義を組み合わせたプログラムで5-week（5週間）とSemester（半年間）の2つのプログラムが年間2本ずつ（合計4本）あります。

留学期間は在学期間に算入され、5-weekプログラムは学部最大6単位、Semesterプログラムは学部最大18単位まで認定可能です。

	留学期間	募集時期
5-week summer program	8月上旬～9月中旬	4月頃
5-week spring program	2月中旬～3月下旬	9月～10月頃
Fall semester program	9月下旬～2月中旬	4月頃
Spring semester program	3月下旬～7月下旬	9月～10月頃

3. 私費留学

各自で留学したい大学を探し、大学から承認を得て留学する方法で、龍谷大学から毎年多くの学生が私費留学をしています。

この留学は交換留学と同じく、留学期間は在学期間に算入され、取得した単位は単位認定の対象となります。

交換留学と大きく異なる点は、留学先大学の学費や寮費等が自己負担であること。また、留学手続き等は各自で行うことです。手続前に各学部教務課や指導教員と相談して下さい。

4. 短期留学

カリキュラムやクラブ活動等の関係で長期間、大学を離れることができない学生には、夏期休暇や冬期休暇を利用した短期留学がお勧めです。

龍谷大学では、これら長期休暇を利用した語学研修や異文化体験等のプログラムを設けています。（各プログラムの開講は年度によって異なります。）詳細は国際部、所属学部教務課、教学部（学部共通コース）に問い合わせして下さい。

5. 個人留学（休学して留学する）

大学を休学した場合、留学先で勉強した期間は在学期間に算入されません。また、単位の認定も行われません。1年間（ないし半年間）海外の専門語学学校で語学をみっちり勉強したいという学生や、ワーキングホリデーをしたい、海外でボランティアをしたいという学生がよく利用する方法です。

V 通学について（自転車・バイク・自動車）

1. 自転車・バイク通学について

自転車・バイクは、日々多くの学生が利用しています。

バイクはもちろんのこと、自転車も『軽車両』の仲間です。一瞬の気の緩みが取り返しのつかない事故に繋がりがねません。学友の中でも、死亡事故が起こるなど、通学途上の交通事故が頻発しています。

また、「自転車・バイクが、狭い生活道路を、スピードを出して通行するので大変危険！」等の苦情が近隣住民から多数寄せられています。事故防止のために、交通ルール・マナーを遵守し、交通安全に充分配慮した運転を心掛けてください。万が一、交通事故に遭遇してしまった場合、負傷した、もしくは、相手に怪我を負わせてしまったという場合は、事故の大小に関わらず、119番・110番に通報し、相談してください。

（参考URL）政府インターネットテレビ【自転車は車のなかま〜ルールを守って安全運転〜】

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg5823.html>

2. 自転車・バイクの駐輪について

瀬田学舎では、学内に駐輪する自転車・バイクは必ず登録申請のうえ、登録シールの交付を受けて利用車両に添付する必要があります。この登録制度は、自転車・バイク通学をされる皆さんが、安全運転意識の向上、事故防止、盗難防止、放置車両の減少など、通学中に起こる様々なトラブルを回避する目的で実施しています。

登録は無料で、一度登録すれば卒業・修了まで有効です。登録受付は生協ショップSMYLEサービスカウンターで随時行っています。

なお、自転車・バイクは必ず構内の指定された場所に駐輪してください。構内の建物周辺や路上等に長時間放置している車両は、「駐輪場利用要領」に基づき、一定期間保管の後、処分します。また、「駐輪場利用要領」に定めるとおり、駐輪場内での事故・盗難および破損について大学は一切関与しません。

利用者は、盗難防止に努め、駐輪にあたっては、必ず施錠を行ってください。2つ以上の施錠（ツーロック）により盗難防止効果が向上します。各自の責任で被害に遭わないよう充分注意してください。

（参考URL）自転車・バイク登録について

http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/bicycle.html

3. 自動車通学の禁止

本学では、自動車による通学を全面的に禁止しています。これは、交通事故の防止、大学周辺環境の維持などの理由からです。しかしながら、禁止しているにも関わらず、キャンパス近隣の公共施設駐車場等に無断で駐車し、通学する学生が見受けられます。これらは社会のルールに反するもので、大学の名誉を著しく傷つける行為です。迷惑駐車により、地域住民や近隣施設からの苦情もあります。

このような自動車通学が判明した場合には、保護者への連絡、ゼミ担当教員等からの指導のうえ、厳しく処分することとしています。学生の皆さんの節度ある行動を求めます。

4. 自動車の臨時入構許可について

自動車による通学を全面的に禁止していますが、以下のような理由があるときは、例外として許可することがありますので、必要な場合は必ず事前に以下窓口にご相談してください。

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| ① 夜間にまでおよぶ研究等で、公共交通機関の利用が困難な場合 | → 理工学部教務課 |
| ② 長期間の疾病や障がいなどにより、公共交通機関の利用が困難な場合 | → 理工学部教務課 |
| ③ 大学行事やクラブ活動のため、資材等を運搬するのに必要な場合 | → 学生部 |

許可なく入構した場合は、厳重に処分する対象となりますので、必要な事情がある場合には、必ず事前に相談してください。

付 録

教員名簿

理工学部専任教員

※ダイヤルインは1号館、2号館は077-543-内線番号、7号館は077-544-内線番号

【数理情報学科】				内線	【電子情報学科】				内線
飯田	晋司	1号館	513 研究室	7513	石崎	俊雄	1号館	411 研究室	7798
池田	勉	1号館	512 研究室	7512	上原	徹	1号館	443 研究室	7414
宇土	顯彦	1号館	506 研究室	7797	植村	渉	1号館	410 研究室	7410
大西	俊弘	2号館	117D研究室	7198	小野	景子	1号館	438 研究室	7495
※(外線) 077-544-7198					海川	龍治	1号館	402 研究室	7402
國府	宏枝	1号館	501 研究室	7503	川上	肇	1号館	403 研究室	7403
阪井	一繁	1号館	503 研究室	7508	木村	昌弘	1号館	406 研究室	7406
佐野	彰	1号館	538 演習室	7528	木村	睦	1号館	407 研究室	7407
高橋	隆史	1号館	508 研究室	7501	熊野	雅仁	1号館	437 研究室	7437
中野	浩	1号館	514 研究室	7518	小島	肇	1号館	443 研究室	7414
樋口	三郎	1号館	502 研究室	7514	小堀	聡	1号館	401 研究室	7419
馬	青	1号館	505 研究室	7505	里井	久輝	2号館	311 研究室	7656
松木平淳太		1号館	504 研究室	7488	斉藤	光徳	1号館	408 研究室	7487
松本和一郎		1号館	510 研究室	7510	張	陽軍	1号館	412 研究室	7412
道元	徹心	4号館	318 研究室	7868	中川	晃成	1号館	409 研究室	7409
森田	善久	1号館	509 研究室	7509	中村	奉夫	1号館	405 研究室	7405
山岸	義和	1号館	507 研究室	7507	野口紳一郎		1号館	443 研究室	7414
四ッ谷晶二		1号館	511 研究室	7511	藤井	大輔	1号館	437 研究室	7437
					松田	時宜	1号館	438 研究室	7495
					山本	伸一	1号館	404 研究室	7404
【機械システム工学科】				内線	【物質化学科】				内線
岩本	太郎	1号館	315 研究室	7445	青井	芳史	1号館	205 研究室	7465
大津	広敬	1号館	301 研究室	7431	S. C. Yenik	2号館	314 研究室	7655	
大槻	志郎	2号館	315 研究室	7657	今井	崇人	1号館	307 研究室	7439
金子	康智	1号館	302 研究室	7432	岩澤	哲郎	1号館	201 研究室	7461
河嶋	壽一	1号館	311 研究室	7441	内田	欣吾	1号館	202 研究室	7462
左近	拓男	1号館	313 研究室	7443	大柳	満之	1号館	206 研究室	7464
塩見	洋一	1号館	316 研究室	7458	糟野	潤	1号館	211 研究室	7471
渋谷	恒司	1号館	314 研究室	7444	下埜	勝	1号館	310 研究室	7440
進藤	康則	1号館	308 研究室	7429	白神	達也	1号館	210 研究室	7470
田原	大輔	1号館	305 研究室	7435	富崎	欣也	1号館	209 研究室	7469
辻上	哲也	1号館	306 研究室	7411	中沖	隆彦	1号館	204 研究室	7661
堤	一義	1号館	304 研究室	7446	林	久夫	1号館	203 研究室	7463
永瀬	純也	1号館	319 研究室	7434	藤井	一郎	1号館	318 研究室	7466
西村	和男	1号館	339 研究室	7533	藤原	学	1号館	212 研究室	7472
野口	佳樹	1号館	303 研究室	7433	前田	尚志	1号館	310 研究室	7440
本田	尚義	1号館	308 研究室	7429	松中	岩男	1号館	307 研究室	7439
前田	英史	1号館	320 研究室	7408	宮武	智弘	1号館	207 研究室	7467
森	正和	1号館	312 研究室	7442	渡辺	英児	2号館	329 研究室	7667
					和田	隆博	1号館	208 研究室	7468

【情報メディア学科】

岩嶋 浩樹	7号館	コラボレーション 演習準備室	7148
岡田 至弘	7号館	情報研究室 2	7132
片岡 章俊	7号館	情報研究室 5	7135
寄能 雅文	7号館	コラボレーション 演習準備室	7148
芝 公仁	7号館	情報研究室11	7142
新川 芳行	7号館	情報研究室 3	7133
曾我麻佐子	7号館	情報研究室13	7144
外村 佳伸	7号館	情報研究室 4	7134
南條 浩輝	7号館	情報研究室14	7140
野村 竜也	7号館	情報研究室 6	7136
長谷 智弘	7号館	情報研究室 7	7137
藤田 和弘	7号館	情報研究室 1	7131
三浦 雅展	7号館	情報研究室12	7143
三好 力	7号館	情報研究室 8	7138
吉見 毅彦	7号館	情報研究室 9	7139
渡辺 靖彦	7号館	情報研究室10	7141

内線**【環境ソリューション工学科】**

浅野 昌弘	7号館	環境研究室14	7114
市川 陽一	7号館	環境研究室 4	7104
占部 武生	7号館	環境研究室 9	7109
菊池隆之助	7号館	環境研究室 1	7101
岸本 直之	7号館	環境研究室 7	7107
越川 博元	7号館	環境研究室 2	7102
近藤 倫生	7号館	環境研究室11	7111
竺 文彦	7号館	環境研究室 5	7105
桧尾 亮一	7号館	実験実習準備室	7117
丸山 敦	7号館	環境研究室12	7112
宮浦 富保	7号館	環境研究室 6	7106
山中 裕樹	7号館	環境研究室13	
遊磨 正秀	7号館	環境研究室 3	7103
横田 岳人	7号館	環境研究室 8	7108
Thomas T. Lei	7号館	環境研究室10	7110

内線**【理工学部教務課】**

077-543-7730 ~ 7732

緊急時の対応について

龍谷大学
保健管理センター
2012.09

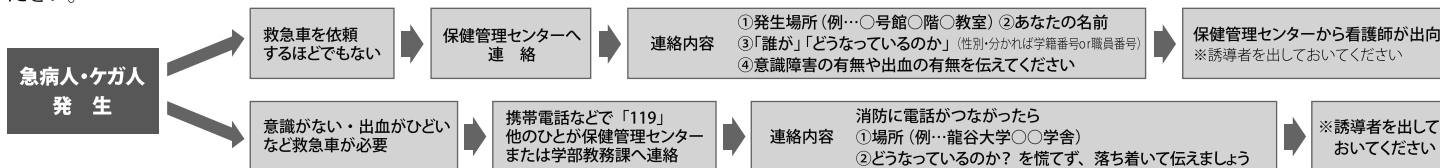
急な怪我をした、気分が悪くなった（応急処置）

授業や課外活動中に思わぬ事故で“けが”をしたり、急に体調が悪くなったような場合は、医師の診療時間外にも看護師が応急処置に応じえています。また、教室等で急病やケガ人が発生し、保健管理センターまで来所できない場合は、保健管理センターから看護師が現場まで出向、対応します。

また、保健管理センターには休養室が設置されています。学内で体調を崩したときなどにご利用ください。

●各学舎の保健管理センター、対応時間と連絡先（土・日・祝日を除く）

学 舎	利用時間	番 号
深草学舎	8:45 ～ 17:15	075-645-7879 ダイヤルイン
大宮学舎	8:45 ～ 17:15	075-343-3322 ダイヤルイン
瀬田学舎	9:00 ～ 17:30	077-543-7781 ダイヤルイン



救急・夜間休日診療

※夜間・休日および年末年始の診療です。診察時間は必ず事前に電話で確認してください。

病 院 名	住 所	電話番号	診療科目	診療時間
京都市急病診療所	中京区西ノ京相尾町3-14	354-6021	眼科・耳鼻咽喉科・内科	土曜日…18:00～22:00 日曜・祝日、8/15・16、12/29～1/4 …10:00～17:00、18:00～22:00
休日急病歯科中央診療所	中京区西ノ京相尾町3-8 JR二条駅前 社団法人京都府歯科医師会口腔保健センター内	812-8493	歯 科	日曜・祝日、8/15・16、12/29～1/4 …9:00～16:00(受付時間)
京都府精神科救急情報センター (京都府立洛南病院)	宇治市五ヶ庄広岡谷2	323-5280	精神科	月～金…17:00～翌日8:30 土日・祝日及び年末年始…24時間
京都市休日急病歯科 南部診療所	伏見区今町659-1 京都府歯科医師会(伏見会館内)	622-3418	歯 科	日曜・祝日、8/15・16、12/29～1/4 …9:00～16:00(受付時間)

深草・大宮学舎近隣医療機関

※診療科目・診療日・診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認して下さい。
※救急指定病院は24時間の診療体制を行っています。診療科目など詳しいことは直接電話で確認してください。

	病 院 名	場 所	電話番号	診療受付時間	月	火	水	木	金	土	備 考
総合病院	京都医療センター	※救急指定病院 深草総合庁舎横 京都市伏見区深草向畑町1-1	641-9161	【午前】 8:30～10:30	○	○	○	○	○	×	
	久野病院	※救急指定病院 ＪＲ「稲荷」駅下車 北へ約500m 京都市東山区本町22-500	541-3136	【午前】 8:45～12:00 【午後】 1:30～3:00 【夜診】 ☆時間注意	○	○	×	×	×	○	☆【夜診】月 5:15～8:00 火・金 3:45～8:00 水・木・土 5:45～8:00
	康生会 武田病院	※救急指定病院 ＪＲ「京都」中央郵便局横 京都市下京区堀小路通西洞院東入東堀小路841-5	361-1351	【午前】 8:00～12:00 【午後】 1:00～4:00	☆診療科により 診療日異なる。						
	京都南病院	※救急指定病院 市バス「七条御前通」下車すぐ 京都市下京区西七条南中野町8	312-7361	【午前】 9:00～12:00 【午後】 2:00～4:30	○	○	○	×	○	○	×
	新京都南病院	※救急指定病院 市バス「西大路七条」下車徒歩7分 京都市下京区七条御所ノ内北町94番地	322-3344	【午後】 4:30～7:30	○	○	○	○	○	×	
内 科	仁木医院	砂川東児童公園横 京都市伏見区深草西浦町4丁目21	641-2411	【午前】 9:00～12:30 【午後】 5:30～8:00	○	○	○	×	○	○	内科・循環器科
	岩田クリニック	竹田街道キリン堂薬局前 京都市伏見区竹田久保町19-1	646-2880	【午前】 9:00～12:00 【午後】 5:30～8:00	○	○	○	×	○	○	外科・胃腸科・内科・皮膚科
	西医院	「稲荷」駅下車 北へすぐ 京都市伏見区深草稲荷御前町90	641-6251	【午前】 9:00～11:30 【午後】 6:00～8:00	○	○	○	○	○	○	内科・消化器科
	ふじた医院	七条大宮西南角 下京区大宮通七条下ル御器屋町67	343-4188	【午前】 9:00～12:00 【午後】 5:30～7:30	○	○	○	○	○	○	内科・消化器科
	西澤内科医院	ＪＲ「京都」駅より徒歩5分 京都市下京区七条西洞院七条下ル大黒町253	343-5022	【午前】 9:00～13:00 【午後】 4:30～7:30	○	○	○	☆	○	○	☆8:15～12:00
外科	辻クリニック	第一軍道を東へ 京都市伏見区深草直達橋9-184-2	641-3073	【午前】 9:00～12:30 【午後】 4:30～7:30	○	○	○	○	○	○	外科・消化器科・整形外科・ 内科・皮膚科・泌尿器科
外整形科	高生会整形外科クリニック	京阪「深草」東へ徒歩1分 京都市伏見区深草直達橋10-157-2	647-2828	【午前】 9:00～12:00 【午後】 4:30～7:00	○	○	○	○	○	○	
眼科	西眼科クリニック	JR「稲荷」駅下車 北へすぐ 京都市伏見区深草稲荷御前町90	646-1900	【午前】 9:00～12:00 【午後】 4:00～7:00	○	○	○	×	○	☆	☆土【午前】 9:00～13:00
耳鼻科	水田耳鼻咽喉科	京阪「藤森」駅東側 京都市伏見区深草直達橋4-348	641-1440	【午前】 9:00～12:00 【午後】 4:00～7:30	○	○	○	○	○	○	
	大岡医院	市バス「西洞院正面」停留所から1分 京都市下京区西洞院正面下ル鍛冶屋町435-1	371-3387	【午前】 9:00～12:30 【午後】 5:00～7:30	○	○	○	×	○	○	
婦人科	杉の下医院(女医)	京阪「深草」駅東側 京都府京都市伏見区深草直達橋10丁目171	641-0371	【午前】 9:00～12:00 【午後】 5:30～7:30	○	○	×	×	×	○	婦人科・内科・皮膚科
歯 科	野添歯科医院	JR「稲荷」駅前 京都市伏見区深草稲荷御前町72-3	643-0552	【午前】 9:00～12:00 【午後】 3:00～7:00	○	○	○	○	○	○	第3木曜休診
	水谷歯科	師団街道警察学校の北側 京都市伏見区深草祇川町24-1	641-0675	【午前】 9:00～12:00 【午後】 3:00～7:00	○	○	○	×	○	○	☆土【午後】 2:00～6:00
	ひろせ歯科医院	平安高校となり 下京区大宮通り七条上ル御器屋町43	361-6480	【午前】 9:00～13:00 【午後】 3:00～7:00	○	○	○	○	○	○	予約 ×

現在診療中の医療機関を探したいとき

【京都 健康医療よろずネット】
075-694-5499 <http://www.mfis.pref.kyoto.lg.jp>
(自動音声・FAXサービス)

精神科救急医療に関する電話相談等

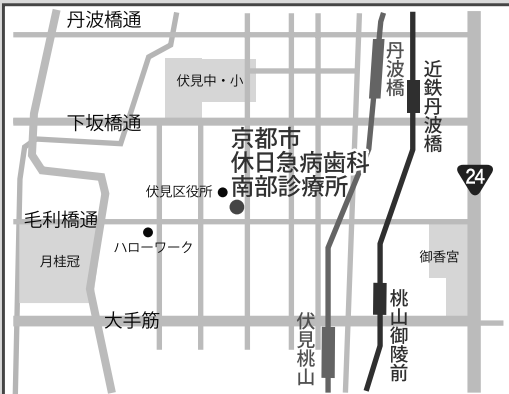
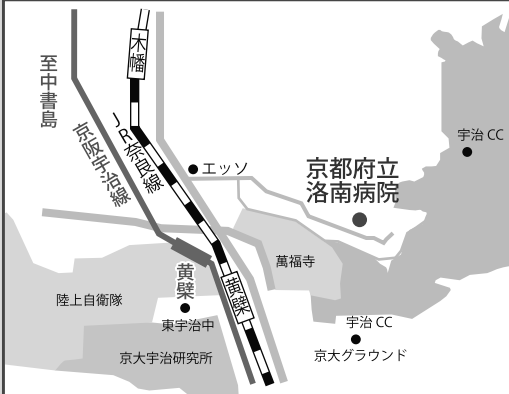
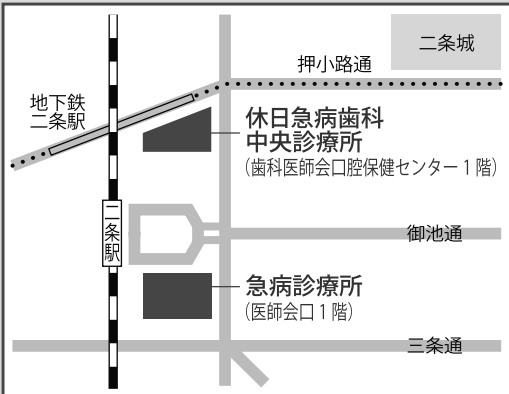
【京都府精神科救急情報センター】
075-323-5280 月～金…17:00～翌日8:30、土日・祝日及び年末年始…24時間



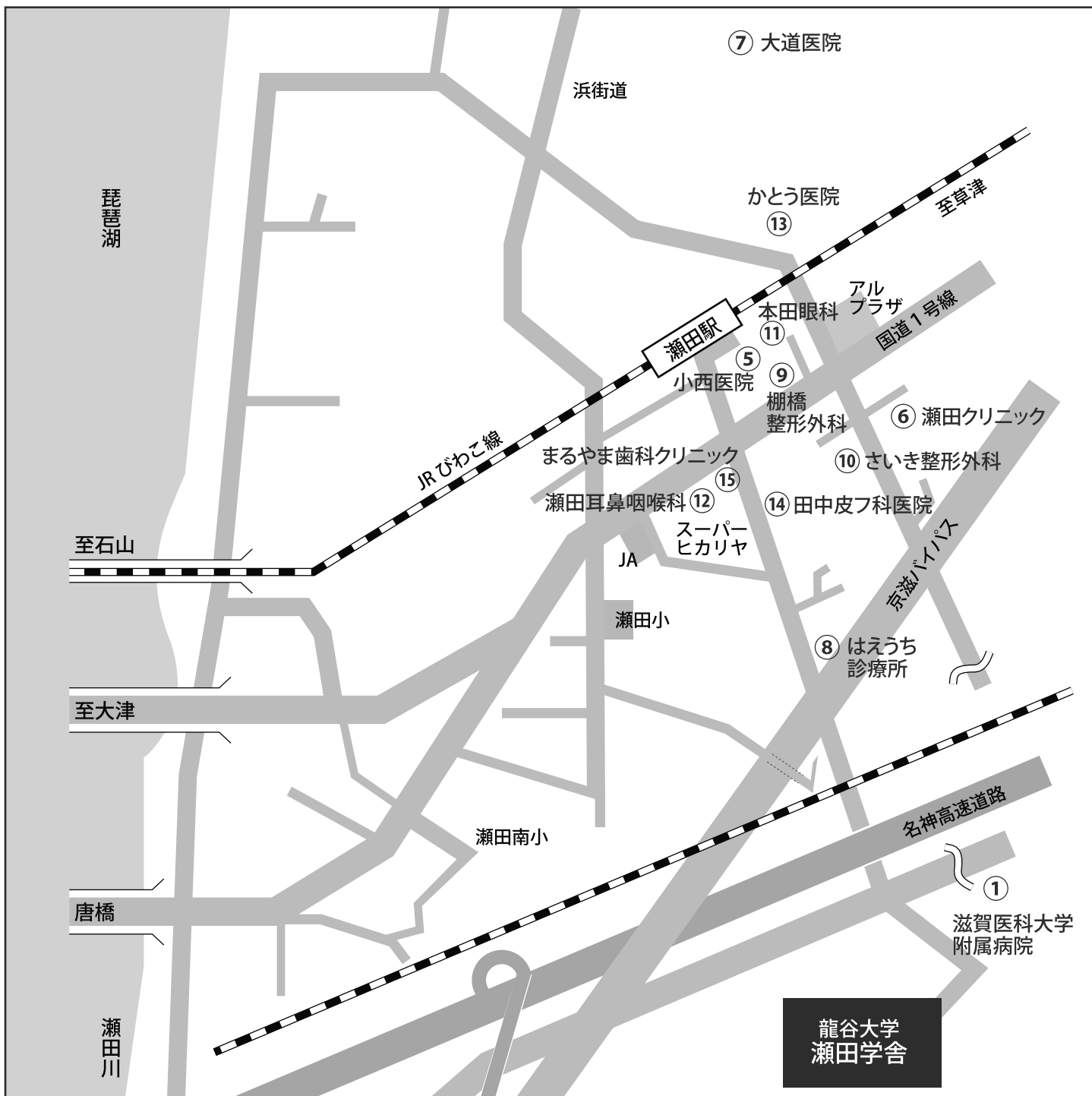
**深草・大宮学舎近隣
医療機関**



救急・夜間休日診療



付録



瀬田学舎 近隣医療機関

※診療科目・診療日・診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認して下さい。

		病 院 名	住 所	電話番号	診療受付時間	月	火	水	木	金	土	診療科目
総合病院	①	滋賀医科大学 附属病院	大津市瀬田月輪町	077-548-2111 時間外 548-2770	初診 午前8:30～10:30 再診 午前8:30～11:00 月～金 午後	○	○	○	○	○	×	
						×	×	×	×	×	×	
	②	大津市民病院	大津市本宮2丁目9-9	077-522-4607	午前 8:30～11:30 月～金 午後	○	○	○	○	○	×	
						×	×	×	×	×	×	
内科	③	大津赤十字病院	大津市長等1丁目1-35	077-522-4131	午前 8:00～11:30 月～金 午後	○	○	○	○	○	×	
						×	×	×	×	×	×	
	④	社会保険 滋賀病院	大津市富士見台16-1	077-537-3101	午前 8:30～11:30 月～金 午後	○	○	○	○	○	×	
						×	×	×	×	×	×	
外科	⑤	小西病院	大津市大萱1丁目17-35	077-543-3600	午前 9:00～12:30 月～土 午後 5:00～7:30 月・火・木・金	○	○	○	○	○	○	内 科 皮 膚 科 泌 尿 器 科 外 科
	⑥	瀬田クリニック	大津市一里山3丁目1-5	077-545-3945	午前 9:00～12:00 月～土 午後 1:00～5:00 月・水・木	○	○	○	○	○	○	
						○	×	○	○	×	×	
整形外科	⑦	大道病院	大津市大將軍1丁目15-7	077-547-3650	午前 9:00～12:00 月・火・木～日 午後 4:30～7:30 月・火・木・金	○	○	×	○	○	○	内 科 呼 吸 器 科 循 環 器 科
						○	○	×	○	○	×	
眼科	⑧	はえうち診療所	大津市一里山4丁目25-21	077-543-3861	午前 9:00～12:00 月～土 午後 3:00～5:00 月・火・水・金	○	○	○	○	○	○	内 科 胃 腸 科 肛 門 科 外 科
						○	○	○	×	○	×	
整 形 外 科	⑨	棚橋整形外科	大津市大萱1丁目20-12	077-545-8020	午前 9:00～12:00 月～土 午後 3:30～6:30 月～金	○	○	○	○	○	○	
						○	○	○	○	○	×	
さいき整形外科	⑩	さいき整形外科	大津市一里山3丁目19-4	077-545-7711	午前 9:00～12:00 月～土 午後 4:30～7:30 月～水・金	○	○	○	○	○	○	
						○	○	○	×	○	×	
眼 科	⑪	本田眼科	大津市大萱1丁目16-15	077-543-0878	午前 9:30～12:30 月～水・金・土 午後 4:00～6:00 月～水・金	○	○	○	×	○	○	
						○	○	○	×	○	×	
耳鼻科	⑫	瀬田耳鼻咽喉科	大津市一里山1丁目2-13	077-543-1490	午前 9:00～12:30 月～土 午後 3:30～7:00 月～金	○	○	○	○	○	○	
						○	○	○	○	○	×	
婦人科	⑬	かとう医院	大津市大將軍3丁目8-16	077-544-1012	午前 8:30～12:00 月・水・金・土 (第2土曜休診) 午後 3:00～6:00 火・金	○	×	○	×	○	○	
						×	○	×	×	○	×	
皮膚科	⑭	田中皮フ科医院	大津市一里山1丁目8-29 一里山中央ビル2階	077-545-1232	午前 9:30～12:30 月・水・金・土 午後 4:00～7:30 月～水・金	○	×	○	×	○	○	
						○	○	○	×	○	×	
歯 科	⑮	まるやま歯科クリニック	大津市一里山1丁目3-6	077-547-3560	午前 9:00～午後1:00 月～土 午後 3:00～8:00 月～金	○	○	○	○	○	○	
						○	○	○	○	○	×	

付

録

救急医療ネット しが

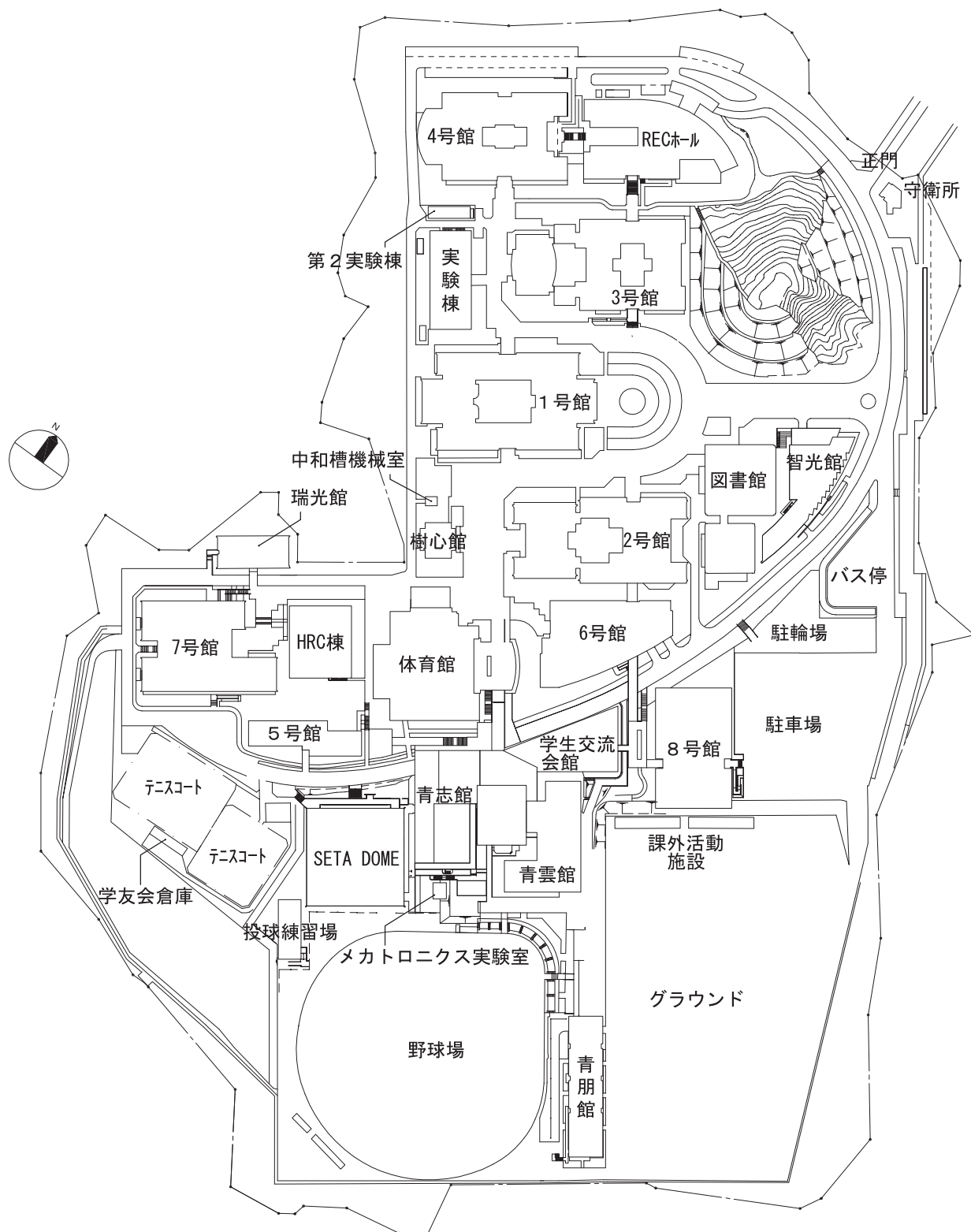
電話・FAXで現在診療中の医療機関をご案内するサービスです。

- 事前にメモのご用意をしておくと便利です。
- 案内を受けた病院・診療所に行かれる場合は、必ず電話で確認を行ってください。
- 重症の場合や命にかかわるような症状の場合は、救急車を要請してください。
- 一部のダイヤル式電話機では、ご利用になれない場合があります。



医療機関をお探しの地域	電話番号
大津市	077-525-3799
草津市、守山市、栗東市、野洲市	077-553-3799
甲賀市、湖南市	0748-62-3799
近江八幡市、東近江市（旧八日市市・永源寺町・五個荘町・能登川町・蒲生町）、蒲生郡	0748-23-3799
愛知郡、東近江市（旧湖東町・愛東町）	0749-45-3799
彦根市、犬上郡	0749-23-3799
長浜市、米原市、東浅井郡、伊香郡	0749-63-3799
高島市	0740-22-3799

龍谷大学瀬田学舎見取図



履修要項利用の手引き

学期はじめのQuestion

- ◆ 1年間のスケジュールはどこを読めばいいですか。
→ 学年暦
- ◆ 授業を受けるにあたって注意することはありますか。
→ P2：履修をはじめるにあたって
- ◆ 単位ってなんですか。
→ P3：単位制度と単位の認定
- ◆ 教養教育科目と固有科目、必修・選択・グループ必修・随意の違いってなんですか。
→ P24：教育課程の編成・履修方法
- ◆ 登録に際しての方法や注意することはありますか。
→ P8：履修登録
- ◆ 教職などの資格についてどこを読めばいいですか。
→ P65：諸課程等の履修方法
- ◆ 他学科の科目を受講するにはどうすればよいですか。
→ P58：他学科科目の履修について
- ◆ 大学コンソーシアム京都などの単位互換制度を受けるにはどうすればよいですか。
→ P59：単位互換制度について

学期途中のQuestion

- ◆ どのような場合に休講になるのですか。
→ P78：授業休止の取り扱い基準
- ◆ 証明書を発行するにはどうしたらよいですか。
→ P74：窓口事務
- ◆ 講義の内容が理解できず困っているのですが。
→ P17：教育支援
- ◆ 留学したいのですが。
→ P85：留学
- ◆ 休学について知りたいのですが。
→ P80：学籍の取り扱い

学期末のQuestion

- ◆ 成績の評価はどのようなになっているのですか。
→ P12：成績評価
- ◆ 定期試験等を受験する際に注意すべきことは何ですか。
→ P14：筆答試験
- ◆ 追試験について知りたいのですが。
→ P14：筆答試験
- ◆ 進級するためにはどのような要件があるのですか。
→ P38、P44、P50：固有科目の履修（卒業・進級の要件）
※入学年度により異なるため注意すること
- ◆ 過去問などを知りたいとき(数理情報学科)
→ <http://whale2.math.ryukoku.ac.jp> 参照（要パスワード）